

ISSN 1344 7920

名古屋大学医学部保健学科

教 育 ・ 研 究 年 報

第10卷



*Annual Report
of
Nagoya University School of Health Sciences*

2007

名古屋大学医学部保健学科

教育・研究年報

第十卷（二〇〇七）

目 次

1 . 各専攻の教育・研究活動.....	1
2 . 公開講座.....	21
3 . 業績.....	27
看護学専攻.....	29
放射線技術科学専攻.....	61
検査技術科学専攻.....	85
理学療法学専攻.....	111
作業療法学専攻.....	125

1 . 各専攻の教育・研究活動
(平成17年度)

看護学専攻

看護学専攻における教育の目標は、学部教育では看護専門職を総合的に理解し、教育・指導できる幅広い教養と知識を身につけた人材の育成である。看護学教育内容においては看護教育学や看護研究法を充実し、将来を担う教育・研究者の育成を目指している。大学院医学系研究科博士前期課程では、専門看護師認定制度も視野にいた高度専門職業人の育成、国際的視野で教育・研究できる実践活動の蓄積と修了後はさらに専門職として社会に寄与できる人材の育成を目標としている。さらに、博士後期課程では、教育・研究・実践活動で得た新規性を備えた創造的かつ先駆的な研究者の育成と様々な看護課題について多角的な問題解決法を看護モデルに基づいた視点と立場で解明できることを目指している。平成16年度より、国立大学法人における中部地区唯一の看護学博士前期・後期課程教育システムの大学としてその責務を果たすために、博士課程設置後は中・長期計画アクションプランとして、看護学専攻における重点課題（COE等）の明確化、看護学研究課題の共有化・明確化・独自性の確保、他専攻、他分野との合同研究（トータルヘルスプランナー育成など）を視野に入れた新たな研究プロジェクトの立ち上げを各教員の目標として取り組んでいる。

1. 運営

1) 教員の構成

本専攻は4講座（基礎看護学、臨床看護学、発達看護学、地域・在宅看護学）で構成、運営している。教員数は基礎看護学講座10名、臨床看護学講座8名、発達看護学講座9名、地域・在宅看護学講座8名の35名である。教育内容や教育方法の向上及び研究の活性化は教員の責務である。教育・研究の円滑な推進のために看護学専攻会議（教授と助教授）は定例で月1回開催し、教育に関連する諸課題や学生指導に関する諸問題、予算措置などについて検討している。また、効果的な実習を行うために附属病院看護部との専門委員会を年数回、また、地域看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域においても各実習施設との委員会を適宜開催、運営を行っている。

2. 教育活動

1) 学生について

平成18年3月、保健学科第4期生の卒業式が行われ、看護学専攻卒業生88名が社会人として巣立っていき、同年4月、新入生80名と編入生10名が入学した。更に、医学系研究科前期課程19名（基礎看護学分野6名、臨床看護学分野7名、発達看護学分野6名）が入学し、平成18年3月には16名の修了生を送り出した。同時に平成18年度後期課程7名（健康障害看護学分野2名、健康発達看護学分野5名）入学した。

2) ガイダンスについて

平成18年4月3～7日に、学部新入生（1年、編入生）および新2～4年生に対してガイダンスを行った。ガイダンスの内容は学習関係、学生生活および諸手続、図書・情報関係などである。同様に、大学院前期・後期新入生に対しては入学式後に学修関係、図書・情報関係についてガイダンスを行い、その後教員や在学生を交えて意見交換会を行った。

3) 新入生合宿研修

新入生に対する合宿研修は4月22日（土）～23日（日）の期間に愛知県青年の家（岡崎市）において実施し、新1年生、編入3年生、上級生、合宿担当教員等が参加した。合宿を契機に教員や上級生と交流をもち、看護学に関する事柄や学生生活での内容について意見交換や質疑応答を行った。

4) 感染対策

看護学専攻として専攻内感染対策委員を中心に学生ガイダンスをはじめとして、感染予防における検査やワクチン接種等の指導・実践を行っている。また、実習における感染予防対策についても、看護部や病院の感染対策窓口と有機的連携のもと、感染予防に努めている。

5) 博士前期課程（平成18年4月～平成19年3月まで）

平成18年度は16名が修士論文を提出し、修士の学位を取得した。以下に学生名と論文題目を記す。

氏名	修士論文テーマ
櫻井 志保美	在宅療養を支える主介護者の睡眠習慣と心血管疾患リスクの関連についての研究
高橋 由紀	出生直後の気道吸引が健康な正期産児に及ぼす影響に関する研究
井平 稚恵	文献にみる成人人体肝移植ドナー研究の現状
左合 伸枝	精神疾患を持つ患者を看護する女性看護師の感情労働のプロセス
澤井 美穂	臨床実践におけるホスピスケア認定看護師の役割認識
祖父江 正代	ストーマケアにおける患者と看護師間の相互行為と自己適応との関連性
光行 多佳子	緩和ケア病棟のがん患者参加による「痛み計」の効果に関する検討
山中 愛子	アロママッサージによる終末期がん患者と看護師の内的相互作用とその効果
安藤 映梨子	神経難病在宅療養者の QOL と活動性および地域における社会資源利用との関係
石河 真紀	思春期にある先天性心疾患患児の学校生活における自己開示とソーシャルサポートおよび自尊感情の関連
金指 智子	産後の継続支援に関する研究 - 新生児訪問申込書を活用した効果から -
茂本 咲子	母親が認識する乳児の状態と育児困難感の特徴とその関連 - 低出生体重児と健康児の比較より -
武内 さやか	地域の要介護高齢者のもつ転倒恐怖感と閉じこもり・社会参加との関連
西田 友子	成人女性の痩せとリンパ球数との関連
古田 恵香	双子の母親の愛着感情の偏りに関する関連要因 - 出生後早期のケア, 児の年齢, 家族機能を中心に -
渡邊 春香	外来通院中の小児がんを経験した思春期の子どもたちの学校生活におけるストレスと対処行動

6) 博士後期課程 (平成18年4月～平成19年3月まで)

博士後期課程完成に向けて、院生が研究に取り組んでいる。平成19年3月には1期生2名が修了している。

氏名	博士論文テーマ
井口 弘子	入院患者がとらえる情報プライバシー測定尺度開発の試み - 患者情報共有の内容と範囲に着目して -
山田 知子	医療従事者との協働に関する思春期喘息児の認識

3. 研究活動

以下に現在取り組んでいる研究課題を講座別に一部を紹介する。

《基礎看護学》

太田 勝正 教授	患者情報の共有における情報プライバシーの問題
河津 芳子 教授	教育評価に関する研究
後藤 節子 教授	周産期の精神的健康支援に関する文理複合研究 (プロジェクト) 不定愁訴をきたす病態への生理学的アプローチ
山内 豊明 教授	看護におけるフィジカルアセスメント教育に関するアウトカム評価研究 医療チューブ類事故防止対策に関する学際的探索研究 医療事故防止のためのヒヤリ・ハット事例の定量的分析に関する研究 難病訪問看護実践に必要とされるアセスメント技能に関する研究
神里みどり 助教授	炎症性腸疾患患者の保健・医療・福祉ニーズの現況
河野 由理 助教授	精神看護学や精神保健学に関連する研究
藤井 徹也 助教授	看護技術教育における専門基礎知識に関する研究 看護技術の検証に関する研究
相原 優子 助手	がん医療における補完・代替療法の活用状況 基礎看護学実習における看護学生の学びに関する研究
佐伯 香織 助手	温電法の効果に関する研究

新實夕香理 助 手：患者情報プライバシーに関する研究

《臨床看護学》

安藤 詳子 教 授：緩和ケア病棟・緩和チーム・在宅ホスピスに関連する研究、がんの集学的治療及び高度先端医療における看護に関連する研究

池松 裕子 教 授：心タンポナーデ患者の Dysphoria について

水 溪 雅子 教 授：看護師の看護活動における感情に関する研究
総合失調症の2人の息子を持つ家族システム面接の試みと課題

横内 光子 助教授：救急看護、周手術期看護、災害看護に関するケアの方法論

堀 容子 助教授：高血圧と生活習慣に関する研究
高血圧の疾患管理に関する研究

澤井 美穂 助 手：ホスピスケアに関連する研究

竹井 留美 助 手：ストーマ保有者とその家族に関する研究

永井 邦芳 助 手：精神障がい者家族に関する研究

《発達看護学》

浅野みどり 教 授：アレルギー児と家族の QOL 向上プロジェクト；思春期児のライフスキル開発
広汎性発達障害の子どもを養育する家族の家族プロセスと QOL

鈴木 和代 教 授：出生直後のカンガルーケアにおける母子の安全なポジションの検討

奈良間美保 教 授：在宅療養児の包括的看護の確立にむけたコーディネーター育成プログラムの開発

濱松加寸子 助教授：市民主導型の地域づくりにむけての総合的な調査・研究 地域医療・看護、地域福祉を含ま
ちづくりの構築

立岡 弓子 助教授：女性のドメスティックバイオレンスに関する研究

高橋 由紀 助 手：出生直後の気道吸引が健康な正期産児に及ぼす影響に関する研究

清水三紀子 助 手：妊産婦のエンパワーメントを刺激する出産準備教育に関する研究

村上 泰子 助 手：小児がんの子ども・家族と看護師の関係性の研究

山口 香苗 助 手：断乳が母子に及ぼす影響

《地域・在宅看護学》

梶田 悦子 教 授：地域高齢者の大腿骨頸部骨折予防のための地域看護モデルの構築
エビデンスに基づいた骨粗鬆症予防対策の有効性評価

榊原 久孝 教 授：生活習慣病予防支援プログラムの開発
肥満と産業ストレスとに関する研究
生活習慣病予防の保健活動に関する研究

平井 真理 教 授：在宅医療におけるインターネット活用に関する研究
- インターネット対応心電計による伝送心電図等の応用 -

前川 厚子 教 授：ストーマ保有者のスキンケアと生きる意欲の研究
炎症性腸疾患患者の生活・福祉ニーズと QOL 関連要因
ストーマ保有者の自己適応尺度英語バージョン開発と日英比較研究

吉田久美子 助教授：子ども虐待予防ネットワーク構築の検討

桜井志保美 助 手：NPO による睡眠に関する地域保健活動

藤井 千恵 助 手：子どもの生活習慣病と保健対策に関する研究

江藤 真紀 助 手：地域高齢者の転倒予防に関する研究

4．対外的な活動

1) 附属病院看護部との関係

教員による臨床指導者研修講師を派遣し、有機的な連携をはかっている。

ユニフィケーション委員会

看護の質の向上推進のため、看護部との円滑な協力関係をはかることを目的に、主任および基礎看護、臨床看護、発達看護、地域在宅看護各講座長、看護部からは看護部長、教育担当副看護部長、実習調整師長等が中心となり、月1回の委員会をもっている。

主な内容は病院における効果的な実習体制や方法、学生実習に対する感染対策、就職に関連すること等である。

実習委員会

実習全般に関する事項を取り扱い、学内外の調整を行っている。また、感染対策委員と協力して、学生の感染対策を強化するとともに、「事故発生時の対応経路」「事故、ヒヤリ・ハット報告書」の検討などを進め、事故対策の整備をすすめた。最近では個人情報保護に関連して検討を加えている。

2) 日本看護系大学協議会開催の研修会への出席

日本看護系協議会総会、看護教育ワークショップに看護教員が持ち回りで参加した。

6. 今後に向けての課題

1) 名古屋大学法人の一員として保健学科看護学専攻の果たす役割と自覚を新たにする。

2) 看護学博士前期・後期課程一貫教育の下に、新たな時代にふさわしい人材の育成と名古屋大学ブランドにおける新規性、独自性に富む研究成果を生み出す。

3) そのためには、看護学専攻全体が志を一つとして教育研究体制の大幅な改善を図っていきたい。

(主任：前川厚子)

放射線技術科学専攻

はじめに

放射線技術科学専攻、並びに、大学院医学系研究科・医療技術学専攻・医用量子科学分野における教育と研究の目標は、医療現場で使われている放射線を利用した種々の医療機器の原理や特性をよく理解し、その能力を最大限引き出すとともに、診断画像からの確かな情報を取り出したり、治療のため人体に的確に放射線を照射したり、また、医療放射線が人体に及ぼすかも知れない影響についての幅広い知識と応用力、専門知識ばかりでなく豊かな人間性を合わせ持つ人材の育成、また、これらの人々を指導していく人材の育成である。一方、研究活動を通しては、将来、医療技術者、研究者、教育者として、日進月歩する医療分野の進歩を理解し、それに適応できるばかりでなく、自ら医療の進歩を創生することが出来る科学者の育成を教育・研究の目標としている。

1. 運営

放射線技術科学専攻（大学院医学系研究科・医療技術学専攻・医用量子科学分野を含む）は、基礎放射線技術学講座と医用放射線技術学講座の2つの講座より構成されている。教育・研究の目標を達成するためには専攻の運営が必要であるが、教育に関するさまざまな問題、教育研究費の予算配分等の運営は、専攻を単位とした毎月1回の専攻会議、並びに専攻教授会の合議に基づいて行われている。

2. 教育活動

学部教育：

平成18年度の新入学生は、新1年生が44名、3年次編入者は5名であった。2年生は40名、3年生は46名（編入生5名を含む）、4年生は42名（編入生6名を含む）で、4年生は12名の教員のもと、それぞれの研究室で卒業研究を行った。また、3年生以下の学生も、12名の教員が指導教員となり、勉学、生活の両面で指導を行っている。

診療放射線技師国家試験は卒業生35名が受験し、そのうち34名（97.1%）が合格した。編入生を含む卒業生42名の進路は、医療機関に28名、企業に6名、大学院進学が8名であった。

学部教育は、専任教員による授業の他に、非常勤講師を招いた特別講義、臨床実習、臨床現場の見学（名古屋大学医学部附属病院をはじめ、学生の出身地や学生の希望就職病院など）、放射線管理に関連して原子力発電所の見学（中部電力浜岡原子力発電所）など、将来、医療あるいは生産現場で役に立つと思われる教育活動が行われている。

大学院教育：

平成14年に大学院医学系研究科・医療技術学専攻が創設されたが、平成18年度は、博士課程前期課程1年10名、2年10名、博士課程後期課程1年7名、2年5名、3年4名の計36名であった。前期課程の最終年度にあたる学生10名が修士論文を提出し、修士の学位を取得した。以下、学生名と修士論文題目を記す。

石川 陽子	ウェーブレット収縮を用いた X 線 CT 画像のノイズ低減に関する研究
角谷 倫之	チェレンコフ光による computed tomography の可能性について～実験と EGS による検討～
塩田 泰生	放射線治療における線量分布測定において使用される変動補正用検出器の影響の EGS 4 による検討
瀬口 繁信	人体ファントム線量計測に基づいた冠動脈造影と冠動脈インターベンション術における患者の被ばく線量評価
坪内 隆将	8 列マルチスライス CT による肝多相造影検査の造影効果と CT angiography の画質評価
藤井 啓輔	The evaluation of organ and effective doses for paediatric and adult patients in CT examinations based on the dosimetry within anthropomorphic phantoms
ト蔵 公紀	低磁場脳外科術中用 MRI における拡散強調画像の有用性
牧野 玲子	ウェーブレット解析を用いた CT 画像の雑音除去に関する検討
山尾 覚一	甲状腺超音波診断基準の有効性に関する研究

吉川 真代 EGS4を用いた吸収線量の最大深の照射野サイズに対する変化の分析

後期課程の最終学年にあたる4名のうち、3名は博士論文を提出し、博士の学位を取得した。以下、学生名と博士論文題目を記す。

新美 孝永 医用画像の視覚認知とその顔面評価に関する研究

佐々木 浩二 積み上げ型補償フィルタを用いた強度変調放射線治療 (IMRT: Intensity modulated radiotherapy) に関する基礎的研究

安田 成臣 医用X線CT画像の画質改善を目的とした画像処理に関する研究

3. 研究活動

当専攻の教官は幅広い専門分野を研究領域としているため、個々の教官が独自の研究活動を行っている。一部にグループによる研究活動、専攻以外との共同の研究活動も行っている。以下には各教官の研究領域を示し、外部と協力して実施している研究活動の一部を示す。

青山 隆彦 教授: 医療放射線による被ばく線量計測システムの開発。医療放射線による被ばく線量の測定・評価。

池田 充 准教授: モニタ診断精度に対するモニタの解像度の影響に関する研究。胸部単純X線画像における結節の検出能に対する「解剖学的雑音」の影響に関する研究。コンピュータ診断支援システムに対する画像撮影系の特性と雑音が与える影響に関する研究。ROC解析の手法に関する研究。

石博 信人 教授: PET施設における職業被ばくの実態とその低減法。内部被ばく線量評価手法の開発:(a)体外計測装置の校正方法、(b)摂取された放射性核種の体内挙動の計算シミュレーション。

伊藤 茂樹 教授: マルチスライスCTを用いた画像診断技法の開発とその臨床応用。腹部(特に肝胆膵領域)の画像診断。胸部(特に肺癌)の画像診断。心血管系の画像診断。vascular interventional radiology.

今井 國治 助教(学内講師): 数理統計学及び情報理論を用いたCADのための画質評価法の構築。高電圧下における誘電・絶縁材料の放電劣化・破壊現象に関する研究。

緒方 良至 助教: 水素同位体分離に関する研究。環境放射線の測定-特に環境レベルのトリチウムの測定に関する研究。放射線取扱施設の安全管理に関する研究。

小幡 康範 教授: 原体照射法。生物学的線量評価法・治療領域線量測定法

川浦 稚代 助教(学内講師): 人体ファントム計測システムを用いた医療被ばくの測定・評価。放射線が生体へ及ぼす影響に関する研究。線虫の動態解析システムの開発。線虫を用いた放射線の生物影響評価に関する研究。

小寺 吉衛 教授: 医用画像の評価法の開発。検出器、表示系を含む医用画像の解析・評価。画質の向上と被曝線量の低減を目的としたデジタル画像処理。3次元画像表示システムの開発。

小林 嘉雄 准教授: コンピュータ画像診断支援。

小山 修司 講師: 診断領域X線の計測法の研究。医学における知能情報学の応用。X線CTの患者・術者の被ばく線量計測。診断領域X線のエネルギー計測。マンモグラフィにおける線量計測。

島本 佳寿広 教授: 乳腺・甲状腺の画像診断における、特に超音波による悪性腫瘍の診断に関する研究。フィルムレス読影の診断能に与える因子を明らかにし、診断能に悪影響を与えないモニタの基準、読影環境、端末の操作性等を確立する研究。画像診断をすすめる際の診断論理過程を明らかにするとともに、診断医の判断の再現性と一致度を解析することにより、その診断論理の妥当性を検証する研究。

田伏 勝義 教授: 放射線治療における線量測定。放射線治療の最適照射法・チェレンコフ光の測定への影響。モンテカルロシミュレーションによる線量計算。

津坂昌利 准教授：診断用 X 線スペクトル測定とその応用に関する研究。IT 活用による医療技術者教育システムの開発。高速画像ネットワークの技術開発と応用。X 線 CT の性能評価に関する研究。CT 画像を用いた診断支援システムの開発。暗号化通信技術の遠隔医療への応用。

成田憲彦 助 手：骨密度測定に関する研究。放射線被ばく線量評価に関する研究。

本間光彦 助 教：放射線治療領域における放射線計測法に関する研究。CR の応用利用法。人体解剖実習前の X 線撮影に関する研究。放射線カウンセリング。

前田尚利 教 授：医用画像観察下における医療従事者の視覚特性の解析とこれを応用した画像評価法の構築。核医学的手法を用いた心臓の収縮の解析。正常および異常な収縮運動をする心臓のファントムの作成。

4. 対外的な、または社会に関わりある活動

- 1) 国際放射線防護委員会 (ICRP) 第 2 専門委員会委員および内部被ばく線量評価に関するタスクグループ「INDOS」委員として、カシ(仏)での ICRP 第 2 専門委員会会議、チルトン(英)での INDOS 2006 年会議に出席する等、放射線防護に関する新しい基本勧告の策定ならびに第 2 専門委員会の刊行物の原稿執筆に専門家の立場から参画した(石樽)。
- 2) 経済産業省原子力安全・保安院総合資源エネルギー調査会臨時委員として、経済産業大臣より当調査会への「今後の原子力安全確保及び電力の保安のあり方」に関する諮問についての審議に参画した(石樽)。
- 3) 放射線医学総合研究所物理学的線量評価ネットワーク会議委員として、原子力災害・放射線被ばく事故時における国としての迅速な線量評価体制の整備および技術上の指針に関する審議に内部被ばく線量評価の専門家の立場から参画した(石樽)。
- 4) 放射線影響協会セミパラチンスク健康影響調査委員会線量評価ワーキンググループ委員として、カザフスタン共和国セミパラチンスク旧ソ連核実験場周辺地域住民の被ばく線量の推定に関する技術的評価ならびに指導助言に専門家の立場から参画した(石樽)。
- 5) 平成18年8月17日(木)、愛知・岐阜・三重地区エネルギー・環境・放射線セミナー(四日市)で、セミナーの実行委員として企画・運営に関わるとともに、セミナーでの実験(霧箱、はかる君)の講師を担当した(緒方)。
- 6) 平成19年3月10日(土)、日本原子力文化振興財団が企画する高校生のための放射線実習セミナー(静岡県立浜松西高校)で放射線と放射能に関する講演を行うとともに、放射線計測実験の実験指導を行った(緒方)。
- 7) 平成19年3月16日(金)、日本アイソトープ協会主催の放射線取扱主任者定期講習で使用施設等の安全管理に関する課目の講義を担当した(緒方)。
- 8) 平成15年5月～平成19年3月、日本保健物理学会企画委員会委員として学会のシンポジウム・セミナー企画、研究専門委員会活動などに参画した(緒方)。
- 9) 平成18年4月より、日本医学放射線学会乳房撮影小委員会の委員として、乳癌のモニタ診断の臨床的安全性の検討、超音波による乳癌検診の精度管理の具体的な基準策定に参画した(島本、小寺)。

(主任：島本佳寿広)

検査技術科学専攻・病態解析分野

本専攻は、高度に専門化した医療に対応できる基礎力と応用力を備え、かつ医療人として不可欠な倫理観に裏付けられた豊かな人間性を備えた臨床検査技師、さらに検査技術科学を学問として追及する教育・研究者を育成することを目的としている。病態解析分野は、環境病因解析学、病態化学解析学、病因病態解析学、生体生理解析学、形態情報解析学、分子病態解析学の6領域からなり、先端的の研究、学際的な病態解析、技術開発を進めるとともに、先端医学につながる病態解析科学研究を遂行できる能力の育成、指導的立場に立つのに必要な高度な専門知識・技術を有する人材を育成することを目的としている。平成18年4月大学院医学系研究科博士課程医療技術学専攻病態解析学分野には、21名の第5期前期課程大学院生を、1名の第3期後期課程大学院生を迎えることができた。

1. 学部構成・運営

本専攻は2つの大講座によって構成されているが、講座の壁をなくし、専攻が一丸となって運営している。

- (1) 基礎検査学講座：人体から得られる、あらゆる情報を分析・整理・総合して、健康状態や病的状態を把握するために、生体情報修得のためのハードウェアおよび情報処理のソフトウェア、生体情報取得のための管理・運営と精度管理の方法、疾病発症に関連する宿主・環境リスクの疫学的評価方法等、科学的根拠の提供に必要な基礎知識および技術について教育・研究を行う。
- (2) 病因・病態検査学講座：生体情報の基礎的理解に基づき、病原体および病因を病原体側と宿主反応側から検索する方法、形態変化としての情報を認識する方法、生理機能の変化を情報として記録・認識する方法、体液・分泌物・排泄物等の検体物中微量物質の変化を主として化学的・物理的に情報化する等、病的状態の把握や病因の解析に必要な知識および技術について教育・研究を行う。

専攻の運営は全教員が参加する専攻会議の決定に従って行われた。専攻会議は第1と第2水曜日の12時および第4水曜日の17時から開催された。

2. 教育

- 1) 4月に第9期の入学生41名(推薦入学生14名、前期日程入学生20名、後期日程入学生7名)を迎えた。
- 2) 4月の新入生ガイダンスには専攻主任、学生生活委員、教育委員と1年生全員が参加し、専攻の教育と学生生活のガイダンス、教員の紹介、指導教員の紹介、学生の自己紹介などが行われた。
- 3) 4月の第7期編入生(入学生5名)ガイダンスには専攻主任、学生生活委員、教育委員が教育と学生生活、教員紹介、研究室紹介、研究指導教員などについて説明した。
- 4) 4月には検査技術科学専攻の2年生が中心になって教員と共に新入生歓迎会を大幸厚生会館にて開催した。
- 5) 8月31日に第6回大学院医学系研究科医療技術学専攻病態解析学分野(博士前期課程)の入学試験を実施し、15名の合格者を決定した。また、9月1日には第4回の大学院同(博士後期課程)の入学試験を実施し、4名の合格者を決定した。
- 6) 8月に第8回の3年次編入試験を行い、5名の合格者を決定した。
- 7) 4月に第6期生の臨地実習を充実させることを目的に医学部附属病院検査部の教員および技師との合同会議(臨床検査専門委員会)を開催した(今年度は10月に検査部の大半が新棟に引っ越すため、臨地実習を5/29~7/21に繰り上げて実施した)。
- 8) 平成19年3月には本専攻の第6期生の卒業生として、編入生を含め42名を社会に輩出した。そのうち15名が大学院博士前期課程(そのうち2名が神戸大学大学院、名古屋大学大学院医科学修士課程)へ進学し、就職希望の26名は主に国公立大学病院、公私立病院等の検査部に就職し、就職率はほぼ100%であった。なお、1名は就職を希望しなかった。
- 9) 第6期生の第53回臨床検査技師国家試験(平成19年3月2日)の合格率を上げるために、全教員による教育指導と3回の模擬試験を実施した。6期生の第53回臨床検査技師国家試験合格率は97.4%であった。

3. 研究

本専攻では保健学科設立後、大学院修士課程ならびに博士課程設置に向けて各系独立型および融合型の研究体制を構築し、研究設備とスタッフの充実に重点を置き、大学院博士課程病態解析学分野への大学院生の受け入れ体制を整備してきた。平成18年4月5日に21名の博士前期課程第5期生を迎え、研究活動がますます活発になり、国際学術雑誌への投稿論文数と国際学会への発表演題数が増加してきた。また第3期博士後期課程に1名を迎えることができ、さらに高度な研究活動の継続が可能となった。その成果の1つが9月17日、8名のD3院生による第1回大学院医療技術学専攻病態解析学分野博士後期課程研究発表会（予備審査会）である。また平成19年1月13日には過去に修了した院生の要望もあり、第1回の病態解析学分野博士前期課程研究発表会（いわゆる修論発表会）を開催し、前期課程・第4期生19名中17名が発表した（なお、2名の社会人大学院生は病院職務の関係で発表できなかった）。

学部関係では11月25日に第6期生による卒業研究発表が開催された。以下に各講座における卒業研究発表内容を示す。

【免疫・微生物系（病因病態解析学）】

担当教員：長瀬文彦、伊藤秀郎、川部勤、川村久美子

1. 臨床分離 MRSA における消毒薬耐性遺伝子の保有調査とその意義
2. Low level methicillin resistant Staphylococcus aureus 検出のための測定法の評価
3. 骨髄由来 樹状細胞における indoleamine 2,3-dioxygenase、誘導型 NO 合成酵素、ヘムオキシゲナーゼ - 1 の相互作用
4. ヒト単球 THP-1 細胞における indoleamine 2,3-dioxygenase 活性のヘムオキシゲナーゼ - 1 による抑制
5. Indoleamine 2,3 dioxygenase とヘムオキシゲナーゼ - 1 によるヒト単球 THP-1 細胞の増殖抑制

【病理系（形態情報解析学）】

担当教員：横井豊治、橋本克訓

1. 胸膜悪性中皮腫・胸膜中皮過形成・肺腺癌の鑑別診断における免疫組織化学および形態計測の有用性の検討
2. 早期胃癌における脈管侵襲、細胞異型、p53、Ki 67の発現の関連の検討

【生理系（生体生理解析学）】

担当教員：古池保雄、永田浩三、野田明子

1. 食塩感受性高血圧ラットにおける運動療法と ACE 阻害薬の心不全に対する効果の検討
2. 心疾患患者における睡眠時呼吸障害のスクリーニング
3. 皮膚血管拡張性神経の存在
4. 心筋虚血診断における心内膜心筋 Strain imaging 法の有用性
5. 標準12誘導心電図所見と心内膜心筋 Strain・Strain rate との関係
6. 3次元心エコー法による健常人における運動負荷時の左心機能評価

【血液系（分子病態解析学）】

担当教員：村手隆、小嶋哲人、高木明

1. WT 1 発現調節機序の解析
2. パーキンソン様病態モデルにおける Apoptosis 関連タンパク群およびスフィンゴ脂質関連酵素の変動
3. 癌遺伝子 H ras による PLD 発現調節機序の解明に向けて
4. NSMase 2 のプロモーター領域のクローニングと発現調節機序の解明
5. 遺伝性出血性末梢血管拡張症（オスラー病）症例の遺伝子解析
6. 先天性アンチトロンピン欠損症一家系の分子病態解析
7. 先天性プロテイン C・プロテイン S 合併欠損症を疑われた症例の遺伝子解析

【分析系（病態化学解析学・環境病因解析学）】

担当教員：高木健三、涌澤伸哉、高木健次、近藤高明、上山純

1. 有機リン系殺虫剤が及ぼすストレプトゾトシン誘発性糖尿病モデルラットへの影響
2. II型糖尿病モデルラットにおける有機リン系殺虫剤が及ぼす影響
3. 尿中殺虫剤代謝産物量を指標とした職業性の殺虫剤曝露評価に関する検討

- 4 . 抗癌剤投与に伴う Multidrug Resistance 1 mRNA 過剰発現の制御法検討
- 5 . Streptozotocin 誘発性糖尿病モデルラットにおける P glycoprotein の発現誘導
- 6 . 日本人のヘモクロマトーシスにおける遺伝子変異解析
- 7 . 健常成人集団での血中 polyamine 値の特性 - metabolic risk factor との関連 -
- 8 . 健常成人集団での血中 polyamine 値の特性 - ornithine decarboxylase 遺伝子型との関連 -
- 9 . フラボノイドの抗アレルギー作用における抗炎症酵素の役割
- 10 . 肥満細胞におけるケンフェロールの抗アレルギー作用の検討

10) 対外的な、または社会と関わりのある活動

A) 国際交流

村手隆教授は平成18年5月に第2回大山スフィンゴセラピー研究会(大山、島根県)に参加して2演題のポスター発表を行った。平成18年9月には47th International Conference on the Bioscience of lipids (Pecs, Hungary)に参加し共同演者として3演題のポスター発表を行い最新の学術情報収集を行った。

B) 大学間交流 国立大学臨床検査技師教育協議会 -

平成18年度は新潟大学医学部保健学科を会長校として、6月9日(金)に第43回国立大学臨床検査技師教育協議会が開催された(出席者:伊藤秀郎教授)。主な議題:1)国家試験問題基準検討委員会の活動と今後の方針について、2)学生に対する感染予防策に関するアンケート調査実施について、3)全国臨床検査技師教育協議会の部会構成を専修学校・短期大学部会、大学部会、大学院部会とすることについて、4)大学院修士課程修了以上の知識・技能を有する臨床検査技師に新たな認定称号を付与することを検討する研究会を全国臨床検査技師教育協議会内に設置することについて、5)今後の大学院の教育目標についてについて審議した。

C) 地域との連携

古池保雄教授は、野田助教とともに平成11年から睡眠外来を継続し、学会認定技師の資格取得を可能にするべく、本学の検査技術科学の教育研究の向上への努力を継続している。

また、東海地区の検査技師技術向上を目指して脳波検討会(中部脳波検討会)を毎月定期的で開催しており、さらに、主にてんかん学を対象とする「名古屋臨床脳波検討会」、睡眠学を対象とする「東海睡眠障害研究会」、パーキンソン病研究会である「東海パーキンソン病研究会」、自律神経疾患研究会である「自律神経懇話会」などの研究会継続に努力している。

高木健三教授は、愛知・岐阜在宅酸素療法研究会の会長として、東海喘息研究会および愛知成人喘息研究会の代表世話人として、呼吸器・アレルギー領域の東海地区における医師、医療従事者の卒後教育の一端を担った。また、日本アレルギー協会理事(東海支部長)として、東海4県のアレルギー週間行事を統括するなど地域社会への啓発活動を積極的に推進している。

伊藤秀郎教授は、平成18年度も名古屋市内の総合病院微生物検査室との共同研究で院内感染起因菌の薬剤耐性遺伝子の保有調査と消毒薬耐性遺伝子について調査研究した。その成果は院内感染防止対策に有効に利用された。

村手 隆教授は、愛知県特定疾患認定審査会議委員として申請書類の審査に関わった。

横井豊治教授は、専門である呼吸器疾患の病理診断学の知識と経験を生かし、東海地区を中心とする多数の医療施設より、呼吸器疾患を中心に病理診断のコンサルテーションを受け入れている。平成18年度は 約40例の症例を検討・報告し、各施設における呼吸器領域の診療・研究に貢献した。また、第4回名古屋呼吸器領域卒後専門教育セミナーにおいて、びまん性肺疾患の病理についての講演を行い、東海地区の呼吸器内科若手医師の育成に貢献した。また、日本臨床細胞学会東海連合会幹事として運営に携わり、平成18年3月には第25回日本臨床細胞学会東海連合会学術集会を会長として主催し、6月には同会主催の細胞診基礎講習会において、11月には岐阜県臨床衛生検査技師会主催の研修会において、呼吸器などの病理細胞診の講義を行い、東海地区における臨床検査技師、細胞検査士の育成、生涯教育に貢献した。

小嶋哲人教授は、医師、臨床検査技師を対象とする東海血栓症研究会、東海血栓症セミナーの世話人として、東海地区の幅広い血液凝固学領域研究の交流と促進活動を活発に行った。また、碧南市医師会医学研究会および検査技師

を主な対象者とする血液ネット臨床セミナーにて講演を行い、愛知県特定疾患研究協議会において血液凝固異常症調査研究を行った。さらに、日本臨床血液学会の中部地区幹事として活動した。

高木健次准教授は、名古屋市を中心とした愛知県下にある殺虫剤、殺鼠剤、シロアリ防除剤などの薬剤を取り扱う作業員集団の薬剤曝露による健康影響の調査研究を平成18年8月に行った。その内容は健康診断および散布作業の頻度、作業に関わる自覚症状等の問診を行い、また併せて尿中の有機リン代謝物を測定し散布作業時における曝露評価の検討をした。本調査研究の対象としては、中小零細事業所の作業員であり、本研究が中小企業の産業保健のあり方及び労働衛生管理において有用な成果を提供しているものと考え。愛知県地区を中心とした医療従事者（理学療法士）を対象として「臨床検査の基礎知識」と題して、平成18年8月に、生化学的側面からの基礎的な内容で教育講演をし、医療職に従事されている方々の卒後教育の一旦を担った。

近藤高明准教授は、犬山市健康プラン推進委員会の学識者委員として健康増進法にもとづき策定された犬山市保健計画の実施に対して助言を行ってきたが、平成19年度が10年計画の中間評価年であるため、評価委員長として委託を請け評価の準備に取りかかっていた。また愛知県職員の健康管理アドバイザーの一員として、健診結果で血中脂質代謝異常が指摘された職員を対象とする健康教室で2回（8月と3月）の講演を行った。専門の疫学分野では、愛知県内の防虫作業従事者を対象とした撒布作業に関連する健康調査を兼ねて年に2回（8月と2月）実施されている特殊検診に調査員として参加した。さらに北海道八雲町での住民健診の機会を利用した生活習慣病リスク調査を行うためのフィールド調査に参加し、その結果を学術的にまとめるとともに地域住民の健康増進に還元した。民間衛生施設を利用した健康づくりの実践も開始し、犬山市内のスーパーマーケット店内スペースを利用して、来店される地域住民のための2日間にわたる健康増進イベントを企画し、多数の参加者を得た。この実践は同様のイベントを関東地域で実践している研究者と共同で行っており、産学連携の新しい試みとして発展している。学内においては、大幸医療センターを利用した地域住民のための自由診療外来を担っており、ピロリ菌検査と希望者に対する除菌治療を行い、除菌薬代謝酵素に関連する遺伝子多型の判定結果を用いた除菌効果の向上に努めている。さらに葉酸の代謝酵素に関する遺伝子多型の検査も行っており、その結果を用いた神経管欠損などの出生異常の予防に向けての保健指導に役立っている。またライフトピア研究会に専攻代表委員として定期的に出席し、ライフトピア連携地域支援研究センター構想の実現に向けて、大幸地区寄付講座や愛知県健康福祉部からの代表委員と検討を重ねた。対外広報活動としては専攻ネットワーク委員として、広報担当の上山とともに専攻ホームページの管理・更新業務を分担した。

永田浩三准教授は平成18年5月にHeart Failure Forum in Nagoyaにおいて医師を初めとする医療従事者を対象として「肥大心の病態」と題する講演を行い、医療従事者の卒後教育の一端を担った。平成18年7月に第12回日本心臓リハビリテーション学会のランチョンセミナーにて新世代カルシウム拮抗薬の新たな可能性に関する講演を行い、医療従事者の卒後教育の一端を担った。平成18年10月に行われた第21回国際高血圧学会（福岡）およびその後の国際シンポジウム（名古屋、東京）において国内外の医師を対象としてミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の心血管効果に関する講演を行い、啓蒙に努めた。平成18年11月にアルドステロンを考える会において医師を対象として抗アルドステロン薬の心保護効果の分子メカニズムに関する講演を行い、医療従事者の卒後教育の一端を担った。平成19年3月に第1回国際心筋症心不全学会において国内外の医師を対象としてカルシウム拮抗薬の心保護効果に関する講演を行い、啓蒙に努めた。

C) その他

伊藤秀郎教授の担当する病因検査技術開発法Ⅰが、週刊文春・2006年3月30日号の“人気大学講座”アンケート「現役学生2,000人が選んだ“面白い、自慢の講義”の国公立篇」に取り上げられた。

また、伊藤秀郎教授は「名古屋大学プロフィール2006」のP.17の「教育」の項で“大切なのは、壁を乗り越える力を学生時代に育むこと”と述べている。

（主任：古池保雄）

理学療法学専攻

1) 前文

本専攻の教育・研究目標は、高度医療・技術を支える豊かな人間性の形成を基本とし、理学療法に必要な基礎・臨床医学的知識を身体機能と障害の観点から再編して体系化し、機能と障害を生体の情報として分析・評価し、それらの回復や予防への科学的関連づけを可能にすることである。これにより新たな理学療法を理論的に構築し、より高度な知識と技術を身に付けた理学療法士を養成するとともに、最近必要性が高まりつつある健康医科学領域への道を拓き、さらに高齢社会に対応できるよう地域や高齢者に対する理学療法を強化する。さらには、理学療法研究を通じて理学療法学を実証的学問として確立し、医療の場、教育の場、地域において指導的役割を果たすことができる教育・研究者の養成を目指している。

本専攻は、東海地区では唯一の博士課程を有する理学療法士の教育・研究機関である。博士課程の専攻はリハビリテーション療法学専攻であり前期と後期課程からなる。前期課程は理学療法学分野と作業療法学分野に分かれるが、後期課程は2分野には分かれずリハビリテーション療法学専攻のみである。前期、後期課程とも大学院生が活発な研究活動を展開している。2007年3月には大学院医学研究科リハビリテーション療法学専攻・後期(博士)課程から初めての卒業生を送り出した。

2) 運営

本専攻は基礎理学療法学講座と病態理学療法学講座の2大講座から構成されているが、専攻運営は、講座の壁をはずし全教員(総数11名)による専攻会議(毎週水曜日12時から開催)における協議・決定にしたがい進められている。さらに、学部運営では関係の深い作業療法学専攻との両専攻会議(毎月第3水曜日)を行い、また大学院の運営に関しては関係教員によるリハビリテーション療法学教員会議(毎月第1水曜日)を行っている。

- (1) 基礎理学療法学講座：理学療法研究の基礎となる知識や技術を開発・発展させるための生体の構造と機能に関連づけた体系的な基礎教育、身体運動からみた人体機能の体系的教育、機能と障害に重点を置いた臨床医学実践の基盤となるような基礎(医学)教育、機能異常や障害を病態として把握し的確な分析・評価能力を培う教育を実践しつつ、それらを裏付けるための研究を推進している。
- (2) 病態理学療法学講座：理学療法の実践に必要な科学的知識と技術を発展させるため、経験や感覚に頼りがちな生体反応の認識を生体情報として定量的に評価すること、障害を機能的に分析し理学療法の適用との理論的関連を追求すること、またそれらを通して障害からの回復のための治療法・障害の予防方略などに科学性を持たせることを目標とし教育・研究を行っている。

これらの教育・研究を実践するため、全教員が基礎的テーマと臨床的テーマをできるだけ合わせ持つようにして、研究を推し進めている。

3) 教育活動

学部生としては、4月に保健学科理学療法学専攻第9期生として22名の学部学生を迎え入れた。選抜方法による内訳は、推薦入学6名、前期日程試験入学12名、後期日程試験入学4名、性別では男子学生12名、女子学生10名であった。大学院には、前期課程に8名(一般選抜5名)、後期課程に3名(作業と合わせると4名)が入学した。こうして、理学療法学専攻としての学生数は、1年生22名、2年生22名、3年生20名、4年生21名、大学院博士前期課程リハビリテーション療法学専攻理学療法学分野の1年生8名、2年生7名、後期課程のリハビリテーション療法学専攻理学療法学関係は1年生3名(一般選別1名、社会人特別選抜2名)、2年生4名(一般選別1名、社会人特別選抜3名)、3年生4名(一般選別2名、社会人特別選抜2名)となった。

新学期には5日(水)に入学式(午前)と大学院生ガイダンス(午後)、4月6日(木)に新入生ガイダンスと在校生(各学年)ガイダンスをおこなった。在校生ガイダンスでは、共通科目については理学療法学専攻・作業療法学両専攻合同で、専門科目については理学療法学専攻単独で、各学年別に1時間ずつを使い、本年度のカリキュラムの説明、学生生活のルールの再確認を行った。また、同日に作業療法学専攻と共同で、全教員との顔合わせと新入生に対して学

生生活のガイダンスを行った。これらにより、本専攻に所属する学部学生、大学院生のすべてに対して、カリキュラムの説明、学生生活のルールの説明・再確認がおこなわれた。説明は主任、教育委員、学生生活委員、授業担当教員が担当した。

4月15日(土)には、専攻内での新入生歓迎会を行った。新2年生が幹事となり、土曜日半日を使い、在校生、新入生、教員が全員参加し、全員の自己紹介、懇親会(大幸厚生会館)を通じて人間的交流・連携の強化を達成した。

4月中旬から臨床実習Ⅱ、Ⅲが始まる4年生に対し、各教員が臨床実習に必要な項目についての学内実習をおこない、4月24日(月)から実際の医療機関での臨床実習が始まった。この実習は各種疾患を観察し、臨床実習指導者のもとに基本的評価を実施することを目的としている。学生は多くの不安を抱きながら、実習先に向かったが、4週ごとの反省会で、種々の問題点などが指摘されながらも、全員無事この実習を終えることが出来た。昨年度から開始した臨床実習前の学内実習もあって、各学生とも実りの多い臨床実習を経験できたものと思われた。4年生は臨床実習から帰り6月23日(金)には地域理学療法学実習のガイダンスをおこなった。本実習は訪問理学療法の実際を見学できる貴重な実習である。6月1日(木)の名大祭第1日目の夕刻、保健学科別館中庭において、理学療法学・作業療法学両専攻の学生主催のパーベキューパーティーがおこなわれ学生間交流が図られた。

前期補講期間を用い、8月7日(月)~11日(金)の5日間、夏期特別実習(人体解剖実習)が開催され、理学・作業両専攻の多数の学生が参加した。医学部主催の人体解剖トレーニングセミナーで解剖されたご遺体が提供された。学生にとっては人体構造と機能の理解を深めるとともに、ご遺体に対する感謝の念を通して人の命の尊厳を考え、将来の医療人としてのあり方を考えるよい機会となった。

これまで8月下旬には毎年3年次編入試験があったが、本年度から廃止し、2年次編入試験に移行した。文部科学省の認可の都合上、本年度の編入試験は平成19年2月22日(木)に試験を行うこととなり、2名の合格者を出した。2年次編入制度は従来の3年次編入とは異なり、3年間で理学療法士国家試験の受験資格を与える教育制度である。国立大学としては初めての試みであるため、その成果は全国的な注目を集めることになる。8月31日(木)には平成19年度大学院博士前期課程、9月1日(金)には同、後期課程の入試を実施し、リハビリテーション療法学専攻博士前期課程理学療法学分野に10名(一般選抜9名、社会人特別選抜1名)、博士後期課程理学療法学関係に一般選抜1名が合格した。

9月27日(水)には博士後期課程の論文発表会が行われた。今年度は後期課程の完成年度であり、理学療法関係からは4名の学生が発表した。

また、9月27日(水)午後から平成18年度第1回大学院教育FDが開催され、高等教育センターより夏目達也教授の講演の後、法学研究科・松浦好治教授より教育改善の取り組みについて講演がなされた。その後、保健学科5専攻の各専攻教授から大学院教育の実践例について報告がなされた。専攻からは山田純生教授が「(臨床)研究マインド」を有する医療人の養成に取り組む」と称して専攻大学院活動について報告した。平成18年度第2回大学院FDは平成19年1月10日(水)に開催された。寶珠山稔教授の保健学科の大学院指導教員アンケートの報告と神戸大学医学部保健学科、宇佐美眞教授による「大学院研究の指導法 - 介入と自立性 - 」と称した講演が行われた。大学院FDは共に全保健学科教員の殆どが出席し、活発な質疑がなされた。

後期授業では4年生の卒業研究の後半部分が再開され、11月29日(水)に東館大講義室において最終発表会が開催された。23題の発表があり、教員ならびに在学生との活発な討論が交わされた。1、2年生にとっては将来の自身の研究の参考になったと思われる。また、3年生の卒業研究中間発表会は平成19年2月20日(火)に大学院講義室で行われた。合計22題の発表があり、1、2年生からの質問も多く、活発な発表会となった。中間発表会終了後に、3年生に対し大学院ガイダンスと就職ガイダンスがおこなわれた。

大学院では、平成19年2月15日(水)に作業療法学専攻を含むリハビリテーション療法学専攻理学療法分野(博士前期課程)2期生の修士論文ならびに博士後期課程博士論文発表会が東館大講義室で行われ、前者7題、後者1題、合計8題の発表があった。また、平成19年3月10日(土)には前期課程1年生(6期生)の中間報告会が東館大講義室で行われ、8題の発表があった。

3月4日(日)には理学療法士国家試験が施行され、本専攻学部平成18年度卒業生22名が受験し全員合格した。3月23日(金)には保健学科第6期生の卒業式が執り行われた。本専攻は22名の新卒業者を世に送り出した。そのうち15名

が病院に就職し、6名が大学院へ進学、その他1名であった。

4) 研究活動

前述の通り本専攻は、全教員が基礎的テーマと臨床的テーマを可及的に併せ持つように努力し、研究を進めている。各教員の研究テーマは、以下の通りである。

河村守雄 教授：実験的異所性骨化と関節運動および不動化の関係、骨形成因子の特性と臨床応用、脊髄損傷モデルマウスの病態、慢性腰痛症状保有者の再発予防対策

鈴木重行 教授：培養筋細胞を用いた機械的刺激の影響、筋ストレッチングと疼痛抑制法の臨床的効果、女性尿失禁に対するバイオフィードバック療法、糖尿病と関節拘縮モデルラットを用いた理学療法効果の検証

山田純生 教授：循環器疾患の運動介入・疾病管理、骨格筋パワーを用いた運動処方、運動習慣化を促進する指導方策、電気刺激療法と運動耐容能、運動中の換気様式に関する研究

鳥橋茂子 教授：マウス ES 細胞を用いた骨格筋形成機構の研究、間葉系幹細胞の研究、消化管の発生研究

木山喬博 助教授：治療用超音波の機械的効果の検証（皮膚、筋、血流への影響）

河上敬介 助教授：機械刺激に対する培養細胞の形態応答のメカニズムの解明、伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム、筋・筋膜連結の形態と臨床的意義

肥田朋子 助手：疼痛時の神経・筋機能の解析、物理的刺激に対する神経・筋の応答

石田和人 助手：脳出血モデル動物における中枢神経の病理変化と運動療法の効果に関する研究、ニューロン障害の最初期像の解析とその予後に関する研究、糖尿病モデルラットを用いた理学療法効果の検証

宮津真寿美 助手：伸張刺激による内皮細胞の細胞骨格・接着斑の動態、伸張刺激による骨格筋の可塑性のメカニズム

加藤智香子 助手：高齢者の身体活動量・筋力・バランス・QOL など、転倒予防、ヒッププロテクター

本専攻では、現在以上の研究テーマをもとに、リハビリテーションに関係した臨床系の研究、生体の微細構造究明に関する研究、物理療法機器の開発と治療効果に関する研究、モデル動物を用いた各種病態究明と治療・予防法の確立に関する研究の4本柱を構築し、それぞれの研究室を整備・充実させているところである。

5) 対外的な、または社会と関わりのある活動

今年度より年に1度の開催となった臨床実習指導者連絡協議会（スーパーバイザー会議）を平成18年7月20日（木）に行った。内容は、臨床実習全般（理学療法イントロダクション、同コミュニケーション、Ia、Ib、II、III）についての報告と反省、昨年度より開始した臨床実習前の学内実習である臨床実習Ibの実際と学習効果、さらに臨床実習II、IIIについて本学の理念や目的と実習施設における実習目的との差などについて協議した。更に、後期より始まる臨床実習Ia、理学療法コミュニケーション、同イントロダクションについて協議した。

専攻代表が出席した学外関係会議は、臨床実習東海地区理学療法士養成施設連絡協議会（平成18年6月21日（金）会場：日本医療福祉専門学校）全国理学療法士・作業療法士学校養成施設連絡協議会（6月3日（土）東京、首都大学東京）、第9回国立大学理学療法士・作業療法士教育施設協議会（9月28日（木）- 9月29日（金）担当：金沢大学）である。

毎年夏に催される名古屋大学・大学説明会（オープンキャンパス）は8月10日（木）に行われた。今年から保健学科は大幸キャンパスを主会場とし、保健学科全体の説明がなされた後、参加した高校生に本専攻の特徴などについて河村守雄教授が説明した。その後、本専攻主催の説明会には約120名が参加し、教員と学生が施設を案内し、質問に答えた。質問も多く、高校生の興味の深さが伺われた。

10月11日（水）には防災訓練が行われ、専攻からは27名（学部、26名、大学院生1名）の学生と6名の教員が参加した。室内ホースの使用法、消火器の使い方などが説明された。

また、10月15日（日）には東館4階大講義室において、平成18年度保健学科市民公開講座「あなたは病院の医療専門

職の活躍をご存知ですか」を開催した。今回は看護学，放射線技術科学，検査技術科学，理学療法学，作業療法学の5専攻それぞれが養成する医療専門職を一般の方々に紹介する内容で実施した。理学療法学専攻からは石田和人助手が講演した。参加者は全体で36名（内、高校生24名）であった。

11月18日(土)には産学協同研究の推進を目的とする名古屋大学協定会第3回セミナーが東館大講義室で開催された。本専攻からは、河村守雄教授（腰痛予防運動の展開 開かれた大学を目指して）、山田純生教授（高齢者フィットネスの意義と今後の展開方策）、河上敬介准教授（機械刺激により筋力アップ!）の3名の教員が講演し、セミナー終了後に設けられた企業との懇親会にて積極的な意見交換を行った。

全国PT・OT学校連絡協議会のもとに、東海地区（愛知、岐阜、三重、静岡）の理学療法・作業療法に関する各養成校の教員及び関連する教育に関わる専門職の資質向上を目的とした東海地区教育部会が設立され（平成17年1月）、会長に本専攻の鈴木教授が就任しているが、会計年度を変更したため、平成18年度研修会を開催せず、平成19年度事業へ移行した。

以上とは別に、本専攻は名大理学療法研究会の事務局を置き、短期大学部理学療法学科と保健学科理学療法学専攻の卒業生の研究活動を支援している。当年度は、平成18年7月1日(土)と平成19年1月27日(土)にそれぞれ「理学療法士が取得できる学会認定資格について」、「呼吸リハビリテーションの基本と実際」をテーマとして研究会が開催され、毎回40名ほどが参加した。

その他、大幸医療センターでの相談外来は、河村教授の腰痛相談室、加藤助手の転倒予防教室（転ばん大幸教室、名古屋市との共同主催）、鈴木教授の女性尿失禁相談外来が引き続き行われた。

以上
（主任：山田純生）

作業療法学専攻

作業療法学専攻は、作業療法に関する学問的体系の確立、作業療法領域の高度専門職業人の育成、そして、この領域における教育者、研究者の育成を目的として設置された専攻である。

本専攻の教員は、作業療学分野（作業療法士）と医学分野（医師）の二領域の教員から構成されているが、それぞれの専門背景を活かした教育・研究活動を通して、ともに作業療法学の発展に資するよう努めている。

1. 運営

本専攻の運営は、本専攻に所属する教員全員が参加する毎週水曜日開催の作業療法学専攻会議が中心となる。専攻会議は、本専攻の重要な審議議決機関であり、本専攻の運営上の諸問題が討議されている。保健学科全体の委員会等の報告や専攻内への持ち帰り事案の審議がなされ、それに対する作業療法学専攻としての方針や見解が審議決定される。具体的には、全体を通しての専攻の年間行事、事業についての計画とその計画進行状況の確認をはじめとして、予算に関する事案、学生の教育に関する事案（成績関連、単位認定、進級関連、卒後進路など）、学生生活に関する事案、臨床実習に関する事案（実習計画、臨床実習施設との連携など）、その他保健学科全体の抱える諸問題について専攻としての方針や考え方を討議決定している。

現在、本専攻には4名の教授の構成となっているが、教員人事など教授専任事項については、定期的に月1回の専攻教授会議を開催し、審議している。この会議は構成メンバー全員の意見の一致を原則として運営されている。

また、月1回の頻度で作業療法学専攻の作業療法士のみでの会議（作業療法プロパー会議）を開催し、より効果的な教育成果実現のため、とくに作業療法教育プログラムについて検討し、専攻会議の議案提出のための具体的行動機関として位置づけしている。教員全員が会員となっている職能団体日本作業療法士協会と相互協力するための情報交換もこの会議の議題となっている。

また、様々な点で密接な連携関係にある理学療法学専攻とは、月1回に両専攻に所属する全教員が参加する両専攻会議をもち、両専攻間の連携・協力を図っている。両専攻共通の問題に対して、意思の疎通を図り、両専攻としての方針や意見を審議決定している。

大学院の機構としては、リハビリテーション療法学専攻として両分野（理学療学分野と作業療学分野）から構成されているため、大学院教員会議と称し、月1回の頻度で大学院教育担当教員全員参加のもと、リハビリテーション療法学専攻に関する諸問題について審議し、運営している。

2. 教育活動

18年4月に保健学科作業療法学専攻第8期生として21名の学部学生を迎えた。選抜方法による内訳は、推薦入学7名、前期日程試験入学11名、後期日程試験入学3名であり、性別では男子学生3名、女子学生18名であった。

大学院博士課程前期課程作業療学分野には8名（一般選抜2名、社会人入学6名）、博士課程後期課程作業療学分野に1名が入学した。

以下、18年度の本専攻が実施した教育活動を経過に従って紹介する

- 1) 18年4月5日： 新入生および学年別ガイダンス： 年度当初に毎年実施しているガイダンスであるが、作業療法学専攻単独および理学療法学専攻と合同で学生の教育および学生生活に関することなどについて教員および学生全員が参加して説明および確認を行った。本年度実施の教育カリキュラムの説明から学生生活の規則などの再確認に至るまで情報を提供した。
- 2) 18年4月14日・15日： 犬山ガイダンス： このガイダンスは毎年恒例の一泊二日の日程で、愛知県犬山市犬山国際ユースホステルで開催した。新入の学部学生および大学院生が円滑に快適で充実した学生生活を送るという目的で開催され、本専攻の教員や2年生3年生先輩からの公私的な示唆や助言などを通して行われた。同時に学年相互の交流・親睦を目的として種々のイベントを開催した。
- 3) 18年4月3日から8月上旬： 4年生臨床実習実施： 学部4年生を対象とし最終年次前期期間中、学外臨床施設にて臨床実習を行った。実習期間を3期に分けて身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野および老年期障

害分野の医療機関・施設で臨床実習を行なった。総計18週間の実習を行った。

- 4) 18年6月24日: 博士課程後期課程大学院生研究課題中間発表会: リハビリテーション療法学専攻作業療法学分野に在籍する2名の大学院生が各自の研究テーマについての進捗状況を報告した。研究発表の後、大学院教員あるいは大学院生から意見や指摘がなされ、今後の研究についての検討・調整がなされた。
- 5) 18年8月10日: オープンキャンパス開催: 大幸キャンパスにおいて保健学科全体および作業療法学専攻の大学説明会を実施した。説明会参加者に対して、講義室や実習室等を案内し、本学における本専攻の教育理念、方針、具体的教育内容について説明した。
- 6) 18年8月31日: 大学院博士課程前期課程入学試験実施
- 7) 18年9月1日: 大学院博士課程後期課程入学試験が実施
- 8) 18年9月8日: 卒業研究中間発表会(学部4年生)
- 9) 18年9月中旬: 作業療法入門実習の実施(学部1年生): 本専攻に入学してから最初の臨床実習である。作業療法における主要な分野(身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、老年期障害分野)の関連の機関・施設6ヶ所の見学実習を行なった。
- 10) 18年9月下旬から12月下旬: 作業療法基礎学実習(学部2年生): 作業療法の対象となる施設や対象者を理解する目的で2年後期に実施している。学生は、身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野の医療機関・施設それぞれ1ヶ所、計3ヶ所で3日間の実習を体験した。
- 11) 18年12月1日: 卒業研究発表会開催(学部4年生)
- 12) 19年2月12日: 学部の推薦入試実施
- 13) 19年2月15日: 博士課程前期課程および後期課程合同研究発表会開催: 本専攻からは博士課程前期課程2年生の4名が発表を行なった。
- 14) 19年2月16日: 臨床実習指導者会議: 4年次の臨床実習の実習協力施設の実習指導者を招いて、臨床実習指導者会議を開催した。議題は主として18年度臨床実習報告、19年度実習計画であり、学外の実習指導者と本専攻教員の意見交換等を行なった。
- 15) 19年2月22日: 2年次編入試験実施: 昨年度まで実施していた3年次編入制度を今年度より2年次編入制度を導入した。
- 16) 19年2月25日: 一般選抜前期日程入学試験実施
- 17) 19年3月4日: 理学療法士作業療法士国家試験実施: 本専攻から卒業予定者20名全員受験し全員合格した。
- 18) 19年3月10日: 博士課程前期課程中間発表会: 前期課程1年在籍の9名が現在の研究状況を報告した。
- 19) 19年3月12日: 一般選抜後期日程入学試験実施
- 20) 19年3月26日: 学部および大学院卒業式: 本年度は学部学生17名(男性1名、女性16名)卒業した。卒業後の進路としては、大学院博士課程前期課程へ2名(男性1名、女性1名)が進学し、18名が就職した。就職した18名の内訳としては、施設形態として、医療法人9名、社会福祉法人3名、財団法人2名、国公立大学法人2名、その他2名であった。作業療法の分野別でみると、身体障害分野12名、精神障害分野3名、小児分野1名、高齢期分野2名であった。

博士課程前期課程のリハビリテーション療法学専攻作業療法学分野の修士取得者は4名であった。

3. 研究活動

本専攻の教員は、異なる専門分野から構成されているため、専攻としての共同研究が成立しにくい側面を持っている。そのため、専攻の研究は教員による個人研究が主となっている。

(1) 共同研究

- 1) スモン患者のリハビリテーションの必要性に関する研究(寶珠山・伊藤・杉村・清水・美和・後藤)
- 2) 青年期の精神病理学的研究(学生相談総合センターと共同研究)(鈴木)
- 3) 中高年者の高次脳機能と筋・運動機能及び生活習慣との関連に関する研究(伊藤)

(2) 個人研究

- 1) 老年期痴呆の障害分析的研究・老年痴呆患者の行動評価法の開発(杉村)
- 2) 統合失調症の精神病理学的研究(鈴木)
- 3) 神経症の精神分析学的研究(鈴木)
- 4) 発達障害の青年期に関する研究(鈴木)
- 5) 介護老人保健施設等における作業療法介入の効果に関する研究(田川)
- 6) 認知症高齢者の問題処理能力等の定量的評価法の開発(田川)
- 7) 運動と体性感覚誘発脳反応に関する研究(寶珠山)
- 8) 意識と感覚情報処理能力に関する研究(寶珠山)
- 9) 人の脳における情報処理能力に関する研究(寶珠山)
- 10) 作業療法と自律神経機能に関する研究(美和)
- 11) 精神障害に対する作業療法介入効果に関する研究(美和)
- 12) 入浴の自律神経機能に与える影響に関する研究(美和)
- 13) 認知機能と情動の関係に関する研究(清水)
- 14) 自己関連情報に関する心理的処理特性に関する研究(清水)
- 15) 活動時間配分と健康との関連に関する研究(伊藤)
- 16) 前頭葉機能検査に関する研究(伊藤)
- 17) 統合失調症に対する作業療法介入効果に関する研究(向)
- 18) 作業療法学専攻学生の職業レディネスに関する研究(向)
- 19) 発達障害児に対する作業療法介入効果に関する研究(浅野)
- 20) 介護保険下の通所サービス利用者の特徴に関する研究(後藤)

4. 対外的な、または社会と関わりのある活動

18年度中に本専攻教員が主催した学会、研究集会は以下のとおりである。

- 平成18年6月4日 第18回東海精神科作業療法研究会(鈴木、美和、向)
平成19年3月18日 第19回東海精神科作業療法研究会(鈴木、美和、向)
平成18年8月20日 第21回精神障害者リハビリテーション研究会(鈴木、向)
平成18年11月19日 第22回精神障害者リハビリテーション研究会(鈴木、向)
平成19年3月11日 第23回精神障害者リハビリテーション研究会(鈴木、向)

(主任：田川義勝)

2 . 公 開 講 座

(平成16年度)

平成18年度名古屋大学医学部保健学科市民公開講座

市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」を開催

医学部保健学科は、10月15日(日)、同学科新館オーディトリウムにおいて、市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」を開催しました。

本講座は、昭和58年以来、健康や医療の問題を中心に生活に深く関わるテーマで、一般市民を対象に毎年実施しているものですが、今回は、保健学科を構成する5専攻、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学のそれぞれが養成する医療専門職を一般の方々にわかりやすく紹介する内容で実施しました。

できるだけ多くの方々に手軽に参加していただけるよう、受講料は前年度から無料にしましたが、さらに今年度は半日みのコンパクトな企画としました。今回は、特に大学進学を控えた高校生の進路選びの参考にしてもらおうと、高校生を中心にポスター、名古屋大学および医学部保健学科のホームページで広く参加者を募集したところ、東海3県から36名(この内高校生は24名)の参加がありました。平成18年度名古屋大学医学部保健学科市民公開講座の実施概要は以下のとおりです。

テーマ：あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか

開講日時：平成18年10月15日(日) 13:00～17:00

開講場所：名古屋大学医学部保健学科東館大講義室(オーディトリウム)

募集人員：100名 受講料：無料

後援：愛知県、名古屋市、名古屋大学医師会、愛知県医師会、名古屋市医師会、愛知県看護協会、愛知県放射線技師会、愛知県臨床衛生検査技師会、愛知県理学療法士会、愛知県作業療法士会

テーマ説明文：現代医療は、医師を中心とし、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士によるチーム医療で成り立っていますが、これら病院の医療専門職の活躍についてはあまり理解されておられません。本講座では、日頃目にすることが少ない病院の医療専門職の重要な役割について、皆様に情報を提供します。講義はすべて名古屋大学医学部保健学科に所属し、専門職の資格を持った教員が担当します。

開講時間・題目・講師

第1講 13:00～13:40	「画像診断と放射線治療で活躍する診療放射線技師」
放射線技術科学専攻	小山修司
第2講 13:45～14:25	「生体機能や病因・病態の解析で活躍する臨床検査技師」
検査技術科学専攻	高木健次
第3講 14:40～15:20	「リハビリテーション医療の現場で活躍する理学療法士」
理学療法学専攻	石田和人
第4講 15:25～16:05	「作業活動を通して障害者の生活を支援する作業療法士」
作業療法学専攻	向文緒
第4講 16:10～16:50	「患者を中心とした医療に貢献する看護師」
看護学専攻	河津芳子

申し込み人数：52名

当日参加人数：36名(うち、高校生24名)

現代のチーム医療を支える重要な役割を担いながら日頃目にするのが少なく、また、マスコミに取り上げられることも少ないため、医師に比べて一般に理解されにくい病院の医療専門職について、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士のそれぞれの資格を持った教員が、その職種の位置付け、病院や社会における役割、専門性について、医療現場での自らの体験を交えながら参加者にわかりやすく解説しました。

午後の1時から5時まで、長時間にわたる講義でしたが、参加者はメモを取りながら皆熱心に聞き入っていました。参加者からはそれぞれの専門職の深い専門知識に驚いたと言う感想があったほか、参加した高校生からは、職業選択や進学の参考にしたいと言う声が聞かれました。参加者へのアンケート結果は以下のとおりです。

アンケート結果：

回答者： 30名（男性 11名、女性 19名）

年 齢： 10代：21名、20代：1名、30代：1名、40代：4名、50代：1名、
60代：0名、70代：1名、無記入：1名

職 業： 高校生：21名、大学生：1名、学校職員：1名、会社員：2名、主婦：2名、
看護師：1名、無職：1名、無記入：1名

本講座を何で知ったか：

a：新聞、テレビなどの報道	3名
b：区役所、社会教育センター、図書館においてあった募集要項、ポスター	1名
c：友人からの情報	4名
d：その他（オープンキャンパスの案内冊子、名古屋大学のホームページ、道路のポスター、 高校の掲示、教師の薦め）	22名

受講後の感想（複数回答）

a：面白かった	10名
b：興味がわいた／関心を持った	25名
c：つまらなかった	0名

実施方法について

A：全体の時間

a：長い	5名
b：丁度よい	25名
c：短い	0名

B：テーマ毎の時間

a：長い	3名
b：丁度よい	25名
c：短い	2名

C：講座の形式（次回受講するとしたら、どのような形式を希望するか）

a：講演	13名
b：参加型のセミナー	18名
c：その他	0名

D：市民講座で希望するテーマなど

- ・ リハビリテーションの講演と実技
- ・ がんの放射線治療について
- ・ 保健学科の学生の勉学内容について
- ・ 新しい療法（音楽療法、ダンスセラピーなど）と、欧米との活動の違いについて
- ・ 看護師だけでなく助産師や保健師などの専門職について、また、病院の外での活動について

アンケート結果に見られるように、今回の公開講座の内容と講演時間について、参加者からは概ね好評が得られました。特に、本講座全体の時間を前年度の全日に対して今年度は午後の半日に短くしましたが、それでもまだ長いと言う意見はあっても短いと言う意見は聞かれませんでした。しかし、今回、広報活動に力を入れた割には参加人数が予定より少なかったことは、参加対象を一般よりも高校生としたこともあり、本講座を秋ではなく、高校生が参加しやすい夏休みに実施するなど、参加対象による講座の日程選別に課題を残しました。また、本講座の形式については参加型のセミナーを望む声が多く寄せられ、今後の企画に反映させるべく検討していくことにしました。

(平成18年度公開講座委員長 青山隆彦)

3 . 業 績 (2 0 0 4 年)

凡 例

業績の収録期間は2005(平成17)年1月～12月とした。

業績は下記の種別に分類した。

- * 著書
- * 原著論文
- * 総説・解説・その他
- * 科研費・班研究等
- * その他の印刷物等
- * 学会発表
- * 公開講座・講演会

掲載順位は 専攻， 業績種別， 著者のアルファベット順 とした。

看護学専攻

1 看護学専攻

〔著書〕

ティルダ・シャロフ（著）/荒木文枝（訳）

『ICU 看護師 生と死がわかる時』（監修/山内豊明）西村書店、2006.

浅野みどり, 石井 真

第3章 7 小児のフィジカルアセスメント

『基礎がわかる！実践できる！フィジカルアセスメント』（太田勝正）照林社、2006. pp111-118

浅野みどり

第4章 看護スタッフとしてできること

『子ども虐待防止&対応マニュアル』（山崎嘉久, 前田 清, 白石淑江）診断と治療社、2006. pp 24-25

浅野みどり

第5章 看護スタッフの現場で

『子ども虐待防止&対応マニュアル』（山崎嘉久, 前田 清, 白石淑江）診断と治療社、2006. pp 71-75

浅野みどり

第7章 医師・看護師の役割

『子ども虐待防止&対応マニュアル』（山崎嘉久, 前田 清, 白石淑江）診断と治療社、2006. pp 143-145

平井真理

カルディアックメモリーとは

『新・心臓病診療プラクティス-心電図で診る・治す-』（清水昭彦・笠貫 宏）文光堂、2006. pp 103-106

平井真理

高齢者の循環器障害

『高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典』（阿部芳江）金芳堂、2006. pp 25-29

池松裕子

早わかり看護観察アセスメントノート

『早わかり看護観察アセスメントノート』（池松裕子）照林社、2006. pp 1-137

奈良間美保

第2章 1 日本版 PSI の作成と信頼性・妥当性の検討

『PSII 育児ストレスインデックス』 社団法人 雇用問題研究会、2006. pp 35-40

奈良間美保

付録 1, 3-2 日本の先天性疾患患児の母親の PSI スコア

『PSII 育児ストレスインデックス』 社団法人 雇用問題研究会、2006. pp 87-90

新實夕香理

老年期患者のフィジカルアセスメント

『基礎がわかる！実践できる！フィジカルアセスメント』（太田勝正）照林社、2006. pp 102-110

太田勝正, 井口弘子

フィジカルアセスメントの基本

『基礎がわかる！実践できる！フィジカルアセスメント』（太田勝正）照林社、2006. pp 6-9

太田勝正, 唐澤由美子

フィジカルアセスメントの考え方

『基礎がわかる！実践できる！フィジカルアセスメント』（太田勝正）照林社, 2006. pp 2-4

太田勝正

学生実習における患者情報の取り扱い

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 102-103

太田勝正

看護における情報活用：情報とは

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 48-55

太田勝正

看護に情報を活かすために必要な知識・技術

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 10-12

太田勝正

看護に情報を活かすための方法をどのように学ぶか

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 13-15

太田勝正

看護ミニマムデータセットの普及のために

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 191-193

太田勝正

看護行為用語分類について

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 182-184

太田勝正

看護情報学とは

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 1-6

太田勝正

看護情報学の発展のために

『エッセンシャル看護情報学』（太田勝正, 前田樹海）医歯薬出版, 2006. pp 185-187

太田勝正, 中村 恵

領域別フィジカルアセスメントの進め方

『基礎がわかる！実践できる！フィジカルアセスメント』（太田勝正）照林社, 2006. p 66

桜井志保美, 藤井優子

精神的な問題をもつ患者の地域ケア

『高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典』（阿部芳江）金芳堂, 2006. pp 101-104

藤井優子, 桜井志保美, 前川厚子

認知症高齢者の地域ケア 1

『高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典』（阿部芳江）金芳堂, 2006. pp 41-44

藤井優子, 桜井志保美, 前川厚子

認知症高齢者の地域ケア 2

『高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典』(阿部芳江) 金芳堂, 2006. pp 45-54

山内豊明

『ベイツ診察法ポケットガイド 第2版 Pocket Guide to Physical Examination and History Taking Fourth Edition』(訳者/山内豊明) メディカルサイエンスインターナショナル, 2006.

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 [検査時の介助] パルスオキシメトリー

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 688-690

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 [検査時の介助] 腰椎穿刺

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 691-694

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 [検査時の介助] 心電図

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 680-683

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 [検査時の介助] 内視鏡検査

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 684-687

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 簡易血糖検査

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 709-711

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 血圧測定

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 647-651

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 呼吸の観察

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 634-636

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 採尿, 尿検査

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp 695-699

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 視診

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp652-656

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 触診

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp657-663

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 静脈血採血 真空採血管を使用する場合

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp706-708

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 静脈血採血 注射器を使用する場合

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp703-705

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 打診

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp664-669

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 体温測定

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp640-646

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 聴診

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp670-676

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 動脈血採血の準備と検体の取り扱い

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp700-702

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 脈拍測定

『看護技術スタンダードマニュアル』(監修/川島みどり, 編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会) メヂカルフレンド社, 2006. pp637-639

山内豊明

10 症状・生体機能管理技術 問診（面接）

『看護技術スタンダードマニュアル』（監修/川島みどり，編集/看護技術スタンダードマニュアル作成委員会）メヂカルフレンド社，2006. pp677-679

山内豊明

5 章 循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ

『イメージできる解剖生理学』（編集/林正 健二）メディカ出版，2006. pp58-69

山内豊明

なぜアセスメント技法が必要か，また活用方法は

『フォーカスチャータリング・記録による看護の質評価』 メディカ出版，2006. pp6-15

山内豊明

監修の言葉

『イメージできる臨床病理・病態学』（監修/山内豊明，編集/池西静江・石束桂子）メディカ出版，2006. p3

山内豊明

監訳者前書き

『聞く技術 答えは患者の中にある（上）THE PATIENT HISTORY:Evidence-Based Approach』（編集/Lawrence M.Tierney, Jr., Mark C.Henderson・監訳/山内豊明）日経 BP 社，2006. p iv

山内豊明

監訳者前書き

『聞く技術 答えは患者の中にある（下）THE PATIENT HISTORY:Evidence-Based Approach』（編集/Lawrence M.Tierney, Jr., Mark C.Henderson・監訳/山内豊明）日経 BP 社，2006. p iv

サンドラ・スミス，ドナ・デュエル，バーバラ・マーティン

看護技術目でみる事典

（監訳/川原礼子・山内豊明・山田智恵里）西村書店，2006. pp1-639

山内豊明

第2章「看護必要度」を評価するための項目 I. アセスメントにおける「看護必要度」の考え方

『看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準』 日本看護協会出版会，2006. pp21-35

山内豊明，筒井孝子，看護必要度アセスメント項目評価基準検討委員会（植原美恵，高田穂積，吉田秀美，井出志賀子，宇津木もと子，関矢カズ子，坪井ちえみ，外谷憲子，飯田琴枝，熊谷富子，畠中智代，岸川恵子，白石和子，鈴木厚子，米山万里枝，安藤恵美子，野尻恵子，野出典子，古瀬敬子，梅野直美，小川圭子，斉藤恭子，渡辺美奈）

第2章「看護必要度」を評価するための項目 II. 「看護必要度」のチェック項目と記入の手引き

『看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準』 日本看護協会出版会，2006. pp36-77

山内豊明，筒井孝子，看護必要度アセスメント項目評価基準検討委員会（植原美恵，高田穂積，吉田秀美，井出志賀子，宇津木もと子，関矢カズ子，坪井ちえみ，外谷憲子，飯田琴枝，熊谷富子，畠中智代，岸川恵子，白石和子，鈴木厚子，米山万里枝，安藤恵美子，野尻恵子，野出典子，古瀬敬子，梅野直美，小川圭子，斉藤恭子，渡辺美奈）

第2章「看護必要度」を評価するための項目 III. 例題

『看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準』 日本看護協会出版会，2006. pp78-96

山内豊明

第2章全身のみかた I 視診

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 16-19

山内豊明

第2章全身のみかた II 触診

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 20-22

山内豊明

第2章全身のみかた III 打診

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 23-24

山内豊明

第2章全身のみかた IV 聴診

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 25-26

山内豊明

第2章全身のみかた V バイタルサインのみかた

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 27-35

山内豊明

第4章 看護管理における「看護必要度」の活用 II. 「重症度・看護必要度に係わる評価票」の評価項目とその評価

『看護必要度 第2版 看護サービスの新たな評価基準』 日本看護協会出版会, 2006. pp 172-186

山内豊明

第6章神経系のみかた I 神経系のアセスメントを進めていく上での基本方針

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. p 138

山内豊明

第6章神経系のみかた II 神経系の系統的アセスメント

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 139-175

山内豊明

第8章高齢者のみかた I 加齢による変化

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 212-214

山内豊明

第8章高齢者のみかた II 病歴聴取のための問診のポイント

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 215-222

山内豊明

第8章高齢者のみかた III 機能評価

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 223-226

山内豊明

第8章高齢者のみかた IV 身体各系統のみかた

『フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版』(編集/日野原重明) 医学書院, 2006. pp 227-241

横内光子

CCU・ICU患者(家族)の看護

『CCU・ICU看護第3版 第8講 CCU・ICUにおける看護』(早川弘一, 高野照夫(責任編集))テクノコミュニケーションズ, 2006. pp15-37

〔原著論文〕

深谷陽子, 安藤詳子, 稲垣聡美, 宮崎雅之, 中村みゆき, 澤井美穂, 野田幸裕, 神里みどり

簡便な操作で痛みの強さを記憶する痛み計の臨床試行

Palliative Care Research 1 (1): 201-205, 2006

繁澤弘子, 安藤詳子, 前川厚子

高齢な終末期がん患者と家族の在宅における療養体験

日本看護医療学会雑誌 8 (1): 31-39, 2006

ASANO Midori, SUGIURA Taichi, MIURA Kiyomi, TORII Shinpei, ISHIGURO Ayako

Reliability and Validity of the Self-report Quality of Life Questionnaire for Japanese School-aged Children with Asthma (JSCA-QOL v.3)

Allergol Int 55: 59-65, 2006

都築知香枝, 石黒彩子, 浅野みどり, 三浦清世美, 山田知子, 奈良間美保

アトピー性皮膚炎の子どもをもつ母親の育児ストレス

日本小児看護学会誌 15: 25-31, 2006

山田知子, 浅野みどり, 杉浦太一, 三浦清世美, 石黒彩子

医療従事者との協働に関する思春期喘息児の認識

日本小児看護学会誌 15: 68-74, 2006

須賀京子, 白井裕子, 百合純子, 佐久間佐織, 藤井徹也, 加藤みわ子, 清水 遵

足浴の効果の検討—皮膚表面温, 深部温, 唾液中, s-IgA および主観的状态の変化—

愛知きわみ看護短期大学紀要 2: 53-62, 2006

今井礼子, 浅野みどり, 小林加奈

幼児期の自閉症児をもつ家族の家族機能および支援に関する検討

日本看護医療学会雑誌 8: 17-25, 2006

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Can segmental pulmonary vein ablation reduce the recurrence of atrial fibrillation when using a higher RF power, larger tip electrode catheter, and additional RF deliveries?

Int Heart J 47: 219-228, 2006

YAMADA Kiyoyasu, ISOBE Satoshi, **HIRAI Makoto**, UNNO Kimiya, OHSHIMA Satoru, TAKADA Yasunobu, IZAWA Hideo, ABE Kazuo, YOKOTA Mitsuru, MUROHARA Toyoaki.

Changes with age in left ventricular function and volumes at rest and postexercise in postmenopausal women

Ann Nucl Med 20: 677-681, 2006

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Electrophysiological pulmonary vein antrum isolation with a multielectrode basket catheter is feasible and effective for curing paroxysmal atrial fibrillation: efficacy of minimally extensive pulmonary vein isolation

Heart Rhythm 3: 377-384, 2006

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Incidence, location, and cause of recovery of electrical connections between the pulmonary veins and the left atrium after pulmonary vein isolation

Europace 8: 182-188, 2006

ISOBE Satoshi, TAKADA Yasuo, ANDO Akitada, OHSHIMA Satoru, YAMADA Kiyoyasu, NANASATO Mamoru, UNNO Kazumasa, OGAWA Takuo, KONDO Takahisa, IZAWA Hideo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Increase in electrocardiographic R-waves after revascularization in patients with acute myocardial infarction

Circ J 70: 1385-1391, 2006

YAMADA Takumi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, MUTO Makoto, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Plasma atrial natriuretic Peptide and brain natriuretic Peptide levels after radiofrequency catheter ablation of atrial fibrillation

Am J Cardiol 97: 1741-1744, 2006

YAMASHITA Takeshi, OGAWA Satoshi, AIZAWA Yoshifusa, ATARASHI Hirotsugu, INOUE Hiroshi, OHE Tohru, OKUMURA Ken, OHTSU Hiroshi, KATO Takao, KAMAKURA Shiro, KUMAGAI Koichiro, KURACHI Yoshihisa, KODAMA Itsuo, KORETSUNE Yukihiko, SAIKAWA Tetsunori, SAKURAI Mas

Randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine calcium antagonist for the treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension

Circ J 70: 1318-1321, 2006

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, MUTO Masahiro, OKADA Taro, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITO Teruo, KONDO Takahisa, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki

Usefulness of esophageal leads for determining the strategy of pulmonary vein ablation to avoid complications associated with the esophagus

Am J Cardiol 97: 1494-1497, 2006

小久保知由起, 河内麻里, 小林裕子, 永野美加, 桜井志保美, 前川厚子, 三浦昌子, 中川三千代, 平井眞理

医療関係者における AED 使用に関する意識調査 -看護師と病院事務職員との比較検討-

日本循環器看護学会誌 2: 51-60, 2006

桜井志保美, 前川厚子, 竹井留美, 野田明子, 毛受 彬, 仲井 滋, 平井眞理

訪問看護をうける在宅療養者の主介護者における睡眠障害の実態

保健の科学 48: 783-790, 2006

IKEDA Yukihiko, IKI Masayuki, MORITA Akemi, **KAJITA Etsuko**, KAGAMIMORI Sadanobu, KAGAWA Yoshiko, YONESHIMA Hideo

Intake of fermented soybeans, Natto, is associated with reduced bone loss in postmenopausal women: Japanese population-based osteoporosis (JPOS) study

J Nutrition 136: 1323-1328, 2006

鏡森定信, 立瀬剛志, 中谷芳美, 松原 勇, 広田直美, 梶田悦子

温泉は健康寿命の延伸に寄与するか—温泉を利用した健康増進施設を開設した J 町の 3 年間の追跡調査—

日温気物医誌 69: 187-194, 2006

AKIYAMA O Miki, KAYAMA Mami, TAKAMURA Soichi, **KAWANO Yuri**, OHBU Sadayoshi, FUKUHARA Shunichi

A study of the burden of caring for patients with amyotrophic lateral sclerosis (MND) in Japan

British Journal of Neuroscience Nursing 2: 38-43, 2006

増井麻依子, 河野由理, 森 雅美

回復者主導型の薬物依存症回復施設に向けた新しい回復支援策の立案に関する研究

名古屋市立大学看護学部紀要 6: 13-24, 2006

船越明子, 河野由理

看護師の働きがいの構成要素と影響要因に関する研究—急性期病院に勤務する看護師を対象とした分析から—

こころの健康 21 (2): 35-43, 2006

船越明子, 萱間真美, 松下太郎, 山口亜紀, 上野里絵, 沢田 秋, 林亜希子, 宮本有紀, 瀬戸屋希, 松浦彩美, 木村美枝子, 秋山美紀, 伊藤弘人, 天賀谷隆, 佐竹良一, 佐藤美穂子, 仲野 栄, 羽藤邦利, 大塚俊男, 福田 敬, 安保寛明, 河野由理

精神科訪問看護を利用している統合失調症患者の日常生活機能に関する実態報告

病院・地域精神医学 49: 66-72, 2006

船越明子, 松下太郎, 沢田 秋, 山口亜紀, 上野里絵, 木村美枝子, 秋山美紀, 宮本有紀, 福田 敬, 萱間真美, 瀬戸屋希, 梶井亜希子, 安保寛明, 河野由理, 天賀谷隆, 伊藤弘人, 大塚俊男, 佐竹良一, 佐藤美穂子, 羽藤邦利, 仲野 栄

日本における統合失調症患者への精神科訪問看護に関する実態報告

病院・地域精神医学 48: 169-170, 2005

伊藤千晴, 小笠原ゆかり, 小塩泰代, 河津芳子

看護基礎教育における特別活動の指導上の留意点についての文献検討

日本看護医療学会雑誌 8: 40-47, 2006

奈良間美保

小児患者の在宅ケア

クリニカルプラクティス 25: 61-64, 2006

奈良間美保, 堀 妙子, 田中千代, 宮城島恭子, 松岡真里

小児在宅ケアにおけるコーディネーター教育プログラムの検討

日本小児看護学会誌 15 (2): 53-60, 2006

星野純子, 堀 容子, 近藤高明, 新實夕香理, 岡田 武, 阿部仁美, 石田夕紀子, 倉澤繭子, 丹羽さゆり, 長澤伸江, 岡本和士, 前川厚子, 榊原久孝

65歳未満の若年主介護者における脳・心血管疾患リスクファクターの記述疫学的検討—主介護者の健康支援システムの構築に関する研究—データを用いて—

第16回日本疫学会学術総会抄録集 1:, 2006

新實夕香理, 藤井徹也, 佐伯香織, 河津芳子

基礎看護学実習における血圧・脈拍測定技術習得状況

日本看護学教育学会誌 16 巻学術集会講演集 1: 146, 2006

新實夕香理, 藤井徹也, 佐伯香織, 相原優子, 河津芳子

血圧測定技術の指導に関する一考察

第10回日本看護研究学会東海地方会 34, 2006

岡田 武, 堀 容子, 前川厚子, 桜井志保美, 新實夕香理, 丹羽さゆり, 浜島久美子, 小笠原ゆかり, 濱本律子, 星野純子

半構成的面接法における在宅重度要介護者の主介護者における健康管理の現状と問題点の分析

第8回日本看護医療学会学術集会 プログラム・講演抄録集 1: 25, 2006

門井貴子, 太田勝正

患者役割測定尺度の開発プロセス：入院患者の認識と看護師の期待から

大分看護科学 7: 7-15, 2006

MITSUI Takuro, SHIMAOKA Kiyoshi, TSUZUKU Shigeki, KAJIOKA Takeo, **SAKAKIBARA Hisataka**

Accuracy of body fat assessment by bioelectrical impedance in Japanese middle-aged and older people

J Nutr Sci Vitaminol 52: 154-156, 2006

SAKAKIBARA Hisataka, MAEDA Setsuo

Head vibration during operating a hand-held vibrating tool

Proceedings of Inter-Noise 2006, 742-1-5, 2006

FUJII Chie, **SAKAKIBARA Hisataka**, KONDO Takaaki, YATSUYA Hiroshi, TAMAKOSHI Koji, TOYOSHIMA Hideaki

Plasma fiblinogen levels and cardiovascular risk factors in Japanese school children

J Epidemiol 16: 64-70, 2006

NISHITANI Naoko, **SAKAKIBARA Hisataka**

Relationship of obesity to job stress and eating behavior in male Japanese workers

Int J Obes 30: 528-533, 2006

高橋由紀

出生直後の気道吸引が健康な正期産児に及ぼす影響に関する研究

名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻 修士論文, 2006

祖父江正代, 前川厚子, 竹井留美, 藤田 紀, 神里みどり, 井口弘子

ストーマ保有者が受けたケアと自己適応との関連性の分析

日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 10: 30-39, 2006

竹井留美, 前川厚子, 祖父江正代, 吉田和枝, 牧野雅子
東海ならびに関東地区在住ストーマ保有者における災害対策状況
日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌 10: 44-50, 2006

KURUTO Ryoko, TATEOKA Yumiko, USUKI Yasuteru, NOZAWA Ryushi
Measurement of bisphenol A concentrations in human colostrum
CHEMOSPHERE 66: 1160-1164, 2006

立岡弓子, 堀田久美
母乳の環境ホルモン汚染(ビスフェノールA)の調査結果に関する母親の意識・行動
日本助産学会誌 19:, 2006

山内豊明
なぜ看護必要度を使う必要があるのか アセスメントの視点から
看護管理 16: 719-727, 2006

篠崎恵美子, 山内豊明
看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育の現状
看護教育 47: 810-813, 2006

山内豊明
看護教育の動向
医学教育別冊 医学教育白書 2006年版('02~'06) 174-179, 2006

高田真澄, 高田宗樹, 宮尾 克, 山内豊明
高齢者の血圧測定に必要とされる安静時間の妥当性についての実証的研究
第21回生体・生理工学シンポジウム論文集 509-512, 2006

山内豊明
神経難病患者の訪問看護におけるフィジカルアセスメントについて
2005年度難病セミナー 神経難病における在宅看護ケア研修会報告書 21-24, 2006

山内豊明
静脈確保時に患者の手を温めることは有効か?
Nursing Today 21 (12): 17, 2006

山内豊明
特定疾患の生活の質(Quality of Life, QOL)の向上に資するケアの在り方 パーキンソン病療養者の訪問看護に必要とされる
フィジカルアセスメント
愛知県特定疾患研究協議会 88-89, 2006

山内豊明
無症候性心筋梗塞はどの程度存在するか?
Nursing Today 21 (12): 18, 2006

千本美紀, 山内豊明
立位でのグリセリン浣腸は安全か?
Nursing Today 21 (9): 15, 2006

千本美紀, 山内豊明
立位でのグリセリン浣腸は安全か？
Nursing Today 21 (12): 57, 2006

山内豊明
腕のポジションによって血圧値に違いはあるか？
Nursing Today 21 (12): 16, 2006

横内光子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 沼崎穂高, 石井豊恵, 藤本春美, 尾島直子
タイムスタディによる業務スケジューリング分析
第7回看護情報研究会論文集 1: 25-28, 2006

〔総説・解説・その他〕

AIHARA Yuko
<解説> フィジカルアセスメントの技術と実践 5 打診
日本看護協会出版会・コミュニティケア 8: 134-139, 2006

AIHARA Yuko, KAMIZATO Midori, KITADA Miho, ANDO Shoko, MAEKAWA Atsuko
英国のがん医療における補完・代替療法の実施状況
南江堂・がん看護 11: 532-538, 2006

増井麻依子, 河野由理, 森 雅美
わが国における女性アルコール依存症を巡る諸問題
名古屋市立大学看護学部紀要 6: 1-6, 2006

新實夕香理
フィジカルアセスメントの技術と実践 視診
日本看護協会出版会・コミュニティケア 8: 110-118, 2006

佐伯香織
訪問看護師のための実践！フィジカル・アセスメント
コミュニティケア 8: 119-125, 2006

桜井志保美, 前川厚子, 毛受矩子, 平井眞理
ブロードバンド・インターネットを利用した在宅循環器疾患管理
日本公衆衛生雑誌 53: 815, 2006

小久保起由紀, 河内麻里, 小林裕子, 永野美加, 桜井志保美, 前川厚子, 三浦昌子, 中川三千代, 平井眞理
医療関係者における AED 使用に関する意識調査 - 看護師と病院事務職との比較検討
日本循環器看護学会誌 2: 51-60, 2006

桜井志保美, 前川厚子, 竹井留美, 野田明子, 毛受 彬, 中井 滋, 平井眞理
訪問看護を受ける在宅療養者の主介護者における睡眠障害の実態
保健の科学 48: 783-790, 2006

新實房子, 山田満尚, 道上晋也, 鈴木和代
出生直後のカンガルーケアにおける簿時の安産なポジションの検討
日本助産学会 : 33-38, 2006

前川厚子, 竹井留美, 祖父江正代, 大岩美紀
東洋と西洋の文化交流から生まれる新たな創傷・オストミー・失禁ケア
月刊ナーシング 26: 70-75, 2006

立岡弓子
母性看護実習における記録の書き方
看護資格試験 47: 88, 2006

立岡弓子
母性看護実習における技術
看護資格試験 47: 88-89, 2006

山内豊明
はじめに
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 4-5, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 最終回 胸痛を訴える肺がんの患者さん
ナース専科 26 (10): 74-77, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 10 回 脳梗塞の初期のアセスメント
ナース専科 26 (1): 66-69, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 11 回 在宅ケアでのアセスメント
ナース専科 26 (2): 66-69, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 12 回 アセスメントに五感を活かす
ナース専科 26 (3): 66-69, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 13 回 発症リスクを予測する
ナース専科 26 (4): 66-69, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 14 回 採血後の意識消失
ナース専科 26 (5): 70-73, 2006

山内豊明
フィジカル・アセスメント 基礎レッスン 連載第 15 回 外来待合室での意識消失
ナース専科 26 (6): 70-73, 2006

山内豊明

フィジカル・アセスメント 基礎レッスン連載第 16 回 PTCA 後の急変
ナース専科 26 (7): 70-73, 2006

山内豊明

フィジカル・アセスメント 基礎レッスン連載第 17 回 骨折患者さんの急な嘔吐
ナース専科 26 (8): 74-77, 2006

山内豊明

フィジカル・アセスメント 基礎レッスン連載第 18 回 腹痛を訴える高齢患者さん
ナース専科 26 (9): 82-85, 2006

山内豊明

フィジカルアセスメント テクニック編 呼吸音 -4 つの異常音を聴き分ける
ナース専科 26 (11): 86-89, 2006

山内豊明

フィジカルアセスメント テクニック編 連載 2 呼吸音 -聴き分けた音の意味
ナース専科 26 (12): 78-81, 2006

山内豊明

フィジカルアセスメントの重要性
日本私立看護系大学協会結成 30 周年記念誌 2006 25, 2006

山内豊明

管理者が知っておくべき看護必要度の正しい理解と運用ポイント
ナースマネージャー 8 (5): 6-15, 2006

山内豊明

講師からのメッセージ 第 6 回看護教員「実力養成」講座開催のご案内
看護教育 47 (6):, 2006

山内豊明

静脈確保時に患者の手を温めることは有効か？
Nursing Today 21 (7): 29, 2006

山内豊明

第 1 章 (総論) 在宅におけるフィジカルアセスメント 1 フィジカルアセスメントとは何か
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 7-11, 2006

山内豊明

第 1 章 (総論) 在宅におけるフィジカルアセスメント 2 訪問看護におけるフィジカルアセスメントの意義
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 12-13, 2006

山内豊明

第 1 章 (総論) 在宅におけるフィジカルアセスメント 3 フィジカルアセスメント各技法のポイント
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 14-20, 2006

松澤京子, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 1 熱が出た
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 22-31, 2006

勝川けさ代, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 2 意識がない
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 32-41, 2006

三浦真理, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 3 胸が痛い
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 42-51, 2006

大澤智恵子, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 4 息が苦しい
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 52-65, 2006

池田幸恵, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 5 むくみがある
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 66-75, 2006

原田典子, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 6 活気がない
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 76-85, 2006

松澤京子, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 7 足の先が冷たい
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 86-94, 2006

大澤智恵子, 山内豊明

第2章 (ケースカンファレンス) 利用者・家族の訴えからのアセスメント 8 だるい
コミュニティケア臨時増刊号 事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント 8 (12): 95-103, 2006

〔科研費・班研究等〕

安藤詳子, 橋本芳宏, 前川厚子, 神里みどり, 堀 容子, 澤井美穂

がん性疼痛コントロールに役立つ「痛み計」の開発に関する研究
平成 16-17 年度科学研究費補助金実績報告書平成 16-17 年度科学研究費補助金実績報告書, 2006

葛谷雅文, 植村和正, 益田雄一郎, 安藤詳子, 飯島 節, 小坂陽一, 水川真二郎

高齢者の終末期ケアに関する研究
厚生労働科学研究費補助金 長寿科学研究事業平成 17 年度総括分担研究報告書 18-19, 2006

梶田悦子, 伊木雅之

15 年間の長期追跡研究による骨粗鬆症予防効果の評価と看護指導指針の策定
平成 18 年度科学研究費補助金実績報告書, 2006

立岡弓子, 高橋真理

静岡県下における女性への暴力に対する看護職のヘルスケア支援システムに関する基礎的研究
財団法人 静岡総合研究機構学術教育研究推進事業報告書 56-58, 2006

山内豊明, 宮本敦史, 梅澤昭子, 浦澤智佐, 杉山良子, 寺井美峰子, 松本登紀子, 西海真理, 綿引哲夫, 佐藤景二, 井上彰啓, 長瀬啓介, 鈴木正彦, 清水秀行, 黒山政一, 松月みどり, 任 和子, 山出康世, 古田紀子, 真鍋義弘, 餅田敬司, 小野幸子, 山中寛恵, 柳川達生, 小沼利光, 廣瀬哲雄, 由井尚美, 馬場祐貴子, 釜 英介, 畠中泰司, 北沢直美, 空代馨香, 内田宏美, 佐藤ミヨ子, 幣憲一郎, 酒井美絵子, 大井利夫, 秋山 剛, 重森雅嘉, 横井郁子

ヒヤリ・ハットや事故事例の分析による医療安全対策ガイドラインの作成

ヒヤリ・ハットや事故事例の分析による医療安全対策ガイドライン作成に関する研究厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)平成17年度総括研究報告書 81-359, 2006

山内豊明, 千本美紀, 三笠里香

医療チューブ類事故防止対策に関する学際的探索研究

厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)平成17年度総括研究報告書, 2006

山内豊明, 角間辰之

看護におけるフィジカルアセスメントに関するアウトカム評価研究

平成17年度科学研究費補助金実績報告書, 2006

田中彰子, 嶋森好子, 筒井孝子, 東野定律, 山内豊明

看護職員の労務管理に関する実態調査

平成17年度厚生労働省保健局医療課による委託事業 看護必要度の普及に関する実態調査事業結果報告書 27-54, 2006

山内豊明, 佐々木詩子, 三笠里香, 志賀たずよ

在宅人工呼吸器利用時の処置等に関する意識調査についての予備的調査の試みに関する研究

特定疾患患者の生活の質(Quality of Life, QOL)の向上に関する研究厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 平成17年度 総括・分担研究報告書 61-63, 2006

田中彰子, 嶋森好子, 筒井孝子, 東野定律, 山内豊明

重症度・看護必要度に係わる評価方法等に関する実用的な教育研修用の視聴覚教材の開発

平成17年度厚生労働省保健局医療課による委託事業 看護必要度の普及に関する実態調査事業結果報告書 3-26, 2006

[その他の印刷物等]

鈴木和代

刊行のことば

市民・企業・行政が連携した全市ぐるみの嚙下障害の実践活動の研究「看護と社会」研究会 1: 1, 2006

安藤詳子

よりよい緩和ケアの実践を目指して

unite (医療/薬品) 赤崎記念研究奨励事業 2006, p 38-39, 2006

安藤詳子

痛み計による主観的な疼痛のモニタリング

システックシーズセレクション(中部の技術シーズ), p333 財団法人 中部技術科学センター, 2006

安藤詳子

名声会の皆さまへ

名声会会報 36: 11-12, 2006

永井邦芳

本との話

精神科看護 33 (10): 90-91, 2006

清水三紀子

東京都大田区の中小企業の変容と社会的変容 ～「産業社会と地域社会」に関する調査(中間報告)～

現代社会の構想と分析 4: 134-143, 2006

清水三紀子

病院だけでは、患者の“暮らし”は守れない～認知症を伴った嚥下障害者の家族をもつ看護師の立場から～

市民・企業・行政が連携した全市(焼津市)ぐるみの嚥下障害ケアの実践活動の研究～介護にたずさわる人々を軸にした高齢

者ケア・住みよいまちづくりの形成～現代社会構想・分析研究所 67-69, 2006

山内豊明

アメリカの医療・保険制度のシステムを学びこれからの日本の医療を考える

VIVO 徳洲会東京本部 (8): 13, 2006

山内豊明

実践的な看護教育を卒後に集中的に行うことでまずはゼネラリストとしての裾野を広げていく研修を

VIVO 徳洲会東京本部 (8): 20-21, 2006

〔学会発表〕

山内豊明, 佐々木詩子, 三笠里香, 志賀たずよ

在宅人工呼吸器利用時の処置等に関する意識についての予備的調査の試み(特定疾患患者の生活の質(Quality of life, QOL)の向上に関する研究 平成 17 年度研究報告会プログラム・抄録集)

厚生労働省難治性疾患克服研究事業, 2006.1 (東京)

深谷陽子, 安藤詳子, 中村みゆき, 澤井美穂

ペインコントロールに対するがん患者のセルフケアを促す痛み計の開発(日本がん看護学会誌 第 20 巻 特別号 p 236, 2006)

第 20 回日本がん看護学会学術集会, 2006.2 (仙台)

北田美穂, 神里みどり, 安藤詳子, 前川厚子

化学療法中の卵巣がん患者の身体的・精神的苦痛とその対処(日本がん看護学会誌 第 20 巻 特別号 p 330, 2006)

第 20 回日本がん看護学会学術集会, 2006.2 (仙台)

中村みゆき, 安藤詳子, 深谷陽子, 澤井美穂, 神里みどり, 前川厚子

大学病院における緩和ケアの現状に対する看護師・医師・薬剤師の認識(日本がん看護学会誌 第 20 巻 特別号 p 242, 2006)

第 20 回日本がん看護学会学術集会, 2006.2 (仙台)

池松裕子

Patient safety in Japan (3rd Congress World Federation of Critical Care Nurses Abstract, p38)

3rd Congress World Federation of Critical Care Nurses, 2006.2 (フィリピン)

新實夕香理, 藤井徹也, 佐伯香織, 相原優子, 河津芳子
血圧測定技術の指導に関する一考察 (抄録集)
第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術学会, 2006.3 (横浜)

佐伯香織, 藤井徹也
「電法法の効果に関する研究」の文献的検討 (第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会・抄録集 p 45, 2006)
第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会, 2006.3 (横浜)

白井裕子, 百合純子, 佐久間佐織, 須賀京子, 藤井徹也
Y 式足浴法がもたらす心理的・主観的效果 (第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会・抄録集 p 33, 2006)
第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会, 2006.3 (横浜)

新實夕香理, 藤井徹也, 佐伯香織, 相原優子, 河津芳子
血圧測定技術の指導に関する一考察 (第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会・抄録集 p 34, 2006)
第 10 回日本看護研究学会東海地方会学術集会, 2006.3 (横浜)

佐藤好恵, 藤井徹也, 木村 勝, 小澤由紀, 酒井一由, 浅本 憲, 中野 隆
殿部への筋肉内注射の適切な部位の検討 -第 4 報上殿神経の走行について- (日本解剖学会第 111 回総会・全国学術集会抄録号
p 164, 2006)
日本解剖学会第 111 回総会・全国学術集会, 2006.3 (相模原)

OGURA Yasuhiro, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, AOYAMA Yutaka, ISHIKAWA Makoto, YAMASHITA Kentarou,
SUZUKI Hirohiko, MURAMATSU Takashi, TATEMATSU Yasushi, NANASATO Mamoru, MIWATA Satoru, HIRAYAMA
Haruo, ITOH Teruo, OKADA Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, INDEN Yasuya, IZAWA Hideo, MURO-
HARA Toyoaki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji
Acute Hemodynamic Effects of Tr-ventricular and Bi-ventricular Pacing on LV Systolic Function in Patients with HF and
IVCD
Circ J, 2006.3 (名古屋)

HARATA Shuji, INDEN Yasuya, SHIMANO Masayuki, TAKAGI Katsumasa, TSUJI Yukiomi, MUTOH Masahiro, OHASHI
Naoki, TAKADA Yasunobu, KONDO Takahisa, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Amyloid A Protein in Patients with Atrial Fibrillation and Flutter
Circ J, 2006.3 (名古屋)

YOSHIDA Naoki, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, NINOMIA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro,
SHIMIZU Takshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**,
MUROHARA Toyoaki
Can Further Vagal Denervation Help Prevent Late Recurrence of Atrial Fibrillation after Standard Circumferential Pul-
monary Vein Isolation?
Circ J, 2006.3 (名古屋)

NINOMIYA Yuichi, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, YOSHIDA Naoki, OKAMOTO Mitsuhiro,
SHIMIZU Takshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**,
MUROHARA Toyoaki
Characteristics of Myocardial Fibers and Network of Superior Vena Cava in Paroxysmal Atrial Fibrillation
Circ J, 2006.3 (名古屋)

ISHIKAWA Makoto, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, AOYAMA Yutaka, SUZUKI Hirohiko, YAMASHITA Kentarou, OGURA Yasuhiro, MURAMATSU Takashi, TATEMATSU Yasushi, NANASATO Mamoru, MIWATA Satoru, HIRAYAMA Haruo, ITOH Teruo, OKADA Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, INDEN Yasuya, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyooki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Clinical Effectiveness of Cardiac Resynchronization Therapy in Patients with Heart Failure and Intraventricular Conduction Delay Caused by Cardiac Sarcoidosis

Circ J, 2006.3 (名古屋)

TAKAGI Katsumasa, INDEN Yasuya, SHIMANO Masayuki, HARATA Shuji, TSUJI Yukiomi, MUTOH Masahiro, OHASHI Naoki, TAKADA Yasunobu, KONDO Takahisa, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyooki

Left-to-Right Atrial Frequency Gradient Existing in Paroxysmal Atrial Fibrillation Disappeared in Chronic Phase

Circ J, 2006.3 (名古屋)

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, YOSHIDA Naoki, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyooki

Longitudinal Myocardial Fibers Extend Even from the Antrum to the Distal Pulmonary Vein: Relevance for Pulmonary Vein Antrum Ablation

Circ J, 2006.3 (名古屋)

YAMASHITA Kentarou, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, AOYAMA Yutaka, ISHIKAWA Makoto, SUZUKI Hirohiko, OGURA Yasuhiro, MURAMATSU Takashi, TATEMATSU Yasushi, NANASATO Mamoru, MIWATA Satoru, HIRAYAMA Haruo, ITOH Teruo, OKADA Taro, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, INDEN Yasuya, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyooki, **HIRAI Makoto**, TOYAMA Junji

Midterm Outcome of Single-site Left Ventricular Pacing ICD in Patients with Heart Failure, IVCD and VT/VF

Circ J, 2006.3 (名古屋)

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, YOSHIDA Naoki, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyooki

Non-Pulmonary Vein Epicardialoci of Atrial Fibrillation Identified after Pulmonary Vein Isolation

Circ J, 2006.3 (名古屋)

INDEN Yasuya, SHIMANO Masayuki, TAKAGI Katsumasa, HARATA Shuji, TSUJI Yukiomi, MUTOH Masahiro, OHASHI Naoki, TAKADA Yasunobu, KONDO Takahisa, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyooki

Paroxysmal Atrial Fibrillation Terminates by Pilsicainide through Attenuation of Left-to-Right Atrial Frequency Gradient

Circ J, 2006.3 (名古屋)

YOSHIDA Naoki, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takashi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiro, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyooki

Preferential Conduction Across the Ventricular Outflow Septum in Ventricular Arrhythmias Originating from the Aortic Sinus Cusp

Circ J, 2006.3 (名古屋)

TAKADA Yasunobu, INDEN Yasuya, SHIMANO Masayuki, TAKAGI Katsumasa, TSUJI Yukiomi, MUTOH Masahiro, OHASHI Naoki, HARATA Shuji, KONDO Takahisa, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Pulmonary Vein Isolation Improves the Conduction Delay of Atria in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation
Circ J, 2006.3 (名古屋)

YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, YOSHIDA Naoki, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Significant Reduction in the Plasma ANP and BNP Levels after Radiofrequency Ablation of Atrial Fibrillation
Circ J, 2006.3 (名古屋)

YOSHIDA Naoki, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Vagal Denervation Can also Help Prevent Late Recurrence of Atrial Fibrillation after Segmental Ostial Pulmonary Vein Isolation
Circ J, 2006.3 (名古屋)

YOSHIDA Naoki, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, NINOMIYA Yuichi, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Vagal Denervation Can be a Valid Predictor of Late Recurrence of Atrial Fibrillation Independent of the Pulmonary Vein Isolation Technique
Circ J, 2006.3 (名古屋)

NINOMIYA Yuichi, YAMADA Takumi, MURAKAMI Yoshimasa, OKADA Taro, YOSHIDA Naoki, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, TOYAMA Junji, YOSHIDA Yukihiko, TSUBOI Naoya, ITOH Teruo, INDEN Yasuya, **HIRAI Makoto**, MUROHARA Toyoaki
Why is Circumferential Pulmonary Vein Isolation More Reliable for Curing Paroxysmal Atrial Fibrillation Than Segmental Pulmonary Vein Ostial Isolation?
Circ J, 2006.3 (名古屋)

山内豊明

ICU・CCUにおけるフィジカルアセスメント（循環）（日本集中治療医学会雑誌 第33回日本集中治療医学会学術集会プログラム・抄録集）
第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006.3 (大阪)

池松裕子

クリティカルケア看護の進歩と看護部会の役割（第33回日本集中治療医学会学術集会 プログラム・抄録集 p250）
第33回日本集中治療医学会学術集会, 2006.3 (大阪)

塚田月見, 飯田和子, 榊原久孝

耳栓チェッカーを用いた個別騒音労働衛生教育の効果について（産衛誌 48(臨時増刊): 521, 2006）
第79回日本産業衛生学会, 2006.5 (仙台)

榊原久孝, 阿部充満, 樋端規邦

振動障害患者の膝関節症（産衛誌 48(臨時増刊): 376, 2006）
第79回日本産業衛生学会, 2006.5 (仙台)

ITO Miho, YASUDA Jun, HINOYASHI Toshihiko, & MINAMI Tetsuhiro

Development of infants' eating behaviors and mother-infant interactions (15th Biennial International Conference on Infant Studies Program (CD-ROM) pp 223-224)
ICIS, 2006.6 (Kyoto, Japan)

KAJITA Etsuko, NAKATANI Yoshimi, MATSUBARA Isamu, KOMATSU Misa, KAGAMIMORI Sasanobu

Relationship between the experience of falls and fracture and the state of social participation in female elderly people living in the local community (IOF World Congress on Osteoporosis 17, p 205)
IOF World Congress on Osteoporosis, 2006.6

宮城島恭子, 奈良間美保, 堀 妙子, 田中千代

小児在宅ケアに対する病院の意識
第 2 回 小児在宅ケア研究会, 2006.6 (名古屋)

MAEDA Jukai, **OTA Katsumasa**, YAHIRO Michiko, MAYUMI Naoya

Locating Non-Working Nurses in Japan: Feasibility Study
9th International Congress in Nursing Informatics 2006, in Seoul, Korea, 2006.6 (Seoul, Korea)

OTA Katsumasa, IGUCHI Hiroko, ASANUMA Yuko, YANOUCHI Kazushi, KADOI Takako, NAKAMURA Megumi, KARASAWA Yumiko, MAEDA Jukai, MATSUDA Masami

Nurses' Perception on Information Privacy in Japan
9th International Congress in Nursing Informatics 2006, in Seoul, Korea, 2006.6 (Seoul, Korea)

SAKAKIBARA Hisataka

Some aspects of pathophysiology of vibration-induced white finger (Abstracts. pp 7-8, 2006)
First American Conference on Human Vibration, 2006.6 (Morgantwon, USA)

堀田将士, 山内豊明

看護師とリハビリテーション専門職における看護師業務内容の理解 (日本医療マネジメント学会雑誌)
第 8 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2006.6 (横浜)

岡本裕賀理, 山内豊明

看護必要度における効果的な評価者養成方法についての検討 (日本医療マネジメント学会雑誌)
第 8 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2006.6 (横浜)

池松裕子

クリティカルケア看護のあしたをめざして (第 14 回日本集中治療医学会 東北北陸地方会 プログラム・抄録 p 33)
第 14 回日本集中治療医学会 東海北陸地方会, 2006.6 (富山)

安藤詳子, 澤井美穂, 神里みどり

大学病院における集学的がん治療から緩和ケアへのギアチェンジの問題点 -看護師調査から (第 11 回日本緩和医療学会 講演抄録集 p 83, 2006)
第 11 回日本緩和医療学会, 2006.6 (横浜)

岩瀬貴美子, 奈良間美保

外来受診中にある思春期小児がん患者の自己効力感と健康行動
第 16 回 日本小児看護学会学術集会 講演集, 2006.7 (横浜)

神道那実, 奈良間美保, 浅野みどり

小児血液疾患患児の療養行動における自主性の現状 -病状説明と親の関わりに焦点を当てて-
第 16 回 日本小児看護学会学術集会 講演集, 2006.7 (横浜)

堀 妙子, 奈良間美保, 宮城島恭子, 田中千代

小児在宅療養の支援において看護師がとらえている課題-コーディネーター研修会の事例検討より-
第 16 回 日本小児看護学会学術集会 講演集, 2006.7 (横浜)

井口弘子, 太田勝正

患者・看護師の情報プライバシーに関する認識
第 31 回日本看護研究学会学術集会, 2006.7 (大分)

西田友子, 榊原久孝

成人女性における瘡せと身体的健康状態との関連 (抄録集 p 43, 2006)
第 51 回東海公衆衛生学会学術大会, 2006.7 (大府)

原田直子, 榊原久孝

地域筋力強化教室終了後 7 カ月後の効果に関する研究 (抄録集 p 40, 2006)
第 51 回東海公衆衛生学会学術大会, 2006.7 (大府)

立岡弓子, 山口香苗

静岡県下における女性への暴力に対する看護職のヘルスケア支援システムに関する基礎的研究
第 19 回静岡県母性衛生学会学術集会プログラム, 2006.7 (静岡)

横内光子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 沼崎穂高, 石井豊恵, 藤本春美, 尾島直子

タイムスタディによる業務スケジュールリング分析 (第 7 回看護情報研究会論文集 pp 25-28, 2006)
第 8 回看護情報研究会論文集, 2006.7 (神戸)

杉本浩子, 坊田香織, 横内光子, 岡田淳子, 中信利恵子, 前田理江, 植田喜久子

看護学生の災害トリアージ訓練の結果から見た教育的課題 -第 2 報- (日本災害看護学雑誌 8(1): 73, 2006)
日本災害看護学会第 8 回年次大会, 2006.7 (東京)

神道那実, 奈良間美保, 浅野みどり

小児血液疾患患児の療養行動における自主性の現状 ~病状説明と親の関わりに焦点を当てて~
日本小児看護学会 第 16 回学術集会, 2006.7 (横浜)

石井 真, 浅野みどり

乳幼児期の喘息児を持つ親の養育体験の意味づけと看護に関する研究
日本小児看護学会 第 16 回学術集会, 2006.7 (横浜)

篠崎恵美子, 山内豊明

看護基礎教育におけるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ~呼吸に焦点をあてて~ (医学教育)
第 38 回日本医学教育学会大会, 2006.7 (奈良)

丸住聡子, 山内豊明

看護臨床の場でのフィジカルアセスメントについて (医学教育)
第 38 回日本医学教育学会大会, 2006.7 (奈良)

佐々木詩子, 山内豊明

客観的指標を利用した実践の知の検証—長期臥床患者における起立性低血圧の観察—(医学教育)
第 38 回日本医学教育学会大会, 2006.7 (奈良)

河津芳子, 新實夕香理, 藤井徹也

「分かち合い」における学生の学び (日本看護学教育学会第 16 回学術集会講演集 p130, 2006)
日本看護学教育学会第 16 回学術集会, 2006.8 (名古屋)

百合純子, 白井裕子, 佐久間佐織, 須賀京子, 藤井徹也

Y 式足浴法がもたらす生理心理学的効果 (第 32 回日本看護研究学会学術集会 29(3): 257, 2006)
第 32 回日本看護研究学会学術集会, 2006.8 (大分)

佐伯香織, 藤井徹也

温電法の効果に関する研究の信頼性の検討 (第 32 回日本看護研究学会学術集会 29(3): 253, 2006)
第 32 回日本看護研究学会学術集会, 2006.8 (大分)

新實夕香理, 藤井徹也, 佐伯香織, 河津芳子

基礎看護学実習における血圧・脈拍測定の技術修得状況 (日本看護学教育学会第 16 回学術集会講演集 p146, 2006)
日本看護学教育学会第 16 回学術集会, 2006.8 (名古屋)

藤井徹也, 佐伯香織, 門井貴子, 中野 隆, 中山和弘

基礎看護技術に必要なとされる専門基礎知識について—開講時期に焦点をあてて—(第 32 回日本看護研究学会学術集会 29(3):
238, 2006)
第 32 回日本看護研究学会学術集会, 2006.8 (大分)

伊藤千晴, 小笠原ゆかり, 小塩泰代, 河津芳子

グループ学習の学習効果—認知・情意両側面からの検討
第 16 回日本看護学教育学会学術集会講演集, 139, 2006.8 (名古屋)

SAKAKIBARA Hisataka, MAEDA Setsuo

Measurement of head vibration during operating pneumatic tools in quarry work
14th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration, 2006.8 (Hachioji)

安藤詳子

看護師の終末期ケアに対する満足度と関連要因 (日本看護研究学会雑誌 29 巻 3 号 p214, 2006)
第 32 回日本看護研究学会, 2006.8 (別府)

中村みゆき, 安藤詳子

大学病院における集学的ながん治療から緩和ケアへの転換に対する看護師・医師・薬剤師の認識 (日本看護研究学会雑誌 29
巻 3 号 p213, 2006)
第 32 回日本看護研究学会, 2006.8 (別府)

松野早苗, 山内豊明

看護師の勤務年数とクリティカルシンキング (第 10 回看護管理学会年次大会講演抄録集)
第 10 回日本看護管理学会年次大会, 2006.8 (東京)

嶋森好子, 田中彰子, 山内豊明

看護職員の労務管理に関する実態調査-DPC 導入による看護管理上の変化についての質問紙調査- (第 10 回看護管理学会年次大会講演抄録集)

第 10 回日本看護管理学会年次大会, 2006.8 (東京)

原田修治, 因田恭也, 高田康信, 高木克昌, 辻 幸臣, 山内正樹, 海野一雅, 近藤隆久, 室原豊明, 平井眞理, 大橋直樹.

心室細動に対し ICD 植込みを行った小児 2 症例

日本心電学会誌, 2006.9 (東京)

吉田彦彦, 小椋康弘, 鈴木博彦, 山下健太郎, 村松 崇, 立松 康, 七里 守, 平山治雄, 臼井真人, 田嶋一喜, 坪井直哉, 伊藤昭男,

岡田太郎, 山田 功, 村上善正, 因田恭也, 室原豊明, 平井眞理, 外山淳治

心臓サルコイドーシスに起因するうっ血性心不全に対する心臓同期療法の効果

日本心電学会誌, 2006.9 (東京)

武藤真広, 岡田耕治, 杉山 壮, 高仲知永, 因田恭也, 高田康信, 室原豊明, 平井眞理, 山田 功, 村上善正, 岡田太郎.

心房粗細動に対する解剖学的狭部アブレーション後に心房細動が増悪し治療に難渋した 3 例

日本心電学会誌, 2006.9 (東京)

武藤真広, 岡田耕治, 杉山 壮, 高仲知永, 因田恭也, 高田康信, 室原豊明, 平井眞理, 山田 功, 村上善正, 岡田太郎.

心房粗動に対する解剖学的狭部線状アブレーションの 1 か月後に希有型房室結節リエントリー性頻拍を来した 1 例

日本心電学会誌, 2006.9 (東京)

清水三紀子, 森田せつこ

妊産婦のエンパワーメントを刺激する出産準備教育の検討 [第 2 報] (母性衛生学会誌 47(3): 225, 2006)

母性衛生学会, 2006.9 (名古屋)

FUKAYA Yoko, ANDO Shoko, MIZUNO Toshiko, SAWAI Miho, KAMIZATO Midori, MAEKAWA Atsuko

Development of the "Pain Level Memory" to promote self-care of patients in cancer pain management (Abstract Book p 156, 2006)

14th International Conference on Cancer Nursing, 2006.10 (Toronto)

KITADA Miho, KAMIZATO Midori, AIHARA Yuko, TAUCHI Kaori, ANDO Shoko, MAEKAWA Atsuko

Self-reflection process of ovarian cancer patients with nurses' partnership during chemotherapy treatment (Abstract Book p 173, 2006)

14th International Conference on Cancer Nursing, 2006.10 (Toronto)

SAWAI Miho, ANDO Shoko, TSUTSUI Ikue, FUKAYA Yoko, KAMIZATO Midori, MAEKAWA Atsuko

Stress among the palliative cancer nursing in general wards (Abstract Book p 156, 2006)

14th International Conference on Cancer Nursing, 2006.10 (Toronto)

梶田悦子, 小松美砂, 武内さやか, 三田村純枝, 阿部喜代子, 森田明美, 伊木雅之

15 年間の長期追跡調査による生活習慣要因の骨密度変化への影響 (日本公衆衛生学会抄録集 53 (10))

日本公衆衛生学会, 2006.10 (富山)

中谷芳美, 松原勇, 梶田悦子, 鏡森定信

地域在住の女性高齢者における転倒・骨折経験と社会参加との関連 (日本公衆衛生学会抄録集 53 (10))

日本公衆衛生学会, 2006.10 (富山)

武内さやか, 小松美砂, 梶田悦子, 江藤真紀, 吉田久美子

地域在住の要介護高齢者における転倒恐怖と閉じこもりの関係 (日本公衆衛生学会抄録集 53 (10))
日本公衆衛生学会, 2006.10 (富山)

小笠原ゆかり, 小塩泰代, 世古美恵子, 河津芳子

日本における過去 10 年間の看護学教育研究の動向
第 8 回日本看護医療学会学術集会, 2006.10 (岐阜)

安藤映梨子, 榊原久孝

筋・神経系難病在宅療養者における QOL と社会資源利用との関係 (抄録集 pp 571, 2006)
第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

藤井千恵, 榊原久孝

児童生徒の体格とインスリン抵抗性等との関連 (抄録集 pp 239, 2006)
第 27 回日本肥満学会, 2006.10 (神戸)

榊原久孝

振動障害の上肢神経伝達速度検査
平成 18 年度日本産業衛生学会振動障害研究会, 2006.10 (大阪)

西田友子, 榊原久孝

成人女性における低体重及び体重減少と身体的健康状態との関連 (抄録集 pp 623, 2006)
第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

原田直子, 榊原久孝

地域筋力強化教室終了後 10 カ月後の効果に関する研究 (抄録集 pp 757, 2006)
第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

梶岡多恵子, 都竹茂樹, 榊原久孝, 佐藤祐造, 島岡 清

中年肥満女性の自重・筋力トレーニング継続実施効果ー厚労省国保ヘルスアップ事業 1 年間の効果 (抄録集 pp 192, 2006)
第 27 回日本肥満学会, 2006.10 (神戸)

桜井志保美, 前川厚子, 毛受矩子, 平井真理

ブロードバンド・インターネットを利用した在宅循環器疾患管理
第 65 回日本公衆衛生学会, 2006.10 (富山)

岡田 武, 堀 容子, 前川厚子, 桜井志保美, 新實夕香理, 丹羽さゆり, 浜島久美子, 小笠原ゆかり, 濱本律子, 星野純子

半構成的面接法による在宅重度要介護者の主介護者における健康管理の現状と問題点と分析 (第 8 回日本看護医療学会学術集会プログラム・講演抄録集 pp 24, 2006)
第 8 回日本看護医療学会, 2006.10 (岐阜)

澤井美穂, 安藤詳子

慢性期看護学実習で終末期患者を梅持った学生の学び 実習終了後レポートより (予稿集 p 240)
第 30 回日本死の臨床研究会, 2006.10 (大阪)

伊藤美保

離乳期における子どもの食行動と母親のかかわり (日本公衆衛生雑誌第 53 巻 第 10 号 第 65 回日本公衆衛生学会総会抄録集 p 653, 2006)

第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

高橋由紀, 渡邊実香, 岡山久代他 3 名

大学助産師教育における助産学実習技術評価の検討

第 46 回日本母性衛生学会学術集会抄録集, p 220, 2006.10 (名古屋)

山田知子, 三浦清世美, 石黒彩子, 上田ゆみこ, 浅野みどり, 杉浦太一

喘息をもつ子どもの QOL 低下要因の検討-JSCA-QOL3.0 を用いた全国調査の結果より-

第 8 回日本看護医療学会学術集会, 2006.10 (岐阜)

佐藤好恵, 藤井徹也, 佐伯香織, 新實夕香理, 小澤由紀, 中野 隆

殿部筋肉注射部位における神経・血管損傷の危険性について (日本看護技術学会第 5 回学術集会講演抄録集 p 99, 2006)

日本看護技術学会第 5 回学術集会, 2006.11 (岡山)

山内一史, 太田勝正, 猫田泰敏, 水流聡子, 真嶋由貴恵, 前田樹海, 佐々木典子, 浅沼優子, 遠藤良仁

Consumer Health Informatics 教育上の問題点

第 26 回医療情報学連合大会, 2006.11 (札幌)

井口弘子, 太田勝正

患者のプライバシー意識を反映したカルテ情報共有範囲の簡便な設定法についての検討

第 26 回医療情報学連合大会, 2006.11 (札幌)

西谷直子, 榊原久孝

自覚的睡眠不足感と白血球数との関係 (抄録集 pp 63-64, 2006)

平成 18 年度日本産業衛生学会東海地方会学術集会, 2006.11 (岐阜)

伊藤美保, 志澤康弘, 安田 純, 日野林俊彦, 南 徹弘

食事場面における母親の注意喚起行動と子どもの行動との関連 (日本心理学会第 70 回大会発表論文集 p 1223, 2006)

第 70 回日本心理学会, 2006.11 (福岡)

TATEOKA Yumiko

Psychoendocrinological stress in mothers during lactation and its correlation with the mother's milk immunity (The 12th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine Program & Abstracts)

The 12th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, 2006.11 (Australia)

立岡弓子, 山口香苗

冷凍母乳パックの母乳中抗菌性蛋白質の変化に関する研究 (日本母性衛生学会誌 第 47 巻 第 3 号)

第 47 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集, 2006.11 (名古屋)

山口香苗, 立岡弓子

女子学生の低用量ピルに関する意識調査と性教育への取り組み (日本母性衛生学会誌 第 47 巻 第 3 号)

第 47 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集, 2006.11 (名古屋)

高橋由紀, 渡邊実香, 岡山久代, 濱松加寸子, 鈴木和代, 森田せつ子
愛知県助産師会電話相談 7 年間の取り組みから (母性衛生)
日本母性衛生学会, 2006.11 (名古屋)

高橋由紀, 渡邊実香, 岡山久代, 濱松加寸子, 鈴木和代, 森田せつ子
大学助産師教育における自己評価式助産診断・分娩介助技術到達度とその活用について (母性衛生)
日本母性衛生学会, 2006.11 (名古屋)

澤井美穂, 安藤祥子
慢性期看護学実習で終末期患者を受け持った看護学生の学び (第 30 回日本死の臨床研究会 予稿集 p.240, 2006)
第 30 回日本死の臨床研究会, 2006.11 (山口)

高田真澄, 高田宗樹, 宮尾 克, 山内豊明
高齢者の血圧測定に必要とされる安静時間の妥当性についての実証的研究
第 21 回生体・生理工学シンポジウム, 2006.11 (鹿児島)

増井麻依子, 河野由理
回復者主導型薬物依存症回復施設における回復支援策の立案に関する研究
第 26 回日本看護科学学会学術集会, 2006.12 (神戸)

奈良間美保, 村上泰子, 堀 妙子, 宮城島恭子, 田中千代, 茂本咲子, 松岡真里, 大須賀美智
小児在宅ケアにおけるコーディネーター教育プログラムの評価 - 看護師の認識の変化を分析して -
第 26 回 日本看護科学学会学術集会講演集, 2006.12 (神戸)

山内一史, 太田勝正, 猫田泰敏, 水流聡子, 真嶋由貴恵, 前田樹海, 浅沼優子, 遠藤良仁
看護情報学関連分野の日本語教科書の内容検討
第 26 回日本看護科学学会学術集会, 2006.12 (神戸)

太田勝正, 山内一史, 浅沼優子, 中村 恵, 唐澤由美子, 井口弘子
他職種との情報共有に影響する要因の検討: 患者の プライバシーか情報の必要性か
第 26 回日本看護科学学会学術集会, 2006.12 (神戸)

篠崎恵美子, 山内豊明
フィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ ~ 呼吸に焦点をあてて ~
第 26 回日本看護科学学会学術集会, 2006.12 (神戸)

山内豊明, 今磯純子, 佐々木詩子, 三笠里香, 志賀たずよ
人工呼吸器装着 ALS 在宅療養者への安全な気管内吸引実施能力の評価項目の検討 (特定疾患患者の生活の質 (Quality of Life, QOL) の向上に関する研究 平成 18 年度研究報告会プログラム・抄録集)
厚生労働省 難治性疾患克服研究事業, 2006.12 (東京)

[公開講座・講演会]

鈴木和代
自分らしく生きる ~ 性と生を考える ~
2006.1 (豊川)

安藤詳子

生命の循環を暮らしの中に (敬老の日特別シンポジウム「100年の命, 100年の心」～健康に, 豊かに生きる長寿社会～)
名古屋大学医学部主催, 2006.9 (犬山)

浅野みどり

妊娠中からの母子保健による子育て支援～オレゴン州における予防的育児支援の現状～ (妊娠中から乳児健診までの母子保健に関する推進会議)
2006.12 (刈谷)

浅野みどり

分科会 I「発生予防」(東海・北陸ブロック児度福祉司研修会)
2006.10 (名古屋)

河野由理

精神科看護における効果的な学生指導や教育のあり方について
市立病院看護師研修会, 2006.11 (一宮)

奈良間美保

医療を必要としている子どもと家族への対応を考える『入院から在宅へ継続的に家族を支える—小児在宅ケアを中心に—』
静岡県看護協会, 2006.10 (静岡)

奈良間美保

小児在宅ケアにおけるコーディネーター研修会のねらい
平成 18 年度第 1 回 小児在宅ケアコーディネーター研修会, 2006.6 (名古屋)

奈良間美保

平成 18 年度コーディネーター研修会の振り返りと今後の課題
平成 18 年度第 3 回 小児在宅ケアコーディネーター研修会, 2006.12 (名古屋)

奈良間美保

慢性疾患患児の在宅療養に向けた支援『慢性疾患患児の在宅ケアの現状と課題』
日本看護協会 神戸研修センター, 2006.10 (神戸)

太田勝正

看護教育における倫理的配慮
平成 18 年度愛知県看護研究学会シンポジウム, 2006.11 (名古屋)

榊原久孝

生活習慣病と運動
平成 18 年度総合保健体育科学センター「運動開発のための運動基礎理論」, 2006.8 (名古屋)

榊原久孝, 藤井千恵

生活習慣病と子供たち～健康調査結果について～
松川町教育連携授業講演会, 2006.10 (松川(長野))

榊原久孝

生活習慣病を通じた健康づくり
豊橋市ヘルスボランティア地域活動講座, 2006.7 (豊橋)

榊原久孝

生活習慣病予防の知識と最新情報

四日市市生活習慣病予防公開講座, 2006.9 (四日市)

榊原久孝

地域を支えるトータルヘルスプランナーの育成

第1回大幸ライフトピア・タウンミーティング(ケアマネ編), 2006.10 (名古屋)

榊原久孝

地域を支える健康管理 -トータルヘルスプランナー (THP) の育成-

第2回名古屋大学ホームカミングデイ, 2006.9 (名古屋)

榊原久孝

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)ってなんでこわいの?

第30回松川町健康を考える集会, 2006.1 (松川(長野))

榊原久孝

肥満とメタボリックシンドローム

平成18年度下飯田地区養護教諭研修会, 2006.7 (飯田)

鈴木和代

だからからだゼミナール「親子でたどるいのちの旅~わたしたちのはじまりとつながり~」

2006.3 (名古屋)

立岡弓子

女子大学生のリプロダクティブヘルス

静岡県健康支援センター健康サポート講座, 2006.11 (静岡)

放射線技術科学専攻

2 放射線技術科学専攻

〔著書〕

小山修司

第5章 X線CTの線量測定の実際

『放射線医療技術学叢書(25) 医療被ばく測定テキスト』(前川昌之編集)日本放射線技術学会, 2006. pp44-58

小幡康範

生物学的等価線量

『放射線治療技術学(放射線技術学シリーズ)』(熊谷孝三編著)オーム社, 2006. pp69-76

小幡康範

放射線治療の生物学

『放射線治療技術学(放射線技術学シリーズ)』(熊谷孝三編著)オーム社, 2006. pp51-68

島本佳寿広

各疾患の画像診断D. 結合織性および上皮性混合腫瘍, 乳腺症・その他腫瘤様病変

『診療放射線技師に知って欲しい画像診断 乳房』(遠藤登喜子) 医療科学社, 2006. pp170-187

島本佳寿広

総論II. 撮像法とビットフォール B. 超音波

『診療放射線技師に知って欲しい画像診断 乳房』(遠藤登喜子) 医療科学社, 2006. pp31-39

〔原著論文〕

TERAMOTO Atsushi, MURAKOSHI Takayuki, **TSUZAKA Masatoshi**, FUJITA Hiroshi

Automated X-ray Inspection Method for Fillet-less Mounted Chip Components.

IEEJ Transactions of Electrical & Electronic Engineering 2: 195-197, 2006

TOHNO Eriko, SAWAI Kiyoshi, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, UENO Ei, ENDOU Tokiko, TSUNODA-SHIMIZU Hiroko, SHIRAI Hideaki, TAKADA Etsuo

Establishment of seminars to improve the diagnostic accuracy and effectiveness of breast ultrasound

J Med Ultrasonics 33: 239-244, 2006

MURAMOTO Hideyuki, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, **IKEDA Mitsuru**, KOYAMA Kazuyuki, FUKUSHIMA Hiromichi, ISHIGAKI Takeo

Influence of monitor luminance and room illumination on soft-copy reading -Evaluation with electronically generated contrast-detail phantom: comparison of cathode-ray tube monitor with liquid crystal display

Nagoya J Med Sci 68: 115-120, 2006

KOYAMA Kazuyuki, **SHIMAMOTO Kazuhiro**, **IKEDA Mitsuru**, MURAMOTO Hideyuki, SATAKE Hiroko, SAWAKI Akiko, KATO Katsuhiko, FUKUSHIMA Hiromichi, ISHIGAKI Takeo

Intra- and interobserver agreement and performance score of breast phantom image interpretation: influence of ambient room lighting levels

Nagoya J Med Sci 68: 147-153, 2006

USAMI Hisashi, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo, FUKUSHIMA Hiromichi, **SHIMAMOTO Kazuhiro**

The influence of liquid crystal display (LCD) monitors on observer performance for the detection of nodular lesions on chest radiographs

Eur Radiol 16: 726-732, 2006

瀬口繁信, 青山隆彦, 小山修司, 川浦稚代

人体ファントム線量計測に基づいた冠動脈造影と冠動脈インターベンション術における患者の被ばく線量評価

保健物理 41: 234-248, 2006

MATSUNAGA Sayoko, MIYATI Tosiaki, ONOGUCHI Masahisa, SUZUKI Masayuki, MATSUDA Tsuyoshi, IDO Eri, MATSUURA Yukihiko, **ICHIKAWA Katsuhiko**, KASAI Harumasa

Dual double-gradient-echo MRI for liver fat content analysis

医用画像情報学会雑誌 23: 8-10, 2006

HORII Akiko, TAKAMURA Miho, **ICHIKAWA Katsuhiko**, **KODERA Yoshie**, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo

Measurement of MTFs for monochrome and color liquid crystal displays

Proc. SPIE 6141: 1-8, 2006

ICHIKAWA Katsuhiko, HORII Akiko, **KODERA Yoshie**

Novel NPS measurement method for medical liquid crystal display using periodic components subtraction technique

Proc. SPIE 6142: 1-8, 2006

市川勝弘・小寺吉衛・大橋一也・杉山雅之・宮地利明・藤田広志

等解像度画像を用いた CT の性能評価

日本放射線技術学会 62: 522-528, 2006

NIIMI Takanaga, **IMAI Kuniharu**, **IKEDA Mitsuru**, **MAEDA Hisatoshi**

A method of clustering observers with different visual characteristics

Eur J Radiol 57: 158-161, 2006

KAMEI Seiji, ISHIGUCHI Tsuneo, MURATA Katsuhito, MATSUDA Joe, OHNO Ryota, KIMURA Junko, NAKAMURA Atsushi, OHNO Kazuko, KAWAMURA Toshiki, **IKEDA Mitsuru**

Angiographic guidewire with measuring markers: design and clinical experience

Cardiovasc Intervent Radiol 29: 981-985, 2006

MORI Yoshine, **ITOH Shigeki**, **IKEDA Mitsuru**, SAWAKI Akiko, SUZUKI Koujiro, IWANO Shingo, SATAKE Hiroko, ARAHATA Shoji, OTA Toyohiro, ISHIGAKI Takeo

Application of subsecond rotation scan to helical CT for lung cancer screening

Nagoya J Med Sci 68: 139-145, 2006

SHIRAIISHI Satoe, KOBAYASHI Hidetoshi, NIHASHI Takashi, KATO Katsuhiko, IWANO Shingo, NISHINO Masanari, ISHIGAKI Takeo, **IKEDA Mitsuru**, KATO Takashi, ITO Kengo, KIMURA Tomomasa

Cerebral glucose metabolism change in patients with complex regional pain syndrome: a PET study

Radiat Med 24: 335-344, 2006

FUKUSHIMA Hiromichi, **ITOH Shigeki**, TAKADA Akira, MORI Yoshimi, SUZUKI Kojiro, SAWAKI Akiko, IWANO Shingo, SATAKE Hiroko, OTA Toyohiro, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo
Diagnostic value of curved multiplanar reformatted images in multislice CT for the detection of resectable pancreatic ductal adenocarcinoma
Eur Radiol 16: 1709-1718, 2006

KANO Hiroshi, ENDO Tokiko, **IKEDA Mitsuru**, OIWA Mikinao, ISHIGAKI Takeo
Evaluation of new image processing conditions for digital mammograms from Fuji computed radiography
Nagoya J Med Sci 68: 131-138, 2006

IKEDA Mitsuru, ISHIGAKI Takeo, **ITOH Shigeki**
Influence of rib structure on detection of subtle lung nodules
Eur J Radiol 59: 49-55, 2006

KAWASE Setsuko, OKUDA Takahito, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo, ISHIGAKI Takeo, ITOH Yoshiyuki, YANAGAWA Shigeo,
Intraarterial cisplatin/nedaplatin and intravenous 5-fluorouracil with concurrent radiation therapy for patients with high-risk uterine cervical cancer
Gynecol Oncol 102: 493-499, 2006

KATO Katsuhiko, KUBOTA Toshinobu, **IKEDA Mitsuru**, TADOKORO Masanori, ABE Shinji, NAKANO Satoshi, NISHINO Masanari, KOBAYASHI Hidetoshi, ISHIGAKI Takeo
Low Efficacy of 18F-FDG PET for Detection of Uveal Malignant Melanoma Compared with 123I-IMP SPECT
J Nucl Med 47: 404-409, 2006

KAWASE Setsuko, NAGANAWA Shinji, SONE Michihiko, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo
Relationship between CT densitometry with a slice thickness of 0.5 mm and audiometry in otosclerosis
Eur Radiol 16: 1367-1373, 2006

IMAI Kuniharu, **IKEDA Mitsuru**, NIIMI Takanaga
The application of Markov theory to contrast-detail analysis
Acad Radiol 13: 152-158, 2006

ITOH Shigeki, **IKEDA Mitsuru**, SATAKE Hiroko, OTA Toyohiro, ISHIGAKI Takeo
The effect of patient age on contrast enhancement during CT of the pancreatobiliary region
Am J Roentgenol 187: 505-510, 2006

加藤秀記, 伊藤茂樹, 原 孝則, 桜井直之, 池田 充
心電図同期画像再構成における最適再構成時相の変動の検討
日本放射線技術学会雑誌 62: 122-129, 2006

Kinoshita Yukihiro, Imai Kuniharu
PD degradation process of fatigue failure type in a micro gap under the surface discharge pattern of Gleitbuschel type
IEEE/The 8th International Conference on Properties and Application of Dielectric Material 1: 345-348, 2006

木下幸弘, 今井國治, 木全浩市
Polbuschel 沿面放電下における微小空隙内の PD 発生機構
平成 18 年度電気関係東海支部連合大会, 2006

木下幸弘, 今井國治, 木全浩市

Polbuschel 沿面放電下における微小空隙内の PD 劣化特性

2006 年電気学会基礎・材料・共通部門大会, 2006

牧野玲子, 池田 充, 今井國治, 遠地志太, 新美孝永, 人見理香, 松本麻衣子, 和田真一

ウェーブレット解析を用いた空間適用型雑音除去法

第 16 回コンピュータ支援画像診断学会大会, 2006

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永

フラクタル特徴距離による CR 像の画質評価と視覚評価の関係

日本医用画像工学会大会予稿集 1: 1, 2006

人見理香, 今井國治, 池田 充, 牧野玲子, 松本麻衣子, 新美孝永, 遠地志太

フラクタル特徴距離を用いた新しい画質評価法とその信頼性

日本医学放射線学会第 8 回医用画像認知研究会, 2006

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永

医用画像における画質評価指標としてのフラクタル特徴距離の有用性

2006 年電子情報通信学会ソサイエー大会, 2006

遠地志太, 今井國治, 池田 充, 新美孝永

極値統計学を用いた CT 画像のストリークアーチファクト評価法 - 再構成関数が異なる場合

日本放射線技術学会秋季大会, 2006

遠地志太, 今井國治, 池田 充, 新美孝永

極値統計学を用いたストリークアーチファクトの統計解析 - ストリークアーチファクトと管電流量との相関関係 -

日本医用画像工学会大会予稿集 1: 1, 2006

牧野玲子, 池田 充, 今井國治, 新美孝永, 遠地志太, 和田真一

空間適用型ウェーブレット解析を用いた CT 画像の雑音除去法

日本医用画像工学会大会予稿集 1: 1, 2006

MOCHIZUKI Shingo, **OGATA Yoshimune**, HATANNO Kentaro, ABE Junichiro, ITO Kengo, ITO Yoshihiro, NISHINO Masanari, MIYAHARA Hiroshi, **ISHIGURE Nobuhito**

Measurement of the induced radionuclides in production of radiopharmaceuticals for Positron Emission Tomography (PET)

J Nucl Sci Technol 43: 348-353, 2006

ITOH Shigeki, FUKUSHIMA Hiromichi, TAKADA Akira, SUZUKI Kojiro, SATAKE Hiroko, ISHIGAKI Takeo

Assessment of anomalous pancreaticobiliary ductal junction with high-resolution multiplanar reformatted images in MDCT

Am J Roentgenol 187: 668-675, 2006

KAWAURA Chiyo, **AOYAMA Takahiko**, **KOYAMA Shuji**, ACHIWA Masataka, MORI Masaki

Organ and effective dose evaluation in diagnostic radiology based on in-phantom dose measurements with novel photodiode-dosimeters

Radiat. Prot. Dosim. 118: 421-430, 2006

TSUCHIYA Yuichiro, **KODERA Yoshie**

Development of patient collimation system by kinetic analysis for chest dynamic radiogram with flat panel detector
Medical Imaging 2006: PACS and Imaging Information, Proceedings of SPIE 6145: 329-337, 2006

YASUDA Naruomi, ISHIKAWA Yoko, **KODERA Yoshie**

Improvement of image quality in MDCT by high-frequency sampling of x-, y- and z-direction
Medical Imaging 2006: Image Processing, Proceedings of SPIE 6144: 2029-2036, 2006

ICHIKAWA Katsuhiko, KODERA Yoshie, FUJITA Hiroshi

MTF measurement method for medical displays by using a bar-pattern image
Journal of the Society for Information Display 14: 831-838, 2006

IWASAKI Akira, **KODERA Yoshie**, HIROTA Junichi, KUBOTA Mamoru, KIMURA Hiroshi, OSANAI Tsunemi, KUDO Sukehiro, ABE Yoshinao

Theoretical considerations for evaluating the degree of random-periodicity of radiographic noise
Applied Radiation and Isotopes 64: 19-26, 2006

市川勝弘, 小寺吉衛, 大橋一也, 杉山雅之, 宮地利明, 藤田広志
等解像度画像を用いた CT の性能評価
日本放射線技術学会雑誌 62: 522-528, 2006

小山修司, 青山隆彦, 川浦稚代, 藤井啓輔

CT 被曝の評価と問題点
臨床放射線 51: 1118-1819, 2006

KOYAMA Shuji, FUJII Keisuke, AOYAMA Takahiko, KAWAURA Chiyo

Patient exposure dose delivered by modern multi-detector helical computed tomography
The Second Asian Oceanic Congress for Radiation Protection Proceeding(CD-ROM) 1376-1379, 2006

西川真理, 笹田裕也, 遠山和希, 中川拓哉, 小山修司, 後藤賢一, 奥村信次

X 線 CT の線量測定法の違いによる測定値の比較検討
平成 18 年度日本放射線技術学会中部部会会員研究発表会, 2006

笹田裕也, 西川真理, 遠山和希, 中川拓哉, 小山修司, 長尾勝二, 山田 明

肺がん検診におけるシングルスライス CT とマルチスライス CT の線量評価
平成 19 年度日本放射線技術学会中部部会会員研究発表会, 2006

前田尚利

心臓核医学: spect を使って心機能はどこまでわかるか
放射線 32: 88-95, 2006

加藤貴弘, 小幡康範, 柳川繁雄, 石原俊一, 青山裕一, 島田秀樹, 村山 洋

限局性前立腺癌に対する三次元原体照射法における至適照射体位に関する研究
日本放射線腫瘍学会誌 18: 235-234, 2006

OGATA Yoshimune

Radioactivity measurement with a plastic scintillation vial
Proceedings of the 20th Workshop on Radiation Detectors and Their Uses 1: 191-196, 2006

NEJIGAKI Chihiro, **TABUSHI Katsuyoshi**, SHIMOZATO Tomohiro, AOYAMA Yuuichi, SHIOTA Yasuo, KADOYA Noriyuki

FUNDAMENTAL EXAMINATION OF FILM DOSIMETRY IN RADIOTHERAPY

Proceedings of the Thirteenth EGS User's Meeting in Japan 71-74, 2006

KADOYA Noriyuki, **TABUSHI Katsuyoshi**

INVESTIGATION OF SIMULATION OF CHERENKOV LIGHT WITH EGS

Proceedings of the Thirteenth EGS User's Meeting in Japan 48-52, 2006

SHIOTA Yasuo, **TABUSHI Katsuyoshi**, KADOYA Noriyuki, AOYAMA Yuuichi

Investigation of the Variation of the Reading Value by Absorbed Dose in the Glass Rod Dosimeter Using EGS4

Proceedings of the Thirteenth EGS User's Meeting in Japan 35-39, 2006

平山千恵, 田伏勝義, 下郷智弘, 木藤哲史

シミュレーションによるチタンクリップの散乱の検討

日本医学物理学会 第 91 回 学術大会 26: 198, 2006

角谷倫之, 田伏勝義, 塩田泰生, 捫垣智博, 青山裕一, 三宅良和, 丸橋 晃

医療用リニアックを使用したチェレンコフ光リング像の観測と EGS を用いたモンテカルロシミュレーションによる検討

日本医学物理学会 第 92 回 学術大会 26: 195-196, 2006

塩田泰生, 田伏勝義, 青山裕一, 三宅良和

蛍光ガラス線量計の読み値のバラツキの検討

日本医学物理学会 第 92 回 学術大会 26: 209-210, 2006

捫垣智博, 田伏勝義, 下郷智弘, 青山裕一, 塩田泰生, 角谷倫之

治療用フィルムによる線量分布測定 of EGS4 による基礎的検討

日本医学物理学会 第 92 回 学術大会 26: 211-212, 2006

中村 譲, 佐方周防, 田伏勝義, 水野秀之, 石居隆義, Mohd Moktar bin Nudin, Nguyen Xuan Cu, Lee Dong Han, Rafael

Cabrigas Solis, Yao Naiguo, Lukkana Apipunyasopon, Chumpot Kakanaporn, 保泉賢司, 寺中朋文, 辻井博彦

東アジア 7 ヶ国における子宮頸癌小線源治療の物理 QA/QC 現地訪問調査結果

日本医学物理学会 第 92 回 学術大会 26: 173-174, 2006

塩田泰生, 田伏勝義, 木藤哲史

変動補正用検出器から発生する散乱線分布の EGS4 による検討

日本医学物理学会 第 91 回 学術大会 26: 36-37, 2006

寺本篤司, 村越貴行, 津坂昌利, 藤田広志

はんだパンプに発生した微小ボイドの自動検出

電気学会論文誌 126-D: 1514-1521, 2006

〔総説・解説・その他〕

青山隆彦

X 線医学診断による小児の被ばく実態を解明するための臓器線量計測システムの開発

INNERVISION 21(7): 59, 2006

青山隆彦

X線検査における患者被ばく線量計測のための人体ファントム・フォトダイオード線量計システムの開発
日本放射線安全管理学会誌 5: 91-92, 2006

本間光彦

誌上講座 論文入門

放射線カウンセリング 3: 20-22, 2006

本間光彦

第1回事例検討(2005/11/20)

放射線カウンセリング 3: 33, 2006

市川勝弘

3次元画像処理による医師の画像読影支援の最先端

インナービジョン 21: 61-65, 2006

石樽信人

ICRPの線量係数とそれらの関連報告書の紹介 5. 呼吸気道モデル

放射線科学 49: 361-368, 2006

伊藤茂樹, 石垣聡子, 鈴木耕次郎, 岩野信吾, 長縄慎二

脾疾患の画像診断: 最近のトレンド マルチスライス CT 診断

臨床画像 22: 1334-1342, 2006

小寺吉衛

CTの再構成原理? X線投影像から断層像を作る

VIEWS RADIOLOGY 8(4): 35-39, 2006

小寺吉衛

X線の発生と被写体との相互作用—放射線から見た画質と被曝の関係—

VIEWS RADIOLOGY 8(2): 40-45, 2006

小寺吉衛

乳房撮影におけるアナログ画像とデジタル画像の現状と将来—写真学会との共催シンポジウムを終えて—

日本放射線技術学会雑誌 62: 635-636, 2006

小山修司

CTDI再入門

日本放射線技術学会計測分科会誌 14(2): 68-74, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(118) KVM(キーボード切り替え)スイッチの導入

臨床放射線 51: 201-206, 2006

江本 豊, 高橋正樹, 津坂昌利, 長嶋宏和, 市橋卓司, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦

インターネット入門(119) RSNA 2005 印象記

臨床放射線 51: 324-328, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (120) ネットワーク機器管理例 (その 1)
臨床放射線 51: 436-441, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (121) ネットワーク機器管理例 (その 2)
臨床放射線 51: 553-557, 2006

市橋卓司, 長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (122) 無線 LAN(その 1)
臨床放射線 51: 668-673, 2006

市橋卓司, 長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (123) 無線 LAN(その 2)
臨床放射線 51: 790-794, 2006

市橋卓司, 長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (124) 1FD LINUX
臨床放射線 51: 905-909, 2006

奥田保男, 市橋卓司, 長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (125) 岡崎市民病院のシステム構築と IHE への適応
臨床放射線 51: 1023-1028, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (126) 雲上のインターネット接続環境
臨床放射線 51: 1135-1137, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (127) ネットワークセキュリティを高める侵入防止装置の運用 (その 1)
臨床放射線 51: 1250-1253, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (128) ネットワークセキュリティを高める侵入防止装置の運用 (その 2)
臨床放射線 51: 1789-1792, 2006

長嶋宏和, 高橋正樹, 津坂昌利, 市橋卓司, 江本 豊, 嶋 芳成, 辻村善樹, 古賀佑彦
インターネット入門 (129) ネットワークセキュリティを高める侵入防止装置の運用 (その 3)
臨床放射線 51: 1895-1898, 2006

〔 科研費・班研究等 〕

青山隆彦, 小山修司, 川浦稚代
X 線医学診断による小児の被ばく実態を解明するための臓器線量計測システムの開発
平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告書, 2006

本間光彦

第 25 回人体解剖トレーニングセミナーに参加して

第 25 回人体解剖トレーニングセミナー（2005 年） 報告書 1: 42, 2006

池田 充, 今井國治, 石垣武男, 伊藤茂樹, 和田真一, 西沢かな枝, 古川 晃

CAD のための医用画像の画質評価と被曝線量評価 - 研究成果概要 -

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元医用画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム論文集 1: 117-122, 2006

古川 晃, 松本 徹, 和田真一, 池田 充

CAD を使うと診断精度が上がるのはなぜか

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元医用画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム論文集 1: 197-198, 2006

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新見孝永, 和田真一

CT 画像におけるアーチファクトの工学的評価法 - Gumbel 評価法の考案

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元医用画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム論文集 1: 195-196, 2006

和田真一, 大久保真樹, 松本 徹, 西沢かな枝, 村尾晃平, 池田 充, 曾根脩輔

PSF を用いた CAD のための CT 画像画質標準化の研究

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元医用画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム論文集 1: 193-194, 2006

池田 充, 今井國治, 石垣武男, 伊藤茂樹, 和田真一, 西澤かなえ, 古川 晃

CAD のための医用画像の画質評価と被曝線量評価

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム 1: 117-122, 2006

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永

CT 画像におけるアーチファクトの工学的評価法 - Gumbel 評価法の考案 -

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「多次元画像の知的診断支援」第 3 回シンポジウム 1: 195-196, 2006

松本 徹, 伊藤茂樹, 岡本英明, 高山俊之, 津田雪裕, 中村義正, 西澤かな枝, 花井耕造, 松本政雄, 村松禎久, 和田真一, 鈴木雅裕, 五味志穂, 関口淳子

肺がん検診用 MDCT (Multidetector-row CT) 撮影マニュアル作成研究班報告

日本放射線技術学会雑誌 62: 361-375, 2006

石垣武男, 池田 充, 島本佳寿広, 小寺吉衛

画像診断用専用液晶モニタの安全性の検討と精度管理のためのテスト画像開発に関する研究

平成 15 年度-17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 1: 31-32, 2006

島本佳寿広

画像認知学的手法に基づいた乳癌検診のカテゴリ分類の妥当性に関する研究

平成 16 年度-17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書 1: , 2006

石垣武男, 宮坂和男, 西谷 弘, 伊藤晴海, 遠藤登喜子, 村田喜代史, 安藤 裕, 小寺吉衛, 池田 充, 島本佳寿広, 藤田広志, 尾辻秀章, 楠本昌彦, 原 真咲, 佐々木康夫, 渡辺秀幸, 加藤克彦

標準的電子カルテにおける画像観察液晶モニタ, 汎用液晶モニタの標準化と精度管理に関する研究

平成 15 年度-17 年度厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業総合研究報告書 1: 29-39, 2006

〔その他の印刷物等〕

MIYAHARA Hiroshi, MATSUDA Kou, MORITA Kousuke, **OGATA Yoshimune**

Disintegration rate measurement of ^{142}Pr

岐阜医療技術短期大学 紀要 1: 1-8, 2006

〔学会発表〕

ト蔵公紀, 西村裕子, 津坂昌利, 櫻井康雄, 石橋一都, 河村 美奈子, 近藤智昭

脳外科手術における術中 MRI ヘッドコイルの性能評価

日本放射線技術学会中部部会平成 17 年度冬季会員研究発表会, 2006.1 (名古屋)

簀 道子, 田口優美, 嶋田直美, 佐藤直人, 津坂昌利, 市川勝弘, 小寺吉衛

汎用カラー液晶モニタの画質特性 (1) 輝度特性とノイズ特性について

日本放射線技術学会中部部会平成 17 年度冬季会員研究発表会, 2006.1 (名古屋)

嶋田直美, 田口優美, 簀 道子, 佐藤直人, 津坂昌利, 市川勝弘, 小寺吉衛

汎用カラー液晶モニタの画質特性 (2) MTF 評価について

日本放射線技術学会中部部会平成 17 年度冬季会員研究発表会, 2006.1 (名古屋)

遠山和希, 中川拓哉, 笹田裕也, 西川真理, 小山修司

光子に対するガラスの発光現象

平成 17 年度日本放射線技術学会中部部会会員研究発表会, 2006.1 (名古屋)

HORII Akiko, TAKAMURA Miho, **ICHIKAWA Katsuhiko**, **KODERA Yoshie**, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo

Measurement of MTFs for monochrome and color liquid crystal displays(Technical Program, p 104, 2006)

SPIE Medical Imaging 2006, 2006.2 (San Diego, CA, USA)

ICHIKAWA Katsuhiko, HORII Akiko, **KODERA Yoshie**

Novel NPS measurement method for medical liquid crystal display using periodic components subtraction technique(Technical Program, p 104, 2006)

SPIE Medical Imaging 2006, 2006.2 (San Diego, CA, USA)

TSUCHIYA Yuichiro, **KODERA Yoshie**

Development of patient collimation system by kinetic analysis for chest dynamic radiogram with flat panel detector(Medical Imaging 2006: PACS and Imaging Information, Proceedings of SPIE, Vol.6145, pp 329-337, 2006)

SPIE Medical Imaging 2006, 2006.2 (San Diego, CA, USA)

YASUDA Naruomi, ISHIKAWA Yoko, **KODERA Yoshie**

Improvement of image quality in MDCT by high-frequency sampling of x-, y- and z-direction(Medical Imaging 2006: Image Processing, Proceedings of SPIE, Vol.6144, pp 2029-2036, 2006)

SPIE Medical Imaging 2006, 2006.2 (San Diego, CA, USA)

緒方良至

プラスチックシンチレーションバイアルを用いた放射能の計測 (要旨集 p 65-66, 2006)

第 20 回放射線検出器とその応用, 2006.2 (つくば)

加藤克彦, 石垣武男, 池田 充, Lars Stegger, Michael Schafers, Otmar Schober
PET/CTにおけるC-11 cholineとF-18 FDGの動脈壁への集積と動脈壁の石灰化の評価
日本核医学会第62回中部地方会, 2006.2 (名古屋)

伊藤信嗣, 加藤克彦, 岩野信吾, 石垣武男, 池田 充, 田所匡典, 牧野直樹
甲状腺癌の骨転移診断におけるF-18 FDG PETと骨シンチグラフィの比較
日本核医学会第62回中部地方会, 2006.2 (名古屋)

木下幸弘, 今井國治, 木全浩市
Polbuschel沿面放電下における微小空隙内のPD発生特性(電気学会全国大会講演論文集, CD版)
平成17年電気学会全国大会, 2006.3 (横浜)

NIIMI Takanaga, **IMAI Kuniharu**, **IKEDA Mitsuru**, **MAEDA Hisatoshi**, AMANO Akihiro, ENCHI Yukihiko
The application of information theory to contrast-detail analysis(Euro. Radiol. Vol 16, 1(Suppl.): 475, 2006)
European Congress of Radiology 2006 (ECR 2007), 2006.3 (Vienna, Austria)

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永
フラクタル特徴距離による胸部CR像の相対画質評価(2006年電子情報通信学会総合大会講演論文集, CD版)
2006年電子情報通信学会総合大会, 2006.3 (東京)

YASUDA Naruomi, ISHIKAWA Yoko, **KODERA Yoshie**
High-frequency data sampling technique in MDCT for improvement of image quality(European Radiology 16(Suppl.1): C-702, 2006)
European Congress of Radiology (ECR) 2006, 2006.3 (Vienna, Austria)

SHIMAMOTO Kazuhiro, KOYAMA Kazuyuki, MURAMOTO Hideyuki, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo
Influence of monitor luminance and room illuminance on soft-copy breast phantom image interpretation
European Congress of Radiology (ECR) 2006, 2006.3 (Vienna, Austria)

SAWAKI Akiko, SATAKA Hiroko, ISHIGAKI Satoko, FUKUHARA Rieko, ISHIGAKI Takeo, SHIMAMOTO Kazuhiro
New Diagnostic Approach: Real-time Virtual Sonography (RVS) for Breast Imaging
European Congress of Radiology (ECR) 2006, 2006.3 (Vienna, Austria)

IMAI Kuniharu, **IKEDA Mitsuru**, ENCHI Yukihiko, NIIMI Takanaga, WADA Schinichi
A new method for quantitative evaluation of artifacts on CT images using statistics of extremes
European Congress of Radiology 2006, 2006.3 (Vienna, Austria)

佐久間洋一, 緒方良至, 垣内正人
環境水中トリチウム測定法の簡素化2(要旨集 p47, 2006)
第4回同位体科学研究会, 2006.3 (名古屋)

KATO Katsuhiko, YASUE Satoshi, SHIBATA Schinichi, IWANO Shingo, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo
123I-IMP scintigraphy of malignant melanoma: comparison with 18F-FDG PET
13th Workshop of the Japanese-German Radiological Affiliation, 2006.3 (Awaji, Japan)

市川勝弘, 堀井亜希子, 小寺吉衛
周期成分減算法による液晶ディスプレイのウィナーズスペクトル測定(予稿集, p266, 2006)
日本放射線技術学会第62回総会学術大会, 2006.4 (横浜)

市川勝弘, 山崎明日美, 小寺吉衛

乳房撮影領域の X 線位相イメージングにおける屈折現象の検証 "(予稿集, p 160, 2006)

日本放射線技術学会第 62 回総会学術大会, 2006.4 (横浜)

遠地志太, 今井國治, 池田 充, 新美孝永

極値統計学を用いた胸部 CT 画像のアーチファクト評価法 (日本放射線技術学会総合大会予稿集, p 137, 2006)

第 61 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

服部真澄, 棚田信春, 酒井 功, 小山修司, 小寺吉衛

Snakes(Active contour models) に用いるエッジ画像の検討 (予稿集 p 161, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

石川陽子, 安田成臣, 小寺吉衛

X 線 CT 画像のウェーブレットノイズ低減における分解レベルの検討 (予稿集 p 161, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

小寺吉衛, 佐野文香, 根来小百合, 市川勝弘

デジタルマンモグラフィにおける物理的画質特性の評価 (予稿集 p 159, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

山崎明日美, 市川勝弘, 小寺吉衛

位相コントラストマンモグラフィ(PCM) の物理的画質特性の測定 (予稿集 p 159, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

土屋裕一郎, 小寺吉衛

胸部動態撮影における呼吸同期経時差分法による小結節陰影の検出 (予稿集 p 119, 206)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

安田成臣, 石川陽子, 小寺吉衛

高周波数サンプリングによる MDCT のデータ収集 (予稿集 p 123, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

堀井亜希子, 石川陽子, 市川勝弘, 小寺吉衛

二次元フーリエ変換法による液晶ディスプレイのウィナーズスペクトル測定—アンチグレアフィルタについての検討—(予稿集 p 266, 2006)

第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

角谷倫之, 田伏勝義, 平山千恵, 森川洸太郎, 田中 壽, 木藤哲史, 霜村康平, 青山裕一, 橋本光康

高エネルギー X 線, 電子線によるチェレンコフ光を用いたエミッション CT の検討 (日本医学物理学会機関誌 26 Suppl 2 : 33-34, 2006)

日本医学物理学会 第 91 回 学術大会, 2006.4 (横浜)

池田 充, 今井國治, 伊藤茂樹, 石垣武男, 和田真一, 西沢かな枝, 古川 晃

CAD のための医用画像の画質評価と被曝線量評価

第 65 回日本医学放射線学会総会, 2006.4 (横浜)

清水昭伸, 田村進一, 仁木 登, 木戸尚治, 藤田広志, 杉本直三, 末永康仁, 本谷秀堅, 池田 充, 小畑秀文
多次元医用画像の知的診断支援
第 65 回日本医学放射線学会総会, 2006.4 (横浜)

佐竹弘子, 池田 充, 島本佳寿広, 澤木明子, 石垣聡子, 福原理恵子, 石垣武男
非触知石灰化病変のマンモグラフィ: フィルムと 3M 液晶モニタの読影比較および方針判定について
第 65 回日本医学放射線学会総会, 2006.4 (横浜)

服部真澄, 棚田信春, 酒井 功, 小山修司, 小寺吉衛
Snakes(Active contour models) に用いるエッジ画像の検討 (第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会予稿集, p 161, 2006)
第 62 回日本放射線技術学会総会学術大会, 2006.4 (横浜)

丸山治彦, 山内(川浦)稚代, 林 晃弘, 藤波慎吾, 太田伸生
ヴェネズエラ糞線虫における感染幼虫から結合織幼虫への試験管内発育 (要旨集 p 63, 2006)
第 75 回日本寄生虫学会大会 プログラム・抄録集, 2006.5 (弘前)

山内(川浦)稚代, 丸山治彦, 林 晃弘, 藤波慎吾, 太田伸生
ヴェネズエラ糞線虫の体内移行期における運動能力変化 (要旨集 p 63, 2006)
第 75 回日本寄生虫学会大会 プログラム・抄録集, 2006.5 (弘前)

大友哲也, 緒方良至, 望月真吾, 仲野高志, 伊藤健吾, 加藤隆司, 加藤力雄, 二橋尚志, 石樽信人
PET 検査に伴う医療従事者の被ばく線量の測定評価 (日本保健物理学会第 40 回研究発表会講演要旨集 p 16, 2006)
第 40 回日本保健物理学会研究発表会, 2006.6 (広島)

望月真吾, 緒方良至, 宮原 洋, 伊藤健吾, 旗野健太郎, 阿部潤一郎, 石樽信人
PET 薬剤製造に用いる交換部品等の放射化と放射化物による被ばく線量の評価 (日本保健物理学会第 40 回研究発表会講演要旨集 p 15, 2006)
第 40 回日本保健物理学会研究発表会, 2006.6 (広島)

緒方良至, 望月真吾, 宮原 洋, 伊藤健吾, 旗野健太郎, 阿部潤一郎, 石樽信人
PET 用核種製造時のサイクロترون室における中性子束の測定 (日本保健物理学会第 40 回研究発表会講演要旨集 p 62, 2006)
第 40 回日本保健物理学会研究発表会, 2006.6 (広島)

根来小百合, 佐野文香, 山崎明日美, 市川勝弘, 小寺吉衛
デジタルマンモグラフィにおける物理的画質特性の評価
第 145 回医用画像情報学会平成 18 年度年次大会, 2006.6 (新潟)

太田雅壽, 佐久間洋一, 緒方良至
化学形弁別トリチウムモニターの開発 (2)(要旨集 p 105, 2006)
日本保健物理学会第 40 回研究発表会, 2006.6 (広島)

佐久間洋一, 安藤健作, 飯田孝夫, 緒方良至
環境水中トリチウム測定の簡素化 4(要旨集 p 106, 2006)
日本保健物理学会第 40 回研究発表会, 2006.6 (広島)

佐久間洋一, 緒方良至, 鳥養祐二
環境水中トリチウム測定の合理化 (要旨集 p 150, 2006)
第 6 回核融合エネルギー連合講演会, 2006.6 (富山)

安藤健作, 緒方良至, 佐久間洋一, 飯田孝夫
空気中の水蒸気中トリチウムモニタの試作 (要旨集 p151, 2006)
第 6 回核融合エネルギー連合講演会, 2006.6 (富山)

KATO Katsuhiko, STEGGER Lars, SCHAFERS Michael, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo, SCHOBER Otmar
Evaluation of ¹¹C-choline or ¹⁸F-FDG uptake and arterial wall calcifications at PET/CT
Society of Nuclear Medicine 53rd Annual Meeting, 2006.6 (San Diego, USA)

広藤喜章, 青山隆彦, 小山修司, 川浦稚代
下部消化管 X 線検査 (注腸検査) の実測に基づく被検者の被ばく線量評価 (講演要旨集 p17, 2006)
日本保健物理学会第 40 回研究発表会, 2006.6 (広島)

瀬口繁信, 藤井啓輔, 青山隆彦, 小山修司, 川浦稚代
冠動脈造影と冠動脈インターベンション術における患者被曝線量の測定 (講演要旨集 p18, 2006)
日本保健物理学会第 40 回研究発表会, 2006.6 (広島)

藤井啓輔, 青山隆彦, 川浦稚代, 小山修司
小児の X 線 CT 検査における被ばく線量の測定と評価 (講演要旨集 p19, 2006)
日本保健物理学会第 40 回研究発表会, 2006.6 (広島)

加藤克彦, 伊藤信嗣, 岩野信吾, 石垣武男, 池田 充, 伊藤信嗣, 田所匡典, 小林英敏
皮膚原発悪性黒色腫と転移巣における I-123 IMP シンチグラフィー : F-18 FDG PET との比較
日本核医学会第 63 回中部地方会, 2006.6 (岐阜)

牧野玲子, 池田 充, 今井國治, 新美孝永, 遠地志太, 和田真一
フラクタル特徴距離による CR 像の画質評価と視覚評価の関係 (日本医用画像工学会大会予稿集, CD 版)
第 26 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (京都)

今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永
極値統計学を用いたストリークアーチファクトの統計解析 - ストリークアーチファクトと管電流量との相関関係 - (日本医用画像工学会大会予稿集, CD 版)
第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (京都)

池田 充, 今井國治, 石垣武男, 伊藤茂樹, 和田真一, 西澤かなえ, 古川 晃
空間適用型ウェーブレット解析を用いた CT 画像の雑音除去法 (日本医用画像工学会大会予稿集, CD 版)
第 27 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (京都)

ISHIGURE Nobuhito

Views on the New ICRP recommendations focusing on the doses from radiation exposure
3rd Asian Regional Conference on the Evolution of the System of Radiological Protection, 2006.7 (Tokyo)

安田成臣, 石川陽子, 小寺吉衛
マルチスライス CT における雑音低減のための高周波数サンプリングによるデータ収集 (プログラム p59, 2006)
第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (京都)

緒方良至
シンチレーションバイアルを用いた放射能計測 (要旨集 p139, 2006)
第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会, 2006.7 (東京)

佐久間洋一, 緒方良至

環境水中トリチウム濃度測定的时间効率化および正確化 3(要旨集 p 39, 2006)

第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会, 2006.7 (東京)

安藤健作, 緒方良至, 佐久間洋一, 飯田孝夫

水蒸気中トリチウムモニタの試作(要旨集 p 140, 2006)

第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会, 2006.7 (東京)

川浦稚代, 藤井啓輔, 青山隆彦, 小山修司

人体ファントム線量計測システムを用いた X 線 CT 検査における小児の被ばく線量測定(要旨集 p 103, 2006)

第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会 要旨集, 2006.7 (東京)

今井國治, 遠地志太, 池田 充, 新美孝永

フラクタル特徴距離による CR 像の画質評価と視覚評価の関係

第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (東京)

遠地志太, 今井國治, 池田 充, 新美孝永

極値統計学を用いたストリークアーチファクトの統計解析 - ストリークアーチファクトと管電流量との相関関係 -

第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (東京)

牧野玲子, 池田 充, 今井國治

空間適用型ウェーブレット解析を用いた CT 画像の雑音除去法

第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (東京)

山崎明日美, 市川勝弘, 小寺吉衛

位相コントラストマンモグラフィ(PCM)の物理的画質特性の測定(プログラム p 21, 2006)

第 25 回日本医用画像工学会大会, 2006.7 (京都)

人見理香, 今井國治, 池田 充, 遠地志太, 新美孝永

フラクタル特徴距離を用いた新しい画質評価法とその信頼性

第 8 回医用画像認知研究会, 2006.8 (東京)

松本麻衣子, 池田 充, 今井國治, 牧野玲子, 人見理香

均一でない部分における医用画像上の雑音分散値の推定法

第 8 回医用画像認知研究会, 2006.8 (東京)

島本佳寿広, 池田 充, 福嶋洋道, 石垣武男

液晶モニタにおける肺微細病変の検出能に関する照明の影響(第 8 回医用画像認知研究会)

学会名, 2006.8 (東京)

兼松伸幸, 稲邑清也, 小寺吉衛

アジア・オセアニア地域における教育と訓練による医学物理の強化活動(報文集 p 155, 2006)

第 92 回日本医学物理学会学術大会, 2006.9 (福岡)

佐久間洋一, 緒方良至, 垣内正久

環境水中トリチウム測定 of 簡素化 2(要旨集 p 6, 2006)

日本地球化学会 2006 年会, 2006.9 (東京)

ITO Shinji, KATO Katsuhiko, **IKEDA Mitsuru**, IWANO Shingo, MAKINO Naoki, TADOKORO Masanori, ISHIGAKI Takeo, NAGANAWA Shinji
Comparison of 18F-FDG PET and bone scintigraphy in detection of bone metastases of thyroid cancer
Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, 2006.9 (Athens, Greece)

本間光彦
放射線技師教育における人体解剖実習および見学実習
日本放射線技師会雑誌, 2006.10 (米子)

ISHIGURE Nobuhito, TAKAHASHI Toru
Gender issue with introduction of human alimentary tract model to internal monitoring programme(Book of Abstracts, Internal Dosimetry of Radionuclides p 40, 2006)
International Workshop on Internal Dosimetry of Radionuclides, 2006.10 (Montpellier, France)

ISHIGURE Nobuhito
Prediction of monitoring data for 239pu accidentally injected via wound site based on the proposed NCRP wound model(Book of Abstracts, Internal Dosimetry of Radionuclides p 45, 2006)
International Workshop on Internal Dosimetry of Radionuclides, 2006.10 (Montpellier, France)

安田成臣, 石川陽子, 小寺吉衛
X 線 CT 画像における高空間周波数サンプリングを用いた投影データの収集に伴うエッジレスポンスの改善 (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1205, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

石川陽子, 安田成臣, 小寺吉衛
ウェーブレット変換を用いた量子ノイズ低減化フィルタによる X 線 CT 画像のノイズ低減 (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1247, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

山崎明日美, 市川勝弘, 小寺吉衛
位相コントラストマンモグラフィ(PCM) の物理的画質評価とシミュレーションによる画像生成過程の検証 (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1265, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

服部真澄, 棚田信春, 酒井 功, 小山修司, 小寺吉衛
遺伝的アルゴリズムによるウェーブレット展開における重み係数の決定のための基礎的検討 (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1243, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

土屋裕一郎, 小寺吉衛
胸部動態レントゲン撮影における経時的差分法を利用した結節動態の定量評価 (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1244, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

閻平, 小寺吉衛
三次元画像における位置照合と差分処理の試み (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1267, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

旗 道子, 西村裕子, 嶋田直美, 津坂昌利, 市川勝弘, 小寺吉衛
汎用カラー液晶モニタの画質評価 (MTF について) (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1264, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

旗 道子, 西村裕子, 嶋田直美, 津坂昌利, 市川勝弘, 小寺吉衛
汎用カラー液晶モニタの画質評価 (輝度特性とノイズ特性について) (日本放射線技術学会雑誌 62(9): 1264, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

OGATA Yoshimune

Radioactivity Measurement using a liquid scintillation counter with a plastic scintillation vial(abstract p 78, 2006)
The 2nd Asian and Oceanic Congress for Radiation Protection, 2006.10 (中国)

赤木信裕, 津坂昌利, 中野正晴, 池田祐一, 原 重登志, 今口克仁, 米澤一也, 立石敏樹
公衆 IP 網を利用した画像配信サーバによる地域連携システムのパッケージ化検証 (日本放射線技術学会雑誌)
日本放射線技術学会秋季学術大会 (第 34 回), 2006.10 (札幌)

KOYAMA Shuji, FUJII Keisuke, AOYAMA Takahiko, KAWAURA Chiyo

Patient Exposure Dose Delivered by Modern Multi-Detector Helical Computed Tomography(The Second Asian Oceanic
Congress for Radiation Protection Abstracts, pp368-369, 2006)
2nd Asian Oceanic Congress for Radiation Protection, 2006.10 (Beijing, CHINA)

旗 道子, 津坂昌利, 市川勝弘
DICOM 表示モードを持つ汎用液晶カラーディスプレイの画像評価 (平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会予稿集)
平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会, 2006.10 (名古屋)

杉浦明弘, 津坂昌利
各種 DICOM ビューワーの性能比較 (平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会予稿集)
平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会, 2006.10 (名古屋)

ト蔵公紀, 西村裕子, 津坂昌利, 藤井正純, 梶田泰一, 吉田 純
低磁場脳外科術中用 MRI における拡散強調像の有用性 (平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会予稿集)
平成 18 年度日本生体医工学会東海支部大会, 2006.10 (名古屋)

岡野恒一, 松尾綾江, 後藤賢一, 横井みどり, 蛭川亜紀子, 奥村信次, 小山修司
歯科領域に於ける実効線量評価 —唾液腺を考える— (日本放射線技術学会雑誌, 62(9), pp 1305-1306, 2006)
第 34 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2006.10 (札幌)

牧野令子, 池田 充, 今井國治, 新美孝永, 遠地志太, 人見理香, 松本麻衣子, 和田眞一
ウェーブレット変換を用いた空間適用型雑音除去法
第 16 回コンピュータ支援画像診断学会大会, 2006.10 (東京)

深谷美希, 石樽信人, 緒方良至, 川島 望, 仲野高志, 玉井伸一, 西尾正美, 山下英二, 内山幸男
PET 施設従事者の被ばく線量の測定 (日本放射線安全管理学会第 5 回学術大会講演予稿集 p 42, 2006)
第 5 回日本放射線安全管理学会学術大会, 2006.11 (名古屋)

緒方良至, 石樽信人, 望月真吾, 宮原 洋, 伊藤健吾, 旗野健太郎, 阿部潤一郎
PET 用小型サイクロトロン周辺の中性子束測定 (日本放射線安全管理学会第 5 回学術大会講演予稿集 p 79, 2006)
第 5 回日本放射線安全管理学会学術大会, 2006.11 (名古屋)

高橋 徹, 石樽信人

経口摂取された放射性核種の ICRP 新消化管モデルを用いた残留率と排泄率の計算シミュレーション (日本放射線安全管理学会第 5 回学術大会講演予稿集 p 22, 2006)

第 5 回日本放射線安全管理学会学術大会, 2006.11 (名古屋)

ICHIKAWA Katsuhiko, KODERA Yoshie, Hayashi Shigeo, NISHI Yoshikazu, HASEGAWA Mikio

Development of a novel resolution enhancement technology for medical liquid crystal display(Program p 927, 2006)

92nd Radiological Society of North America(RSNA) Scientific Assembly and Annual Meeting, 2006.11 (Chicago, IL, USA)

ISHIKAWA Yoko, YASUDA Naruomi, **KODERA Yoshie**

Examination of the decomposition level and threshold value in nonlinear wavelet noise processing for X-ray CT image(Program p 924, 2006)

92nd Radiological Society of North America(RSNA) Scientific Assembly and Annual Meeting, 2006.11 (Chicago, IL, USA)

ICHIKAWA Katsuhiko, KODERA Yoshie, Hayashi Shigeo, NISHI Yoshikazu, HASEGAWA Mikio

Novel resolution enhancement technology for medical liquid crystal displays(Program p 783, 2006)

92nd Radiological Society of North America(RSNA) Scientific Assembly and Annual Meeting, 2006.11 (Chicago, IL, USA)

TSUCHIYA Yuichiro, **KODERA Yoshie**

Temporal subtraction technique for breathing chest radiology using a dynamic flat panel detector(Program p 684, 2006)

92nd Radiological Society of North America(RSNA) Scientific Assembly and Annual Meeting, 2006.11 (Chicago, IL, USA)

鈴木崇宏, 布施明日香, 小寺吉衛

デジタルマンモグラフィにおける最適管電圧の検討

第 41 回日本放射線技術学会中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

藤田尚利, 市川勝弘, 小寺吉衛

ファントムの材質及び撮影条件が CT の画質評価に与える影響

第 41 回日本放射線技術学会中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

蜂矢健介, 山崎明日美, 市川勝弘, 小寺吉衛

位相コントラストマンモグラフィにおける鮮鋭度の管電圧特性

第 41 回日本放射線技術学会中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

西村裕子, 市川勝弘, 小寺吉衛

液晶ディスプレイの量子モトルを考慮した粒状性評価

第 41 回日本放射線技術学会中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

加藤 明, 市川勝弘, 小寺吉衛

診断用カラー液晶ディスプレイの MTF 測定

第 41 回日本放射線技術学会中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

緒方良至

液シンカクテルを使用しない液シンでの測定法 (要旨集 p 96-97, 2006)

第 47 回放射線管理研究会, 2006.11 (長崎)

佐久間洋一, 太田雅壽, 秋山陽一, 上松和義, 緒方良至
化学形弁別トリチウムモニターの開発 (要旨集 p131, 2006)
日本放射線安全管理学会第 5 回学術大会, 2006.11 (名古屋)

安藤健作, 緒方良至, 佐久間洋一, 飯田孝夫
大気中水蒸気状トリチウムモニター (要旨集 p 70, 2006)
日本放射線安全管理学会第 5 回学術大会, 2006.11 (名古屋)

伊藤信嗣, 加藤克彦, 石垣武男, 池田 充, 田所匡典, 牧野直樹
甲状腺癌の骨転移診断における F-18 FDG-PET と骨シンチグラフィの比較
第 46 回日本核医学会学術総会, 2006.11 (鹿児島)

加藤克彦, 伊藤信嗣, 池田 充, 岩野信吾, 阿部真治, 西野正成, 田所匡典, 小林英敏, 石垣武男, 長縄慎二
皮膚原発悪性黒色腫と転移巣における 123I-IMP シンチグラフィ : 18F-FDG PET との比較
第 46 回日本核医学会学術総会, 2006.11 (鹿児島)

笹田裕也, 中川拓哉, 椿 洋則, 阪井洋平, 細野郁華, 福地麻美, 小山修司
モンテカルロシミュレーションを用いた CTDI100 についての検討
第 41 回日本放射線技術学会中部部会, 2006.11 (金沢)

藤田尚利, 津坂昌利, 小寺吉衛, 市川勝弘
ファントムの材質および撮影条件が CT の画像評価に与える影響 (第 41 回中部部会学術大会予稿集)
日本放射線技術学会第 41 回中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

西村裕子, 津坂昌利, 小寺吉衛, 市川勝弘
液晶ディスプレイの量子モトルを考慮した粒状性評価 (第 41 回中部部会学術大会予稿集)
日本放射線技術学会第 41 回中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

杉浦明弘, 津坂昌利
教育用簡易 PACS の構築と性能評価 (第 41 回中部部会学術大会予稿集)
日本放射線技術学会第 41 回中部部会学術大会, 2006.11 (金沢)

KATO Katsuhiko, **IKEDA Mitsuru**, ISHIGAKI Takeo, NAGANAWA Shinji
123I-IMP SPECT of primary lesions and metastases of cutaneous malignant melanoma: comparison with 18F-FDG PET
92nd Scientific Assembly and Annual Meeting of Radiological Society of North America, 2006.11 (Chicago, IL USA)

TODA Naohiro, YAMAZAKI Youichi, **KOYAMA Shuji**, **ICHIKAWA Katsuhiko**, **TSUZAKA Masatoshi**
Dual Energy X-ray CT with an Asymmetric Filter(RSNA2006, Scientific Assembly and Annual Meeting Program, pp 922-923, 2006)
Radiation Society of North America (RSNA) 2006, 2006.11 (Chicago, USA)

[公開講座・講演会]

本間光彦
カウンセリング演習指導
日本放射線カウンセリング学会 平成 18 年度学術大会, 2006.10 (米子)

本間光彦

カウンセリング演習指導

日本放射線カウンセリング学会 第7回カウンセリングセミナー, 2006.9 (東京)

市川勝弘

ディスプレイの画質評価の現状 (予稿集, p 84, 2006)

日本放射線技術学会第62回総会学術大会, 2006.4 (横浜)

市川勝弘

乳房画像診断用モニターの画質評価とQA・QC(抄録集, p 5, 2006)

第2回日本放射線技術学会・日本写真学会共同開催シンポジウム, 2006.7 (大阪)

石樽信人

ICRp 2005 会合の概要 (放射線取扱主任者部会中部支部平成17年度研修会テキスト pp 82-93, 2006)

平成17年度放射線取扱主任者部会中部支部研修会, 2006.1 (名古屋)

石樽信人

教育講演 28 医療被ばくに対する患者不安への対応 その2 内部被ばくについて (日本医学放射線学会雑誌 第65回日本医学放射線学会学術集会抄録集 p 588, 2006)

第65回日本医学放射線学会学術集会, 2006.4 (横浜)

石樽信人

内部被ばく線量評価の基礎知識 (第18回放射線業務従事者のための教育訓練講習会テキスト pp 1-10, 2006)

第18回放射線業務従事者のための教育訓練講習会, 2006.5 (名古屋)

小寺吉衛

デジタルマンモグラフィの種類と特徴

第7回乳癌最新情報カンファランス, 2006.7 (茅野)

小寺吉衛

技師教育と卒後教育の在り方

第1回放射線部門リーダーズセミナー 組織・教育に関するシンポジウム, 2006.10 (金沢)

小山修司

「X線検査における医療被ばく線量標準測定法」の確立へ向けて「CTDI再入門」(日本放射線技術学会計測分科会誌, 14(1), pp 16-17, 2006)

第27回日本放射線技術学会計測分科会, 2006.4 (横浜)

小山修司

X線CT撮影時の被ばく線量評価の実際

日本放射線技術学会近畿部会医療被ばく測定セミナー, 2006.9 (奈良)

小山修司

X線CT撮影時の被ばく線量評価の実際

日本放射線技術学会東北部会医療被ばく測定セミナー, 2006.8 (仙台)

小山修司

X線 CT撮影時の被ばく線量評価の実際

日本放射線技術学会中国四国部会医療被ばく測定セミナー, 2006.8 (広島)

小山修司

シンポジウム「医療における低線量被曝を考える」—CT被ばくの評価と問題点—

第65回日本医学放射線学会学術集会, 2006.4 (横浜)

小山修司

ラジオNIKKEI「医学講座」—CT被曝について—

2006.10 (東京)

小山修司

市民公開講座「あなたは病院の医療専門職の活躍をご存知ですか」—画像診断と放射線治療で活躍する診療放射線技師—

平成18年度名古屋大学医学部保健学科市民公開講座, 2006.10 (名古屋)

緒方良至

医療における被曝の問題 (放射線業務従事者のための教育訓練)

若狭湾エネルギー研究センター, 2006.1 (敦賀)

緒方良至

放射線と放射能 (高校生のための放射線実習セミナー)

長野県立伊那北高校, 2006.2 (伊那)

緒方良至

放射線計測実験講師 (愛知・岐阜・三重地区 エネルギー・環境・放射線セミナー)

愛知・岐阜・三重地区 エネルギー・環境・放射線セミナー, 2006.8 (四日市)

検査技術科学専攻

3 検査技術科学専攻

〔著書〕

古池保雄

自律神経症候の診かた

『臨床神経内科学（第5版）』（平山恵造（監修）廣瀬源二郎, 田代邦雄, 葛原茂樹（編集））南山堂, 2006. pp 198-216

古池保雄, 寶珠山 稔

神経生理学的検査法 脳波-疾患別異常脳波

『脳神経外科学大系 2. 検査診断法』（吉田 純（専門編集））中山書店, 2006. pp 272-282

寶珠山 稔, 古池保雄

神経生理学的検査法 脳波-総論

『脳神経外科学大系 2. 検査診断法』（吉田 純（専門編集））中山書店, 2006. pp 262-271

古池保雄, 太田龍朗

睡眠時の自律神経活動

『自律神経の基礎と臨床（第3版）』（後藤由夫, 本郷道夫（編集））医薬ジャーナル社, 2006. pp 285-299

小嶋哲人

1. フィブリノゲン D. 血液凝固因子の産生・構造・機能 IV. 止血と血栓（凝固と線溶） 第1部 基礎

『三輪・血液病学』（浅野茂隆ら監修）文光堂, 2006. pp 424-428

山本晃土, 小嶋哲人

3. ビタミン K 依存性凝固因子 D. 血液凝固因子の産生・構造・機能 IV. 止血と血栓（凝固と線溶） 第1部 基礎

『三輪・血液病学』（浅野茂隆ら監修）文光堂, 2006. pp 435-445

小嶋哲人

4. 凝固のコファクター：V 因子, VIII 因子 D. 血液凝固因子の産生・構造・機能 IV. 止血と血栓（凝固と線溶） 第1部 基礎

『三輪・血液病学』（浅野茂隆ら監修）文光堂, 2006. pp 445-451

足立達哉, 小嶋哲人

41. 血友病

『血液疾患ハンドブック・下巻』（吉田彌太郎 編）医歯ジャーナル社, 2006. pp 234-245

TAMIYA KOIZUMI Keiko, MURATE Takashi, TANAKA Katsumi, NISHIZAWA Yuji, MORONE Nobuhiro, USUKURA Jiro, HIRABAYASHI Yoshio

Close interrelationship of sphingomyelinase and caveolin in triton X-100-spluble membrane microdomains

(HIRABAYASHI Yoshio, IGARASHI Yasuyuki, Alfred H. Merrill Jr.) Sphingolipid Biology, 2006. pp 233-251

長瀬文彦

III 基礎的な免疫実験法 D 細胞培養

『免疫実験法ハンドブック』（中島 泉）名古屋大学出版会, 2006. pp 120-122

長瀬文彦

IV 発展的な免疫実験法 A 抗体の作製 (2) 3. T細胞クローンの作製

『免疫実験法ハンドブック』（中島 泉）名古屋大学出版会, 2006. pp 144-146

長瀬文彦, 加藤昌志

IV 発展的な免疫実験法 D 細胞活性の測定 (2) 1. ^3H -チミジン取り込みによる DNA 合成応答の測定
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 161-162

長瀬文彦

IV 発展的な免疫実験法 D 細胞活性の測定 (2) 2. ^{51}Cr 放出による細胞傷害活性の測定
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 163-164

杜 軍, 長瀬文彦

V 生化学的・分子生物学的な免疫実験法 C 細胞死の測定
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 229-243

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 1. 臨床検査における免疫学的測定法
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 254-255

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 2. 感染症の検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 256-275

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 3. 輸血・免疫血液学的検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 276-285

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 4. 血清タンパクの検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 286-289

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 5. アレルギーの検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 290-291

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 6. 自己免疫疾患の検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 292-295

長瀬文彦

VI 臨床医学と免疫実験法 A 臨床検査 7. がんの検査: 腫瘍マーカーの検査
『免疫実験法ハンドブック』(中島 泉) 名古屋大学出版会, 2006. pp 296-298

井澤英夫, 永田浩三, 室原豊明

慢性心不全に対する再生療法
『臨床心臓病学』(松崎益徳, 吉川純一) 文光堂, 2006. pp 125-126

野田明子

1. Polysomnography (PSG) の基礎的知識 3) PSG の準備・手順・較正
『臨床睡眠検査マニュアル』(日本睡眠学会) ライフ・サイエンス, 2006. pp 16-25

〔原著論文〕

橋本 泉, 今泉和良, 橋本直純, 臼井美穂, 松尾正樹, 芝崎正崇, 高木康之, 高橋孝輔, 本多豊大, 林 悠太, 近藤征史, 伊藤 康, 久米裕昭, 長谷川好規, 下方 薫, 川部 勤

アマメシバ (*Sauropus androgynus*) の単球系細胞に対する影響の検討
第 45 回日本呼吸器学会学術講演会, 2006

松島充代子, 川部 勤, 小川三由紀, 安部文江, 長谷川高明, 高木健三

フラボノイドの生体における抗アレルギー作用の検討
第 18 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2006

川部 勤, 住田 敦, 岡本真和, 橋本直純, 今泉和良, 長谷川好規, 高木健三, 下方 薫
肺線維芽細胞による Th1/Th2 型ケモカインの産生パターンと間質性肺疾患での評価 :
第 19 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2006

ICHIHARA Sahoko, YAMADA Yoshiji, ICHIHARA Gaku, KANAZAWA Hiroaki, **HASHIMOTO Katsunori**, KATO Yosuke, MATSUSHITA Aya, OIKAWA Shinji, YOKOTA Mitsuhiro IWASE Mitsunori

Attenuation of oxidative stress and cardiac dysfunction by bisoprolol in an animal model of dilated cardiomyopathy.
Biochem Biophys Res Commun. 350: 105-113, 2006

横井豊治, 橋本克訓, 成田道彦, 今泉和良

急性間質性肺炎と特発性肺線維症の急性増悪の病理
病理と臨床 24: 821-827, 2006

MURAKUMO Yoshiki, MIZUTANI Sachie, YAMAGUCHI Mariko, **ICHIHARA Masatoshi**, TAKAHASHI Masahide

Analyses of ultraviolet-induced focus formation of hREV1 protein
Genes Cells 11: 193-205, 2006

UCHIDA Mayumi, ENOMOTO Atsushi, FUKUDA Toshifumi, KUROKAWA Kei, MAEDA Kengo, KODAMA Yoshinori, ASAI Naoya, HASEGAWA Taisaku, SHIMONO Yohei, JIJIWA Mayumi, **ICHIHARA Masatoshi**, MURAKUMO Yoshiki, TAKAHASHI Masahide

Dok-4 regulates GDNF-dependent neurite outgrowth through downstream activation of Rap 1 and mitogen-activated protein kinase
J Cell Sci 119: 3067-3077, 2006

NAKANISHI Toru, IMAIZUMI Kazuyoshi, HASEGAWA Yoshinori, **KAWABE Tsutomu**, HASHIMOTO Naozumi, OKAMOTO Masakazu, SHIMOKATA Kaoru

Expression of macrophage-derived chemokine (MDC)/CCL22 in human lung cancer.
Cancer Immunol Immunother 55: 1320-1329, 2006

KATAOKA Kensuke, TANIGUCHI Hiroaki, HASEGAWA Yoshinori, KONDOH Yasuhiro, KIMURA Tomoki, NISHIYAMA Osamu, IMAIZUMI Kazuyoshi, **KAWABE Tsutomu**, KUME Hiroaki, SHIMOKATA Kaoru

Interstitial lung disease associated with gefitinib.
Respir Med 100: 698-704, 2006

IMAZUMI Kazuyoshi, SUGISHITA Mihoko, USUI Miho, **KAWABE Tsutomu**, HASHIMOTO Naozumi, HASEGAWA Yoshinori
Pulmonary infectious complications associated with anti-TNF α therapy (infliximab) for rheumatoid arthritis.
Intern Med 45: 685-688, 2006

HASHIMOTO Naozumi, IMAIZUMI Kazuyoshi, HONDA Toyohiro, **KAWABE Tsutomu**, NAGASAKA Tetsuro, SHIMOKATA Kaoru, HASEGAWA Yoshinori
Successful re-treatment with gefitinib for carcinomatous meningitis as disease recurrence of non-small-cell lung cancer.
Lung Cancer 53: 387-390, 2006

OKUDA Tetsuya, TOKUDA Noriyo, NUMATA Shin-ichiro, ITO Masafumi, OHTA Michio, **KAWAMURA-SATO Kumi**, WIELS Joelle, URANO Takeshi, TAJIMA Ori, FURUKAWA Keiko, and FURUKAWA Koichi
Targeted Disruption of Gb3/CD77 Synthase Gene Results in the complete deletion of Globo-series Glycosphingolipids and Loss of Sensitivity to Verotoxins
J Biol Chem 281: 10230-10235, 2006

KATO Yosuke, IWASE Mitsunori, **TAKAGI Kenji**, NISHIZAWA Takao, KANAZAWA Hiroaki, MATSUSHITA Aya, UMEDA Hisashi, IZAWA Hideo, **NODA Akiko**, **KOIKE Yasuo**, **NAGATA Kohzo**, YOKOTA Mitsuhiro
Differential myolysis of myocardium and skeletal muscle in hamsters with dilated cardiomyopathy - Beneficial protective effect of diltiazem
Circulation J 70: 1497-1502, 2006

岩瀬三紀, 武市康志, 石木良治, 稲垣春夫, 岩瀬 敏, 伊澤英夫, 永田浩三, 上山 純, 野田明子, 古池保雄, 横田充弘
人工重力とエルゴメータ運動の併用により, 無為臥床により惹起される心萎縮は防止可能である
心臓 38: 20-23, 2006

YAMAKAGE Nozomi, IKEJIRI Makoto, OKUMURA Kaoru, **TAKAGI Akira**, **MURATE Takashi**, MATSUSHITA Tadashi, NAOE Tomoki, YAMAMOTO Koji, TAKAMATSU Junki, YAMAZAKI Tomio, HAMAGUCHI Motohiro, **KOJIMA Tetsuhito**
A case of coagulation factor V deficiency caused by compound heterozygous mutations in the factor V gene
Haemophilia 12: 172-178, 2006

YAMAMOTO Koji, Honda Takashi, MATSUSHITA Tadashi, **KOJIMA Tetsuhito**, TAKAMATSU Junki
Anti-HCV agent, ribavirin, elevates the activity of clotting factor VII in hemophilia patients: a possible mechanism of decreased events of bleeding in hemophiliacs by ribavirin
J Thromb Haemost 4: 469-470, 2006

MATSUSHITA Tadashi, ADACHI Hiroaki, WATANABE Hidetaka, SHIMOYAMA Yoshie, ADACHI Tatsuya, SOBUE Gen, ITO Masafumi, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko, NAOE Tomoki
Classic Polyarteritis Nodosa Presenting Rare Clinical Manifestations in a Patient with Hemophilia A
Int J Hematol 83: 420-425, 2006

YANADA Masamitsu, MATSUSHITA Tadashi, SUZUKI Momoko, KIYOI Hitoshi, YAMAMOTO Koji, KINOSHITA Tomohiro, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko, NAOE Tomoki
Disseminated intravascular coagulation in acute leukemia: clinical and laboratory features at presentation
Eur J Haematol 77: 282-287, 2006

HAYASHI Mutsuharu, MATSUSHITA Tadashi, MACKMAN Nigel, ITO Masafumi, ADACHI Tatsuya, KATSUMI Akira, YAMAMOTO Koji, TAKESHITA Kyosuke, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko, MUROHARA Toyoaki, NAOE Tomoki

Fatal thrombosis of antithrombin deficient mice is rescued differently in the heart and liver by intercrossing with low tissue factor mice

J Thromb Haemost 4: 177-185, 2006

KUNISHIMA Shinji, MOTOYAMA Masako, **TAKAGI Akira**, HAMAGUCHI Motohiro, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko

Further characterization of anti-platelet monoclonal antibody HPL5 as anti-glycoprotein V antibody

Acta Haematol 115: 128-130, 2006

ADACHI Tatsuya, MATSUSHITA Tadashi, DONG Zhengyu, KATSUMI Akira, NAKAYAMA Takayuki, **KOJIMA Tetsuhito**, SAITO Hidehiko, SADLER J. Evan, NAOE Tomoki

Identification of amino acid residues essential for heparin binding by the A1 domain of human von Willebrand factor

Biochem Biophys Res Commun 339: 1178-1183, 2006

OKADA Hiromi, YAMAZAKI Tomio, **TAKAGI Akira**, **MURATE Takashi**, YAMAMOTO Koji, TAKAMATSU Junki, MATSUSHITA Tadashi, NAOE Tomoki, KUNISHIMA Shinji, HAMAGUCHI Motohiro, SAITO Hidehiko, **KOJIMA Tetsuhito**

In vitro characterization of missense mutations associated with quantitative protein S deficiency

J Thromb Haemost 4: 2003-2009, 2006

KUWANA Masataka, KURATA Yoshiyuki, FUJIMURA Kingo, FUJISAWA Koji, WADA Hideo, NAGASAWA Toshiro, NOMURA Shosaku, **KOJIMA Tetsuhito**, YAGI Hideo, IKEDA Yasuo

Preliminary laboratory-based diagnostic criteria for immune thrombocytopenic purpura: Evaluation by multi-center prospective study

J Thromb Haemost 4: 1936-1943, 2006

KIMURA Rina, HONDA Shigenori, KAWASAKI Tomio, TSUJI Hajime, MADOIWA Seiji, SAKATA Yoichi, **KOJIMA Tetsuhito** Kojima, MURATA Mitsuru, NISHIGAMI Kazuhiro, CHIKU Masaaki, HAYASHI Fumio, KOKUBO Yoshihiro, OKAYAMA Akira, TOMOIKE Hitonobu, IKEDA Yasuo, MIYATA Tos

Protein S K196E mutation as a genetic risk for deep vein thrombosis in Japanese patients

Blood 107: 1737-1738, 2006

SOBUE Sayaka, IWASAKI Takuo, SUGISAKI Chiho, **NAGATA Kohzo**, KIKUCHI Ryosuke, MURAKAMI Masashi, **TAKAGI Akira**, **KOJIMA Tetsuhito**, BANNO Yoshiko, AKAO Yukihiro, NOZAWA Yoshinori, KANNAGI Reiji, SUZUKI Motoshi, ABE Akihiko, NAOE Tomoki, **MURATE Takashi**

Quantitative RT-PCR analysis of sphingolipid metabolic enzymes in acute leukemia and myelodysplastic syndromes

Leukemia 20: 2042-2046, 2006

KATSUMI Akira, MATSUSHITA Tadashi, HIRASHIMA Kanji, IWASAKI Toshihiro, ADACHI Tatsuya, YAMAMOTO Koji, **KOJIMA Tetsuhito**, TAKAMATSU Junki, SAITO Hidehiko, NAOE Tomoki

Recurrent intramural hematoma of small intestine in a severe hemophilia A patient with high titer of factor VIII inhibitor.

A case report and a review of the literatures

Int J Hematol 84: 166-169, 2006

小嶋哲人

血栓止血異常症の遺伝子診断

第1回血液ネット臨床セミナー, 2006

NISHINO Yoshikazu, WAKAI Kenji, **KONDO Takaaki**, SEKI Nao, ITO Yoshinori, SUZUKI Koji, OZASA Kotaro, WATANABE Yoshiyuki, ANDO Masahiko, TSUBONO Yoshitaka, TSUJI Ichiro, TAMAKOSHI Akiko

Alcohol consumption and lung cancer mortality in Japanese men: results from Japan Collaborative Cohort (JACC) study
J Epidemiol 16: 49-56, 2006

KONDO Takaaki, UYAMA Jun, IMAI Ryota, SUZUKI Koji, ITO Yoshinori

Association of abdominal circumference with serum nitric oxide concentration in a healthy population

Environ Health Prev Med 11: 321-325, 2006

TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, WADA Keiko, MATSUSHITA Kunihiro, OTSUKA Rei, OU YANG Pei, SUGIURA Kaichiro, HOTTA Yo, MITSUHASHI Hirotsugu, **KONDO Takaaki**, TOYOSHIMA Hideaki

Birth weight and adult hypertension: cross-sectional study in a Japanese workplace population

Circ J 70: 262-267, 2006

MURATA Chiyoe, **KONDO Takaaki**, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, TOYOSHIMA Hideaki

Determinants of self-rated health: Could health status explain the association between self-rated health and mortality?

Arch Gerontol Geriatr 43: 369-380, 2006

UMESAWA Mitsumasa, ISO Hiroyasu, DATE Chigusa, YAMAMOTO Akio, TOYOSHIMA Hideaki, WATANABE Yoshiyuki, KIKUCHI Shogo, KOIZUMI Akio, **KONDO Takaaki**, INABA Yutaka, TANABE Naohito, TAMAKOSHI Akiko

Dietary intake of calcium in relation to mortality from cardiovascular disease

Stroke 37: 20-26, 2006

OTSUKA Rei, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, MURATA Chiyoe, SEKIYA Atsushi, WADA Keiko, ZHANG Hui Ming, MATSUSHITA Kunihiro, SUGIURA Kaichiro, TAKEFUJI Seiko, OU YANG Pei, NAGASAWA Nobue, **KONDO Takaaki**, SASAKI Satoshi, TOYOSHIMA Hideaki

Eating fast leads to obesity: findings based on self-administered questionnaires among middle-aged Japanese men and women

J Epidemiol 16: 117-124, 2006

ISHIDA Yoshiko, GOTO Yasuyuki, **KONDO Takaaki**, KURATA Mio, NISHIO Kazuko, KAWAI Sayo, OSAFUNE Tomo, NAITO Mariko, HAMAJIMA Nobuyuki

Eradication rate of Helicobacter pylori according to genotypes of CYP2C19, IL-1B, and TNF-A

Int J Med Sci 3: 135-140, 2006

MURATA Chiyoe, **KONDO Takaaki**, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, TOYOSHIMA Hideaki

Factors associated with life space among community living rural elders in Japan

Public Health Nurs 23: 324-331, 2006

ISHIKAWA Miyuki, TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, SUMA Kazutake, WADA Keiko, OTSUKA Rei, MATSUSHITA Kunihiro, ZHANG Huiming, MURATA Chiyoe, **KONDO Takaaki**, TOYOSHIMA Hideaki

Factors related to frequency of engaging in outside activities among elderly persons living an independent life at home

Nagoya J Med Sci 68 (3-4): 121-130, 2006

TAMAKOSHI Koji, YATSUYA Hiroshi, WADA Keiko, MATSUSHITA Kunihiro, OTSUKA Rei, SUGIURA Kaichiro, **KONDO Takaaki**, TOYOSHIMA Hideaki

Low birth weight is associated with reduced adiponectin concentration in adult
Ann Epidemiol 16: 669-674, 2006

IKEDA Ai, ISO Hiroyasu, TOYOSHIMA Hideaki, **KONDO Takaaki**, MIZOUE Tetsuya, KOIZUMI Akiko, INABA Yutaka, TAMAKOSHI Akiko

Parental longevity and mortality amongst Japanese men and women: the JACC Study
J Intern Med 259 (3): 285-295, 2006

FUJII Chie, SAKAKIBARA Hisataka, **KONDO Takaaki**, YATSUYA Hiroshi, TAMAKOSHI Koji, TOYOSHIMA Hideaki
Plasma fibrinogen levels and cardiovascular risk factors in Japanese schoolchildren
J Epidemiol 16: 64-70, 2006

SUZUKI Satoshi, HAYASHI Hisao, **TAKAGI Kenji**, **KONDO Takaaki**, **TAKAGI Kenzo**, **UEYAMA Jun**, **WAKU-SAWA Shinya**

Protein kinase C β isoform down-regulates the expression of MDR3 P-glycoprotein in human Chang liver cells
Biochim Biophys Acta-General Subjects 1760: 1552-1557, 2006

CUI Renzhe, ISO Hiroyasu, TOYOSHIMA Hideaki, DATE Chigusa, YAMAMOTO Akio, KIKUCHI Shogo, **KONDO Takaaki**, WATANABE Yoshiyuki, KOIZUMI Akio, INABA Yutaka, TAMAKOSHI Akiko

Relationships of age at menarche and menopause, and reproductive year with mortality from cardiovascular disease in Japanese postmenopausal women: the JACC study
J Epidemiol 16: 177-184, 2006

SUZUKI Koji, ITO Yoshinori, WAKAI Kenji, KAWADO Miyuki, HASHIMOTO Shuji, SEKI Nao, ANDO Masahiko, NISHINO Yoshikazu, **KONDO Takaaki**, WATANABE Yoshiyuki, OZASA Kotaro, INOUE Takashi, TAMAKOSHI Akiko

Serum Heat Shock Protein 70 Levels and lung cancer risk; a case-control study nested in large cohort study
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 15: 1733-1737, 2006

UEYAMA Jun, SAITO Isao, KAMIJIMA Michihiro, NAKAJIMA Tamie, GOTOH Masahiro, SUZUKI Takayoshi, SHIBATA Eiji, **KONDO Takaaki**, **TAKAGI Kenji**, MIYAMOTO Ken-ichi, TAKAMATSU Junki, HASEGAWA Takaaki, **TAKAGI Kenzo**

Simultaneous determination of urinary dialkylphosphate metabolites of organophosphorus pesticides using gas chromatography-mass spectrometry
J Chromatogr B 832: 58-66, 2006

近藤高明, 渡邊ゆかり, 上山 純, 堀 容子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 豊嶋英明
健常成人集団での加齢と経年的血圧変動との関連性 —一般線型混合モデルの適用—
日本循環器病予防学会誌 41: 55-61, 2006

近藤高明
動脈硬化危険因子の予測に腹部脂肪蓄積量の測定を併用することの意義
肥満研究 12 (1): 40-46, 2006

YAMADA Yoshiji, BANNO Yoshiko, YOSHIDA Hitoshi, KIKUCHI Ryosuke, AKAO Yukihiro, **MURATE Takashi**, NOZAWA Yoshinori

Catalytic inactivation of heman phospholipase D2 by a naturally occurring Gly901Asp mutation
Arch Med Res 37: 696-699, 2006

AKAO Yukihiro, BANNO Yoshiko, NAKAGAWA Yoshihito, HASEGAWA Nobuko, KIM Tack-Joong, **MURATE Takashi**, NOZAWA Yoshinori

High expression of sphingosine kinase 1 and S1P receptors in chemotherapy resistant prostate cancer PC3 cells and their camptothecin-induced upregulation
Biochem Biophys Res Commun 342: 1284-1290, 2006

OKUMURA Kaoru, KYOTANI Mayu, KAWAI Reiko, **TAKAGI Akira**, **MURATE Takashi**, YAMAMOTO Kouji, TAKAMATSU Junki, MATSUSHITA Tadashi, SAITO Hidehiko, **KOJIMA Tetsuhito**

Recurrent mutations of factor XI gene in Japanese
Int J Hematol 83: 462-463, 2006

CHENG Xian wu, OBATA Koji, KUZUYA Masafumi, IZAWA Hideo, NAKAMUA Kae, ASAI Eri, NAGASAKA Tetsuro, SAKA Masako, KIMATA Hirotaka, **NODA Akiko**, **NAGATA Kohzo**, JIN Hai, SHI Guo-Ping, IGUCHI Akihisa, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro.

An elastolytic cathepsin induction/activation system exists in myocardium and is upregulated in hypertensive heart failure.
Hypertension 48: 979-987, 2006

ICHIHARA Sahoko, OBATA Koji, YAMADA Yoshiji, **NAGATA Kohzo**, **NODA Akiko**, ICHIHARA Gaku, YAMADA Akira, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro.

Attenuation of cardiac dysfunction by a PPAR-alpha agonist is associated with down-regulation of redox-regulated transcription factors.
J Mol Cell Cardiol 41: 318-329, 2006

SAKA Masako, OBATA Koji, ICHIHARA Sahoko, CHENG Xian wu, KIMATA Hirotaka, **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, YOKOTA Mitsuhiro.

Attenuation of ventricular hypertrophy and fibrosis in rats by pitavastatin: potential role of the RhoA-extracellular signal-regulated kinase-serum response factor signalling pathway.
Clin Exp Pharmacol Physiol 33: 1164-1171, 2006

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, Xu Jinglan, ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, KIMATA Hirotaka, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro.

Mineralocorticoid receptor antagonism attenuates cardiac hypertrophy and failure in low-aldosterone hypertensive rats.
Hypertension 47: 656-664, 2006

SAKA Masako, OBATA Koji, ICHIHARA Sahoko, CHENG Xian wu, KIMATA Hirotaka, NISHIZAWA Takao, **NODA Akiko**, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, MUROHARA Toyooki, YOKOTA Mitsuhiro.

Pitavastatin improves cardiac function and survival in association with suppression of the myocardial endothelin system in a rat model of hypertensive heart failure.
J Cardiovasc Pharmacol 47: 770-779, 2006

ICHIHARA Sahoko, **NODA Akiko**, **NAGATA Kohzo**, OBATA Koji, Xu Jinglan, ICHIHARA Gaku, OIKAWA Shinji, KAWANISHI Shosuke, YAMADA Yoshiji, YOKOTA Mitsuhiro.

Pravastatin increases survival and suppresses an increase in myocardial matrix metalloproteinase activity in a rat model of heart failure.

Cardiovasc Res 69: 726-735, 2006

HIRASHIKI Akihiro, IZAWA Hideo, SOMURA Fuji, OBATA Koji, KATO Tomoko, NISHIZAWA Takao, YAMADA Akira, ASANO Hiroyuki, OHSHIMA Satoru, **NODA Akiko**, IINO Shigeo, **NAGATA Kohzo**, OKUMURA Kenji, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

Prognostic value of pacing-induced mechanical alternans in patients with mild-to-moderate idiopathic dilated cardiomyopathy in sinus rhythm.

J Am Coll Cardiol 47: 1382-1389, 2006

UMEDA Hisashi, KATOH Toshiaki, IWASE Mitsunori, IZAWA Hideo, **NAGATA Kohzo**, WATANABE Kosuke, OKADA Taro, YAMADA Takumi, TANI Tomomitsu, MATSUSHITA Toyoaki, MURAKAMI Yoshimasa, OKAMOTO Mitsuhiro, SHIMIZU Takeshi, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

The distal protection during primary percutaneous coronary intervention alleviates the adverse effects of large thrombus burden on myocardial reperfusion.

Circ J 70: 232-238, 2006

IZAWA Hideo, KONDO Takahisa, USUI Akihiko, YAMAMOTO Koji, SHINTANI Satoshi, INDEN Yasuya, ISOBE Satoshi, UNNO Kazumasa, KAJIGUCHI Masahiro, KATO Tomoko, **NODA Akiko**, OKUMURA Kenji, NAOE Tomoki, TAKAMATSU Junki, KOMORI Kimihiro, UEDA Yuichi, MUROHARA Toyoaki

Clinical protocol for angiogenesis by intramyocardial injection of autologous bone marrow mononuclear cells in patients with severe coronary artery disease-TACT-NAGOYA-HEART-

Circulation Journal 70: 1180-1183, 2006

NODA Akiko, NAKAISHIGERU, SOGA Taro, SUGIURA Tatsuki, IWAYAMA Norihisa, MAEDA Kenji, ATARASHI Misaho, YASUMA Fumihiko, OZAKI Norio, YOKOTA Mitsuhiro, **KOIKE Yasuo**

Factors contributing to sleep disturbance and hypnotic drug use in hemodialysis patients

Internal Medicine 45: 1273-1278, 2006

OCHI Hikari, **NODA Akiko**, MIYATA Seiko, SUKEGAWA Mayo, IWASE Mitsunori, **KOIKE Yasuo**, ITO Rieko, YAMADA Hiroshi, TAKAMATSU Junki, YOKOTA Mitsuhiro

Sex differences in the relationships between electrocardiographic abnormalities and the extent of left ventricular hypertrophy by echocardiography

Annals of Noninvasive Electrocardiology 11: 222-229, 2006

NAKATA Seiichi, **NODA Akiko**, YANAGI Eriko, SUZUKI Keisuke, YAMAMOTO Hiroshi, NAKASIMA Tsutomu

Tonsil size and body mass index are important factors for efficacy of simple tonsillectomy in obstructive sleep apnoea syndrome

Clinical Otolaryngology 31: 41-45, 2006

宮田聖子, 野田明子, 石見亜紀, 足立由希, 伊藤理恵子, 西澤孝夫, 浅野展行, 井澤英夫, 永田浩三, 飯野重夫, 横田充弘
リアルタイム 3D 心エコー法による運動時の左心機能評価

日本心臓リハビリテーション学会誌 11: S87-, 2006

桜井志保美, 前川厚子, 竹井留美, 野田明子, 毛受 彬, 中井 滋, 平井眞理
訪問看護を受ける在宅療養者の主介護者における睡眠障害の実態
保健の科学 48: 783-790, 2006

SUZUKI Tatsuya, ZHAO Ying Lan, NADAI Masayuki, NARUHASHI Kazumasa, SHIMIZU Akemi, **TAKAGI Kenji**,
TAKAGI Kenzo, HASEGAWA Takaaki
Gender-related differences in expression and function of hepatic P-glycoprotein and multidrug resistance-associated protein
(Mrp2) in rats
Life Sciences 79: 455-461, 2006

YAMAGUCHI Shoji, ZHAO Ying Lan, NADAI Masayuki, YOSHIZUMI Hideo, CEN Xiaobo, TORITA Shoko, **TAKAGI**
Kenji, **TAKAGI Kenzo**, HASEGAWA Takaaki
Involvement of the drug transporters p-glycoprotein and multidrug resistance-associated protein Mrp2 in telithromycin
transport
Antimicrob. Agents Chemother. 50: 80-87, 2006

SUGAWARA Gen, NAGINO Masato, ARAI Toshiyuki, NISHIO Hideki, EBATA Tomoki, **TAKAGI Kenji**, ASAHARA
Takashi, NOMOTO Koji, TANAKA Ryuichiro, NIMURA Yuji
Perioperative symbiotic treatment to prevent postoperative infectious complications in biliary cancer surgery: A randomized
controlled trial
Ann Surg 244: 706-714, 2006

NOSAKA Hiroyuki, NADAI Masayuki, KATO Miki, YASUI Kazumasa, YOSHIZUMI Hideo, MIYOSHI Mika, ZHAO Ying
Lan, BABA Kenji, **TAKAGI Kenzo**, HASEGAWA Takaaki
Effect of a newly developed ketolide antibiotic, telithromycin, on metabolism of theophylline and expression of cytochrome
p 450 in rats
Life Sciences 79: 50-56, 2006

HASEGAWA Masaya, **TAKAGI Kenzo**, SHIMOKATA Kaoru, BYRD H Joseph, NABESHIMA Toshitaka
Evaluation of bronchial asthma pharmaceutical care clinic for outpatients run by pharmacists at nagoya univerisity hospital
Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 32: 1038-1043, 2006

KATAOKA Kensuke, SUZUKI Ryujiro, TANIGUCHI Hiroyuki, NODA Yasunobu, SHINDOH Joe, MATSUMOTO Syuichi,
WATANABE Yoshiaki, HONDA Kousuke, SUZUKI Kiyoshi, BABA Kenji, IMAIZUMI Kazuyoshi, KUME Hiroaki, HASEGAWA
Yoshinori, **TAKAGI Kenzo**
Phase I/II trial of docetaxel and carboplatin as a first-line therapy in patients with stage IV non-small-cell lung cancer
Lung 184: 133-139, 2006

HIRANO Masato, TANUMA Jun-ichi, HIRAYAMA Yoshikazu, OHYAMA Masanobu, SEMBA Ichiro, **WAKUSAWA**
Shinya, SHISA Hayase, HIAI Hiroshi, KITANO Motoo.
A speed congenic rat strain bearing the tongue cancer susceptibility locus Tsccl from Dark-Agouti rats.
Cancer Lett 231: 185-191, 2006

HAYASHI Hisao, **WAKUSAWA Shinya**, YANO Motoyoshi
Iron Removal by Phlebotomy for the Prophylaxis of Fulminant Hepatitis in a Wilson Disease Model of Long-Evans Cinnamon
Rats.
Hepatol Res 35: 276-280, 2006

MASUDA A, HASHIMOTO K, **YOKOI Toyoharu**, DOI T, KODAMA T, KUME H, OHNO K, MATSUGUCHI T
Essential role of GATA transcriptional factors in the activation of mast cells
J Immunol 1: 1, 2006

NUMANAMI H, TANAKA M, HASHIZUME M, HARA K, **YOKOI Toyoharu**, HANIUDA M
Pleuropulmonary blastoma in a 12-year-old boy presenting with pneumothorax
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 54: 504-506, 2006

MORITANI S, ICHIHARA S, SEKI Y, KATAOKA M, **YOKOI Toyoharu**
Pulmonary capillary hemangiomas incidentally detected in a lobectomy specimen for a metastatic colon cancer
Pathology International 56: 350-357, 2006

山中秀高, 小野 要, 横井豊治, 佐藤達郎, 瀬古 浩
十二指腸乳頭部未分化癌の1例
日本消化器外科学会誌 39: 66-71, 2006

〔総説・解説・その他〕

MURAKUMO Yoshiki, JIJIWA Mayumi, ASAI Naoya, **ICHIHARA Masatoshi**, TAKAHASHI Masahide
RET and neuroendocrine tumors
Pituitary 9: 179-192, 2006

川部 勤
マウス喘息モデルを用いた疾患感受性遺伝子の検索
日本職業・環境アレルギー学会誌 13: 1-10, 2006

古池保雄, 平山正昭, 伊藤宏樹
自律神経機能検査 B. 自律神経機能検査の臨床応用 b. 呼吸・睡眠系の自律神経機能検査
神経内科 64: 412-423, 2006

小嶋哲人
Xa 阻害剤
血栓と循環 14: 209-213, 2006

小嶋哲人
血液凝固亢進状態の抗凝固療法
臨床化学 35: 129-135, 2006

小嶋哲人
抗凝固薬：ヘパリンから合成 Xa 阻害薬へ
健康文化 41: 30-34, 2006

奥村 薫, 小嶋哲人
臨床検査による血栓症の病態解析—凝固系：血栓症—血管障害に対応する医療
成人病と生活習慣病 36: 133-136, 2006

HAMAJIMA Nobuyuki, NAITO Mariko, **KONDO Takaaki**, GOTO Yasuyuki
Genetic factors involved in the development of Helicobacter pylori-related gastric cancer
Cancer Sci 97: 1129-1138, 2006

HAMAJIMA Nobuyuki, SUZUKI Koji, ITO Yoshinori, **KONDO Takaaki**
Genotype announcement to Japanese smokers who attended a health checkup examination
J Epidemiol 16: 45-47, 2006

永田浩三, 小畑孝二, 横田充弘
狭心症治療薬ニコランジルの多面的効果
科学評論社 60: 148-156, 2006

野田明子, 平山正昭, 古池保雄
10. 自律神経機能検査 A. 自律神経機能検査の基礎的知識 b. 呼吸・睡眠系の自律神経機能検査
神経内科 65: 412-423, 2006

野田明子
睡眠呼吸障害(検査編)
睡眠医療・生涯教育セミナー・テキスト 1: 50-60, 2006

野田明子
非侵襲呼吸器医療における在宅検診と睡眠医療
MC メディカ出版 14: 1-, 2006

高木健三
気管支喘息発作と心臓喘息発作の違いは? 気管支喘息発作と心臓喘息発作の違いを教えてください
Q & A でわかる アレルギー疾患 2: 449-451, 2006

HAYASHI Hisao, YANO Motoyoshi, FUJITA Yoshikazu, **WAKUSAWA Shinya**.
Compound overload of copper and iron in patients with Wilson's disease.
Med Mol Morphol 39: 121-126, 2006

HAYASHI Hisao, **WAKUSAWA Shinya**, MOTONISHI SATOSHI, MIYAMOTO Ken-ichi, OKADA Toshihide, INAGAKI
Yasutaka, IKEDA Takaaki
Genetic background of primary iron overload syndromes in Japan.
Intern Med 45: 1107-1111, 2006

〔科研費・班研究等〕

村手 隆
骨髓異形成症候群における WT1 発現の診断的意義に関する研究
厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 1: 46, 2006

小嶋哲人
変異型プロテイン S 分子の発現解析
厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患対策研究事業 血液凝固異常症に関する調査研究 平成 17 年度総括・分担研究報告書慶
應義塾大学医学部内科学 118-121, 2006

小嶋哲人

門脈血栓症に認められたプロテイン S 欠損症の分子病態解析

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患対策研究事業 門脈血行異常症調査研究 平成十七年度研究報告書九州大学大学院医学
研究院 29-31, 2006

長瀬文彦

トリプトファン代謝による T 細胞応答の制御

厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業 (H17-長寿-004) 生体の持つストレス応答機能を利用した老化制御, 予防研
究 平成 17 年度 総括研究報告書 40-43, 2006

〔その他の印刷物等〕

伊藤秀郎

楽しく学ぶ –身近なものに目を向ける–

名大トピックス名古屋大学広報室 1: 12-13, 2006

豊嶋英明, 玉腰浩司, 八谷 寛, 和田恵子, 大塚 礼, 張 恵 明, 近藤高明

生活習慣病発症予防に関する職域コホート研究 –自覚的ストレスとアディポサイトカインとの関連–
公益信託日本動脈硬化予防研究基金 平成 17 年度研究報告書 p 47-48, 2006

野田明子

よい睡眠がもたらすものは？

日本の睡眠障害医療 すいみん ing TECHNOMICS 16: p 14, 2006

〔学会発表〕

濱島信之, 後藤康幸, 西尾和子, 石田喜子, 川合紗世, 近藤高明

ピロリ菌自由診療受診者での遺伝子型別除菌率 (抄録集 p 211, 2006)
第 16 回日本疫学会学術集会, 2006.1 (名古屋)

堀 容子, 深谷友美, 飯田紗弓, 大矢優子, 永野美加, 今井亮太, 近藤高明, 平井眞理, 榊原久孝, 西尾和子, 浜島信之
運動後の血圧低下に関する要因; 性・年齢・BMI・ecNOS 遺伝子多型による検討 (抄録集 p 62, 2006)

第 16 回日本疫学会学術集会, 2006.1 (名古屋)

今井亮太, 近藤高明, 鈴木隆佳, 山本麻貴, 林 明奈, 高木健次, 堀 容子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 豊嶋英明

健常成人集団での血中 polyamine 値と生活習慣病発症要因との関連 (第 1 報) (講演集 p 142, 2006)
第 16 回日本疫学会学術集会, 2006.1 (名古屋)

近藤高明, 今井亮太, 鈴木隆佳, 山本麻貴, 林 明奈, 高木健次, 堀 容子, 八谷 寛, 玉腰浩司, 豊嶋英明

健常成人集団での血中 polyamine 値と生活習慣病発症要因との関連 (第 2 報) (講演集 p 143, 2006)
第 16 回日本疫学会学術集会, 2006.1 (名古屋)

川村久美子, 和知野純一, 伊藤秀郎, 荒川宜親

臨床分離アシネトバクターの消毒薬感受性調査 (予稿集, p 65, 2006)
第 79 回 日本細菌学会総会, 2006.3 (金沢)

小嶋哲人

先天性アントロンピン欠損症 4 例の遺伝子解析

第 45 回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会, 2006.3 (浜松)

坂井ラン子, 勝田美保, 奥野公美子, 大角麻利菜, 神南秀樹, 中尾彰宏, 溝口良順, 橋本克訓, 横井豊治

器質性肺炎に合併した肺アスペルギルス症の 1 例 (第 25 回日本臨床細胞学会東海連合会総会・学術集会プログラムおよび抄録集 p 15, 2006)

第 25 回日本臨床細胞学会東海連合会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

KATO Tomoko, IZAWA Hideo, **NODA Akiko**, OHSHIMA Satoru, ASANO Hiroyuki, MURASE Yosuke, HIRASHIKI Akihiro, **NAGATA Kohzo**, HASHIMURA Kazuhiko, MANO Akiko, NAKATANI Takeshi, KITAKAZE Masafumi, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

Correlation of regional left ventricular wall thickness with regional myocardial systolic function, but not with diastolic function, in hypertrophic cardiomyopathy.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

IZAWA Hideo, MUROHARA Toyoaki, OHSHIMA Satoru, ASANO Hiroyuki, HIRASHIKI Akihiro, KOBAYASHI Masakazu, KATO Tomoko, YAMADA Takashi, OBATA Koji, CHENG Xian wu, IINO Shigeo, INDEN Yasuya, **NODA Akiko**, ISOBE Satoshi, **NAGATA Kohzo**, OKUMURA Kenji, YOKOTA Mitsuhiro

Different effects of spironolactone on myocardial fibrosis and intracellular Ca²⁺-handling in patients with nonischemic dilated cardiomyopathy.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

CHENG Xian wu, OBATA Koji, **NAGATA Kohzo**, KUZUYA Masafumi, IZAWA Hideo, NAKAMURA Kae, SAKA Masako, KIMATA Hirotaka, ASAHI Eri, MUROHARA Toyoaki, IGUCHI Akihisa, YOKOTA Mitsuhiro.

Expression of the Lysosomal Cysteine Proteases Cathepsin S in the Left Ventricular Myocardium of Rats and Humans and Its Regulation in Cardiac Myocytes.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

KIMATA Hirotaka, **NAGATA Kohzo**, OBATA Koji, SAKA Masako, CHENG Xian wu, HAYASHI Keiko, FURUKAWA Mayuko, ICHIHARA Sahoko, YOKOTA Mitsuhiro.

Mineralocorticoid receptor antagonist added to ACE inhibitor improves LV diastolic dysfunction by decreasing oxidative stress in hypertensive rats.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

SAKA Masako, OBATA Koji, **NAGATA Kohzo**, CHENG Xian wu, KIMATA Hirotaka, ICHIHARA Sahoko, YOKOTA Mitsuhiro.

Pitavastatin increases survival and suppresses an activation in myocardial endothelin-1 system during the transition to heart failure in hypertensive rat.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

UNNO Kazumasa, OHSHIMA Satoru, IZAWA Hideo, ASANO Hiroyuki, KOBAYASHI Masakazu, HIRASHIKI Akihiro, KATO Tomoko, YAMADA Takashi, OBATA Koji, **NODA Akiko**, NANASATO Mamoru, INDEN Yasuya, IINO Shigeo, KATO Katsuhiko, HIRAI Toshihisa, ISOBE Satoshi, ANDOH Akita

Tc-99m-sestamibi washout rate could be reflected delayed myocardial relaxation in patients with hypertrophic cardiomyopathy.

第 70 回日本循環器学会総会・学術集会, 2006.3 (名古屋)

小嶋哲人

シンポジウム：血管内皮とレオロジー –血管内皮による血液流動性維持（抗血栓作用）

第 83 回日本生理学会大会, 2006.3 (前橋)

永田浩三, 木俣宏隆, 小畑孝二, 坂 雅子, 成 憲 武, 横田充弘

高血圧性心不全モデルラットにおけるミネラルコルチコイド受容体拮抗薬と ACE 阻害剤の併用効果

第 13 回高血圧心研究会, 2006.4 (東京)

奥村 薫, 山田貴之, 池尻 誠, 山下真代, 山影 望, 岡田浩美, 松下 正, 山本晃士, 高松純樹, 高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人
先天性血液凝固第 XI 因子欠損症の遺伝子解析

第 7 回愛知県医学検査学会, 2006.5 (豊田)

岡村 愛, 上島通浩, 大谷勝巳, 伊藤由起, 宮田麻衣子, 鈴木隆佳, 今井亮太, 高木健次, 那須民江

有機リン殺虫剤ジクロルポスとダイアジノン曝露ラットにおける雄性生殖器影響の比較

第 79 回日本産業衛生学会, 2006.5 (仙台)

市原 周, 藤元琢也, 森谷鈴子, 谷田部恭, 高橋恵美子, 森 良雄, 横井豊治

Double-immunostaining with p63 & 34βE12 Distinguishes Borderline Papillary Neoplasms of the Breast

第 95 回日本病理学会, 2006.5 (東京)

今井亮太, 鈴木隆佳, 内藤久雄, 李チュルホ, 岡村 愛, 上山 純, 齋藤 勲, 上島通浩, 五藤雅博, 柴田英治, 深谷幸生, 近藤高明, 高木健次

衛生害虫防除作業者のピレスロイド系殺虫剤尿中代謝産物による曝露評 (講演集 (CD-R 版), 2006)

第 79 回日本産業衛生学会, 2006.5 (仙台)

川合紗世, 伊藤志門, 後藤康幸, 近藤高明, 西尾和子, 石田喜子, 内藤真理子, 浜島信之

MTHFR および TS の遺伝子型別にみた血漿総ホモシステイン値 (講演集 p31, 2006)

第 29 回日本がん疫学研究会, 2006.5 (広島)

濱島信之, 後藤康幸, 近藤高明, 西尾和子, 川合紗世, 石田喜子, 長船智, 内藤真理子

遺伝子型通知による自由診療外来での禁煙誘導 (講演集 p46, 2006)

第 29 回日本がん疫学研究会, 2006.5 (広島)

榊原沙知, 長坂和泉, 濱田智博, 内田一豊, 山本明美, 金田なな, 山本 司, 夏目篤二, 前多松善, 橋本克訓, 横井豊治

肺胞蛋白症の 2 例 (第 7 回愛知県医学検査学会 抄録集, 2006)

第 7 回愛知県医学検査学会, 2006.5 (豊田)

MUNESUE Seiichi, YOSHITOMI Yasuo, KOYAMA Yoshie, KIYONO Shinsuke, OGURI Kayoko, **HASHIMOTO Kat-sunori**, **YOKOI Toyoharu**, OKAYAMA Minoru

Syndecan-2 acts as a suppressor for activation of matrix metalloproteinase-2 through its heparan sulfate chains.

20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6 (Kyoto, Japan)

MURAKAMI Masashi, KIKUCHI Ryouzuke, **ICHIHARA Masatoshi**, AKANUMA Hiromi, SOBUE Sayaka, **TAKAGI Akira**, **KOJIMA Tetsuhito**, KOIZUMI TAMIYA Keiko, BANNO Yoshiko, NOZAWA Yoshinori, **MURATE Takashi**

Increased sphingosine kinase 1 gene expression by glial cell-line derived neurotrophic factor (GDNF) and its possible involvement in multiple endocrine neoplasia 2A type (MEN2A) oncogenesis

20th IUBMB International Congress of Biochemistry and molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, 2006.6

原 祐樹, 美濃島慎, 奥田将人, 杉浦真理, 足立由希, 石見亜紀, 助川真代, 宮田聖子, 野田明子, 古池保雄
睡眠中の聴覚誘発反応について (抄録集 p 153, 2006)
日本睡眠学会第 31 回定期学術集会, 2006.6 (大津)

中田誠一, 野田明子, 杉浦建生, 斉藤八千代, 澤木美音, 小西智代子, 森永麻美, 中島 務
成人閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群における鼻手術効果における詳細な検討 (抄録集 p 111, 2006)
日本睡眠学会第 31 回定期学術集会, 2006.6 (大津)

宮田聖子, 野田明子, 本多久美子, 石見亜紀, 杉浦建生, 曾我太郎, 中井 滋, 中田誠一, 中島 務, 古池保雄
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における持続気道陽圧療法のコンプライアンスに関する要因 (抄録集 p 169, 2006)
日本睡眠学会第 31 回定期学術集会, 2006.6 (大津)

野田明子, 中田誠一, 杉浦建生, 宮田聖子, 足立由紀, 助川真代, 石見亜紀, 中井 滋, 尾崎紀夫
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における心脳血行動態および認知機能評価 (抄録集 p 104, 2006)
日本睡眠学会第 31 回定期学術集会, 2006.6 (大津)

HIRAMATSU Rie, HARA Toshiaki, AKIMOTO Hidetoshi, TAKISAWA Osamu, **KAWABE Tsutomu, NAGASE Fumi-
mihiko**
Sauropus androgynus (SA) induces enhanced production of tumor necrosis factor- α (TNF- α) from monocytic lineage cells
11th International Meeting on Tryptophan Research, 2006.7 (Tokyo)

HARA Toshiaki, HIRAMATSU Rie, AKIMOTO Hidetoshi, TAKIKAWA Osamu, **KAWABE Tsutomu, NAGASE Fumi-
mihiko**
Trichloroacetic acid-triggered reaction of kynurenine to nitrite produced by bone marrow-derived myeloid dendritic cells
stimulated with CpG
The 11th Meeting of International Study Group for Tryptophan Research Abstract p 71, 2006, 2006.7 (Tokyo)

HIRAMATSU Rie, HARA Toshiaki, AKIMOTO Hidetoshi, TAKIKAWA Osamu, **KAWABE Tsutomu, NAGASE Fumi-
mihiko**
Enhancement of 3-hydroxyanthranilic acid-induced T cell apoptosis through cinnabaric acid generation
The 11th Meeting of International Study Group for Tryptophan Research Abstract p 72, 2006, 2006.7 (Tokyo)

宮田聖子, 野田明子, 足立由希, 杉浦真理, 原 祐樹, 美濃島慎, 助川真代, 石見亜紀, 大嶽正文, 小島 隼, 古池保雄, 森永麻美, 中
田誠一, 中島 務, 杉浦建生, 曾我太郎, 中井 滋, 尾崎紀夫, 宮尾悦子
閉塞性睡眠時無呼吸症候群における認知機能評価 (抄録集)
第 37 回睡眠呼吸障害研究会, 2006.7 (東京)

浜島信之, 後藤康幸, 西尾和子, 川合紗世, 石田喜子, 内藤真理子, 近藤高明
CYp2C19 遺伝子型を用いたピロリ菌除菌自由診療 (講演集 p 32, 2006)
第 52 回東海公衆衛生学会学術大会, 2006.7 (大府)

柏木隆宏, 国島伸治, 今井 利, 三田直美, 藤森祐多, 奥村 薫, 高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人
血小板無力症例における遺伝子異常解析
第 7 回日本検査血液学会学術集会, 2006.7 (東京)

OKAMURA A., KAMIJIMA M., YAMANOSHITA O., OHTANI K., NAKAMURA D., MIYATA M., ITO Y., SUZUKI T., IMAI R., UHEYAMA J., TAKAGI K., NAKAJIMA T.

Decrease in rat sperm motility is associated with cholinesterase activity inhibition by dichlorvos and diazinon treatment
11th IUPAC International Congress of Pesticide Chemistry, 2006.8 (Kobe)

WANG Dong, IMAI Ryota, SUZUKI Takayoshi, KAMEDA Yohei, OKAMURA Ai, NAITO Hisao, LEE Chul-ho, **UEYAMA Jun**, SAITO Isao, KAMIJIMA Michihiro, GOTO Masahiro, SHIBATA Eiji, FUKAYA Yukio, **KONDO Takaaki, TAKAGI Kenji, TAKAGI Kenzo, WAKUSAWA Shinya**

Biological monitoring of pyrethroid exposure for pest control workers
11th IUPAC International Congress of Pesticide Chemistry, 2006.8 (Kobe)

祖父江沙矢加, 岩崎卓識, 杉崎千穂, 浅野治彦, 安部明弘, 坂野喜子, 赤尾幸博, 野澤義則, 菊池良介, 村上真史, 高木 明, 小嶋哲人, 直江知樹, 村手 隆

白血病細胞株, 白血病及び骨髄異形成症候群におけるスフィンゴ脂質代謝酵素の定量 RT-PCR 解析
臨床血液, 2006.9

HAGIWARA Kazumi, KYOGASHIMA Mori, KOIZUMI TAMIYA Keiko, NAGAI Hirokazu, SOBUE Sayaka, **TAKAGI Akira, KOJIMA Tetsuhito, KANNAGI Reiji, MURATE Takashi**

Serum depletion changes sphingolipid metabolism and induces apoptosis in all-trans retinoic acid stimulated human neuroblastoma cell line, SH-SY5Y
Chemistry and Physics of Lipids, 2006.9

SOBUE Sayaka, BANNO Yoshiko, MURAKAMI Masashi, KIKUCHI Ryosuke, IWASAKI Takashi, **TAKAGI Akira, KOJIMA Tetsuhito, AKAO Yukihiro, NOZAWA Yoshinori, MURATE Takashi**

V-src enhances sphingosine kinase 1 gene and protein expression: Possible role in oncogenesis
Chemistry and Physics of Lipids, 2006.9

杉浦真里, 野田明子, 原 祐樹, 美濃島 慎, 宮田聖子, 石見亜紀, 足立由希, 大嶽正文, 小島 隼, 伊藤理恵子, 飯野重夫, 永田浩三, 古池保雄

大学生アスリートにおける三次元心エコー法による運動中の左心機能評価
第 24 回日本超音波検査学会, 2006.9 (名古屋)

美濃島慎, 野田明子, 宮田聖子, 石見亜紀, 原 祐樹, 杉浦真里, 足立由希, 大嶽正文, 小島 隼, 西澤孝夫, 浅野展行, 井澤英夫, 永田浩三, 飯野重夫, 室原豊明, 横田充弘, 古池保雄

肥大型心筋症における心内膜側心筋 strain 解析
第 24 回日本超音波検査学会, 2006.9 (名古屋)

加藤まゆ子, 永田浩三, 深田亜矢子, 宮地正朗, 矢澤宏樹, 森山夏衣, 橋本克訓, 小畑孝二, 野田明子, 古池保雄, 横田充弘
インスリン抵抗性改善薬ピオグリタゾンは食塩感受性高血圧ラットの左室肥大を抑制する

日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

深田亜矢子, 永田浩三, 宮地正朗, 矢澤宏樹, 加藤まゆ子, 橋本克訓, 小畑孝二, 野田明子, 古池保雄, 横田充弘
テルミサルタンはヒドララジンと異なりアンジオテンシン II 高血圧による心筋細胞肥大を抑制する

日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

西澤孝夫, 安間文彦, 森 敏充, 池庭千鶴, 木村正剛, 若山忠士, 野口雅弘, 久留 聡, 酒井素子, 小長谷正明, 野田明子, 永田浩三, 三浦 学, 井澤英夫, 室原豊明
筋ジストロフィー患者における骨格筋および心筋崩壊, 心機能障害との関連の検討
日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

西澤孝夫, 安間文彦, 森 敏充, 池庭千鶴, 木村正剛, 若山忠士, 野口雅弘, 久留 聡, 酒井素子, 小長谷正明, 野田明子, 永田浩三, 三浦 学, 井澤英夫, 室原豊明
筋ジストロフィー患者における心機能障害と BNP の関連
日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

杉浦真理, 原 祐樹, 美濃島慎, 宮田聖子, 石見亜紀, 野田明子, 足立由希, 大獄正文, 小島 隼, 永田浩三, 古池保雄, 伊藤理恵子, 飯野重夫
大学生アスリートにおける三次元心エコー法による運動中の左心機能評価
日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

美濃島慎, 宮田聖子, 石見亜紀, 原 祐樹, 杉浦真理, 野田明子, 足立由希, 大獄正文, 小島 隼, 永田浩三, 古池保雄, 西澤孝夫, 浅野展行, 井澤英夫, 室原豊明, 飯野重夫, 横田充弘
肥大型心筋症における心内膜側心筋 strain 解析
日本超音波医学会第 24 回中部地方会, 2006.9 (名古屋)

ICHIHARA S., FUJIMOTO T., **HASHIMOTO Katsunori**, MORITANI S., **YOKOI Toyoharu.**, YATABE Y.
Double-immunostaining with p63 and 34 β E12 to Distinguish Borderline Papillary Neoplasms of the Breast
XXVI International Congress of IAP, 2006.9 (Montreal (Canada))

壇原 敦, 市原正智, 村雲芳樹, 高橋雅英
GZF1 の結合蛋白の同定と解析 (抄録集 pp167, 2006)
第 65 回 日本癌学会学術総会, 2006.9 (横浜)

石田麻紀, 市原正智, 村雲芳樹, 高橋雅英
RET 受容体型チロシンキナーゼのシグナル伝達系における Sprouty ファミリータンパク質の機能解析 (抄録集 pp163, 2006)
第 65 回 日本癌学会学術総会, 2006.9 (横浜)

奥村 薫, 京谷麻由, 山田貴之, 池尻 誠, 山下真代, 山影 望, 岡田浩美, 岩崎年宏, 勝見 章, 松下 正, 直江知樹, 山本晃士, 高松純樹, 高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人
先天性アントロンピン欠損症 6 例の遺伝子解析
第 68 回日本血液学会・第 48 回日本臨床血液学会 合同総会, 2006.10 (福岡)

祖父江沙矢加, 岩崎卓織, 杉崎千穂, 浅野治彦, 安部明弘, 坂野喜子, 赤尾幸博, 野澤義則, 菊池良介, 村上真史, 高木 明, 小嶋哲人, 直江知樹, 村手 隆
白血病細胞株, 白血病及び骨髄異形性症候群検体におけるスフィンゴ脂質代謝酵素の定量 RT-PCR 解析
第 68 回日本血液学会・第 48 回日本臨床血液学会 合同総会, 2006.10 (福岡)

平島寛司, 松下 正, 西尾健治, 山下真代, 岩崎年宏, 勝見 章, 山本晃士, 小嶋哲人, 直江知樹
High resolution alanine scanning mutagenesis による抗 VWF モノクローナル交代のエピトープ解析
第 68 回日本血液学会・第 48 回日本臨床血液学会 合同総会, 2006.10 (福岡)

国島伸治, 岡田浩美, 山崎鶴夫, 濱口元洋, 齋藤英彦, 松下 正, 小嶋哲人, 吉成みやこ, 西尾寿乗, 井田孔明, 三浦琢磨
MYH9 遺伝子 R702 変異による MYH9 異常症の特徴
第 68 回日本血液学会・第 48 回日本臨床血液学会 合同総会, 2006.10 (福岡)

岩崎年宏, 勝見 章, 平島寛司, 尾関和貴, 山本晃士, 清井 仁, 松下 正, 小嶋哲人, 直江知樹
急性骨髄性白血病における RhoH 発現の検討
第 68 回日本血液学会・第 48 回日本臨床血液学会 合同総会, 2006.10 (福岡)

NAKATA Seiichi, **NODA Akiko**, MIYATA Seiko, SUGIURA Tatsuki, MORINAGA Asami, NAKAHIMA Tsutomu
Reduced nasal resistance after conventional tonsillectomy in obstructive sleep apnea patients
SLEEP, 2006.10 (Salt Lake)

ADACHI Yuki, SOGA Taro, **NODA Akiko**, SUGIURA Tatsuki, MIYATA Seiko, SUKEGAWA Mayo, NAKAI Shigeru,
KOIKE Yasuo
Sleep-disordered breathing and heart rate variability in hemodialysis patients
SLEEP, 2006.10 (Salt Lake)

KATO Hikari, **NODA Akiko**, MIYATA Seiko, MORISHITA Yuki, ADACHI Yuki, IWAMI Aki, SUKEGAWA Mayo,
MAENO Nobuhisa, OZAKI Norio, **KOIKE Yasuo**
Sleeping and life habits in morning and evening types of sleep-wake rhythm
SLEEP, 2006.10 (Salt Lake)

MIYATA Seiko, **NODA Akiko**, ADACHI Yuki, OKUDA Masato, HARA Yuhki, MINOSHIMA Makoto, SUKEGAWA
Mayo, IIDAKA Tetsuya, OZAKI Norio, **KOIKE Yasuo**
The influence of insufficient sleep on cerebral blood volume
SLEEP, 2006.10 (Salt Lake)

大嶽正文, 野田明子, 杉浦建生, 原 祐樹, 杉浦真里, 美濃島慎, 宮田聖子, 足立由希, 小島 隼, 古池保雄
アクティグラフィによる睡眠障害の評価
日本臨床生理学会雑誌, supplement 36: p 79, 2006.10 (福岡)

小島 隼, 野田明子, 杉浦真里, 宮田聖子, 足立由希, 美濃島慎, 原 祐樹, 大嶽正文, 飯野重夫, 古池保雄
トレッドミルとエルゴメーターによる運動時の左心機能評価
日本臨床生理学会雑誌, supplement 36: p 73, 2006.10 (福岡)

杉浦真里, 野田明子, 宮田聖子, 石見亜紀, 足立由希, 原 祐樹, 美濃島慎, 伊藤理恵子, 飯野重夫, 永田浩三, 古池保雄
三次元心エコー法による運動中の心拍出量評価
日本臨床生理学会雑誌, supplement 36: p 80, 2006.10 (福岡)

深田亜矢子, 永田浩三, 宮地正朗, 矢澤宏樹, 加藤まゆ子, 橋本克訓, 小畑孝二, 野田明子, 古池保雄, 横田充弘
テルミサルタンはヒドララジンと異なりアンジオテンシン高血圧による心肥大を抑制する
第 10 回日本心不全学会学術集会, 2006.10 (東京)

加藤まゆ子, 永田浩三, 深田亜矢子, 宮地正朗, 矢澤宏樹, 森山夏衣, 橋本克訓, 小畑孝二, 野田明子, 古池保雄, 横田充弘
糖尿病治療薬 Pioglitazone は食塩感受性高血圧ラットの心肥大を抑制する
第 10 回日本心不全学会学術集会, 2006.10 (東京)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, Xu Jinglan, ICHIHARA Sahoko, NODA Akiko, KIMATA Hirotaka, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

Mineralocorticoid receptor blockade attenuates cardiac hypertrophy and failure in low-renin, low-aldosterone hypertensive rats.

ISH2006, 2006.10 (Fukuoka)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, Xu Jinglan, ICHIHARA Sahoko, NODA Akiko, KIMATA Hirotaka, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

Mineralocorticoid receptor blockade attenuates cardiac hypertrophy and failure in low-renin, low-aldosterone hypertensive rats.

ISH2006 POST CONGRESS IN NAGOYA, 2006.10 (Nagoya)

NAGATA Kohzo, OBATA Koji, Xu Jinglan, ICHIHARA Sahoko, NODA Akiko, KIMATA Hirotaka, KATO Tomoko, IZAWA Hideo, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiro.

Mineralocorticoid receptor blockade attenuates cardiac hypertrophy and failure in low-renin, low-aldosterone hypertensive rats.

ISH Symposium in Tokyo, 2006.10 (Tokyo)

池原賢代, 磯 博康, 豊嶋英明, 伊達ちぐさ, 山本昭夫, 菊地正悟, 近藤高明, 渡辺能行, 小泉昭夫, 和田安彦, 稲葉 裕, 玉腰暁子
飲酒習慣と循環器疾患病型別死亡の関連 (JACC study) (抄録集 p 592, 2006)

第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

近藤高明, 堀 容子, 玉腰浩司, 八谷 寛, 豊嶋英明

健常成人男性での血清脂質値の系年的変化に関する多重レベル解析 (抄録集 p 274, 2006)

第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006.10 (富山)

永田浩三, 木俣宏隆, 深田亜矢子, 宮地正朗, 加藤まゆ子, 矢澤宏樹, 野田明子, 古池保雄, 成 憲 武, 市原佐保子, 小畑孝二, 松原達明, 横田充弘

高血圧性心不全ラットにおいて ACE 阻害薬へのミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の追加投与は心線維化及び心筋酸化ストレスをさらに抑制する

第 13 回関西不全心研究会, 2006.10 (大阪)

山下真代, 清水敦哉, 松下 正, 足立達哉, 平島寛司, 池尻 誠, 山影 望, 山田貴之, 奥村 薫, 岡田浩美, 高木 明, 村手 隆, 岩崎年宏, 勝見 章, 山本晃士, 国島伸治, 直江知樹, 小嶋哲人, 齋藤英彦

Scanning mutagenesis による抗 $\text{GPIIb}\alpha$ 抗体のエピトープ解析

第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

岡田浩美, 山崎鶴夫, 国島伸治, 濱口元洋, 高木 明, 岩崎年宏, 勝見 章, 松下 正, 山本晃士, 高松純樹, 齋藤英彦, 小嶋哲人
イントロン内のスプライス部位に変異を認めた先天性 PS 欠乏症の 1 例

第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

柏木隆宏, 三田直美, 藤森祐多, 池尻 誠, 山影 望, 山下真代, 山田貴之, 奥村 薫, 岡田浩美, 岩崎年宏, 勝見 章, 松下 正, 山本晃士, 高松純樹, 齋藤英彦, 高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人

フォン・ヴィレブランド病 11 症例における遺伝子解析

第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

三田直美, 柏木隆宏, 藤森祐多, 池尻 誠, 山影 望, 山下真代, 山田貴之, 奥村 薫, 岡田宏美, 岩崎年宏, 勝見 章, 松下 正, 山本晃士, 高松純樹, 齋藤英彦, 高木 明, 村手 隆, 小嶋哲人
先天性プロテイン S 欠損症 7 症例の遺伝子解析
第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

小川三由紀, 川部 勤, 松島充代子, 安部文江, 廣瀬悦子, 古部裕子, 高木健三
肥満細胞におけるケンフェロールの抗アレルギー作用の検討
第 44 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2006.11 (東京)

TAKAGI Yasuyuki, HASHIMOTO Naozumi, IMAIZUMI Kazuyoshi, Matsuo Masaki, **KAWABE Tsutomu**, HASEGAWA Yoshinori, SHIMOKATA Kaoru
Different matrix metalloproteinases activities and metastatic potential in murine Lewis lung cancer lines.
11th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, 2006.11 (Kyoto)

HASHIMOTO Izumi, IMAIZUMI Kazuyoshi, **KAWABE Tsutomu**, HASHIMOTO Naozumi, USUI Miho, Matsuo Masaki, SHIBAZAKI Masataka, TAKAGI Yasuyuki, TAKAHASHI Kosuke, HONDA Toyohiro, HAYASHI Yuta, KONDOH Yasuhiro, KUME Hiroaki, HASEGAWA Yoshinori, SHIMOKATA Kaoru
Sauropus androgynus (SA) induces enhanced production of tumor necrosis factor- α (TNF- α) from monocytic lineage cells.
12th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, 2006.11 (Kyoto)

石川淳子, 木村利奈, 本田繁則, 川崎富夫, 末久悦次, 辻 肇, 窓岩清治, 坂田洋一, 小嶋哲人, 村田 満, 竹下 聡, 池田康夫, 宮田敏行
日本人静脈血栓症における関連遺伝子の変異解析
第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

山崎鶴夫, 岡田浩美, 国島伸治, 浜口元洋, 齋藤英彦, 小嶋哲人
本邦における FV R2 の頻度調査と機能解析: 日本人にも APC レジスタンスは存在する
第 29 回日本血栓止血学会学術集会, 2006.11 (宇都宮)

NODA Akiko, ASANO Hiroyuki, HIRASHIKI Akihiro, OBATA Koji, MIYATA Seiko, KOBAYASHI Masakazu, YAMADA Akira, OHSHIMA Satoru, MURASE Yosuke, NISHIZAWA Takao, YAMADA Akira, IINO Shigeo, **NAGATA Kohzo**, MUROHARA Toyoaki, **KOIKE Yasuo**, YOKOTA Mitsuhiro
Left ventricular diastolic dyssynchrony derived from strain rate imaging is related to impaired relaxation and increased stiffness in patients with dilated cardiomyopathy
AHA2006, 2006.11 (Chicago)

池上陽子, 國本政瑞沖, 町田和彦, 金子弘史, 河村孝彦, 宮石 理, 横井豊治
瀰漫性多発嚢胞性病変を呈した肺胞上皮癌の一例
第 90 回日本呼吸器学会東海地方学会, 2006.11 (名古屋)

亀山なつみ, 伊東美帆, 林 久男, 葛谷貞二, 石上雅敏, 林 和彦, 片野義明, 後藤秀実, 日下部篤彦, 涌澤伸哉
Dubin-Johnson 症候群 5 名の長期経過と MRp2 遺伝子変異
第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 2006.11 (弘前)

涌澤伸哉, 伊東美帆, 亀山なつみ, 林 久男, 林 和彦, 片野義明, 後藤秀実
日本人ヘモクロマトーシスで見出された HJV および TFR2 遺伝子変異
第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 2006.11 (弘前)

高須聖子, 橋本克訓, 坂本慎太郎, 農間有美, 森谷鈴子, 市原 周, 横井豊治
子宮内膜病変における細胞異型の形態計測的, 免疫組織化学的解析 (臨床病理 54 (補冊) p 264, 2006)
第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 2006.11 (弘前)

橋本克訓, 遠藤比呂子, 坂本佑子, 千田美歩, 藤原和幸, 坂本慎太郎, 高須聖子, 農間有美, 森谷鈴子, 市原 周, 横井豊治
子宮頸部扁平上皮病変における細胞異型と原癌遺伝子の増幅, 染色体の異数性との関連 (臨床病理 54 (補冊) p 263, 2006)
第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 2006.11 (弘前)

坂本慎太郎, 橋本克訓, 高須聖子, 農間有美, 新村祐一郎, 森谷鈴子, 市原 周, 横井豊治
肺の扁平上皮癌における細胞異型の形態計測的, 免疫組織化学的, 分子病理学的解析 (臨床病理 54 (補冊) p 265, 2006)
第 53 回日本臨床検査医学会学術集会, 2006.11 (弘前)

岡村 愛, 上島通浩, 李チュルホ, 内藤久雄, 上山 純, 今井亮太, 王 棟, 柴田英治, 五藤雅博, 高木健次, 近藤高明, 深谷幸生, 斉藤 勲, 那須民江
殺虫剤散布作業者集団におけるフェニトロチオン尿中代謝物 3-methyl-4-nitrophenol とフェニトロチオン散布との関連
平成 18 年度 日本産業衛生学会東海地方会学会, 2006.11 (岐阜)

CHENG Xian wu, IZAWA Hideo, OBATA Koji, KUZUYA Masafumi, **NAGATA Kohzo**, NAKAMURA Kae, HIRASHIKI Akihiro, ASANO Hiroyuki, **NODA Akiko**, OKUMURA Kenji, IGUCHI Akihisa, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiko.
A elastolytic cathepsin induction/activation system exists in the rat and human myocardium and is upregulated in hypertensive heart failure.
AHA2006, 2006.11 (Chicago)

KOBAYASHI Masakazu, IZAWA Hideo, ASANO Hiroyuki, OBATA Koji, HIRASHIKI Akihiro, OHSHIMA Satoru, KATO Tomoko, YAMADA Takashi, MURASE Yosuke, **NODA Akiko**, NISHIZAWA Takao, **NAGATA Kohzo**, ISOBE Satoshi, INDEN Yasuya, MUROHARA Toyoaki, YOKOTA Mitsuhiko.
Contractile reserve revealed by β 1-adrenergic stimulation as a predictor of altered myocardial expression of contractile regulatory proteins in mildly symptomatic patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.
AHA2006, 2006.11 (Chicago)

HIRAMATSU Rie, HARA Toshiaki, **KAWABE Tsutomu**, **NAGASE Fumihiko**
Induction of T cell apoptosis by 3-hydroxyanthranilic acid through cinnabarinic acid generation (日本免疫学会総会・学術集会記録 第 36 巻 p 164, 2006)
日本免疫学会総会・学術集会, 2006.12 (大阪)

HARA Toshiaki, HIRAMATSU Rie, **KAWABE Tsutomu**, **NAGASE Fumihiko**
Acid-initiated reaction of kynurenine to nitrite produced by bone marrow-derived myeloid dendritic cells stimulated with CpG (学術集会記録 第 36 巻 p 214, 2006)
日本免疫学会総会・学術集会, 2006.12 (大阪)

石田麻紀, 市原正智, 村雲芳樹, 高橋雅英
RET 受容体型チロシンキナーゼのシグナル伝達系における Sprouty 蛋白の機能解析 (抄録集 pp 370, 2006)
日本分子生物学会 2006 フォーラム, 2006.12 (名古屋)

HARA Toshiaki, HIRAMATSU Rie, AKIMOTO Hidetoshi, TAKISAWA Osamu, **KAWABE Tsutomu**, **NAGASE Fumihiro**

Acid-initiated reaction of kynurenine to nitrite produced by bone marrow-derived myeloid dendritic cells stimulated with CpG

第 37 回日本免疫学会総会, 2007.12 (大阪)

〔公開講座・講演会〕

小嶋哲人

血管内皮ヘパラン硫酸プロテオグリカン

新潟血管生物学研究会, 2006.2 (新潟)

小嶋哲人

抗血小板療法の最近の話題

第 505 回碧南市医師会医学研究会, 2006.8 (碧南)

近藤高明

血中脂質

愛知県職員健康教室, 2006.8 (名古屋)

近藤高明

血中脂質

愛知県職員健康教室, 2006.3 (名古屋)

近藤高明

地域の健康

大幸ライフトピア タウンミーティング, 2006.12 (名古屋)

永田浩三

(パネルディスカッション) 肥大心の病態

Heart Failure Forum in Nagoya, 2006.5 (名古屋)

永田浩三

エプレレノンと ACE 阻害剤との併用により高血圧心不全モデルラットの左室リモデリングと拡張機能不全をさらに抑制する

第 4 回東海心血管系アルドステロン研究会, 2006.2 (名古屋)

永田浩三

抗アルドステロン薬の心保護効果とその分子メカニズム

アルドステロンを考える会, 2006.11 (名古屋)

永田浩三

循環器疾患に合併する消化器症状とその対応

アストラゼネカ社内研修会, 2006.5 (名古屋)

永田浩三

心臓にやさしい新世代カルシウム拮抗薬の新たな可能性

第 12 回日本心臓リハビリテーション学会ランチョンセミナー 1, 2006.7 (名古屋)

永田浩三

心臓病と分子生物学—これからの臨床医に必要な知識—
南圭会（南区医師会勉強会），2006.3（名古屋）

永田浩三

心保護を考慮した降圧療法
Hypertension Conference, 2006.1（名古屋）

高木健次

臨床検査の基礎知識
愛知県理学療法士，生涯教育勉強会，2006.8（名古屋）

横井豊治

びまん性肺疾患の診断における病理の役割
岐阜県臨床衛生検査技師会平成 18 年度秋季拡大研修会，2006.11（美濃加茂）

横井豊治

びまん性肺疾患の病理の基礎講座
第 4 回名古屋呼吸器領域卒後専門教育セミナー，2006.10（名古屋）

横井豊治

びまん性肺疾患の病理診断のポイント
第 10 回大阪病理研究会，2006.12（吹田）

横井豊治

呼吸器細胞診（その他の病変）
日本臨床細胞学会東海連合会細胞診基礎講習会，2006.6（名古屋）

理学療法学専攻

4 理学療法学専攻

〔著書〕

鈴木重行, 平野幸伸, 鈴木敏和

(全体執筆)

『ID ストレッチング第2版』(鈴木重行) 三輪書店, 2006. p 1-262

鈴木重行, 平野幸伸

疼痛

『図解理学療法検査・測定ガイド』(奈良 勲, 内山 靖編集) 文光堂, 2006. pp 270-279

TORIHASHI Shigeko

Formation of gut-like structures in vitro from mouse embryonic stem cells.

『Embryonic Stem Cell Protocols-II』(TURKSEN Kursad) Humana Press, 2006. pp 279-285

鳥橋茂子, 田村 謙二

消化管壁内神経叢

『自律神経の基礎と臨床 改訂3版』(後藤 由夫, 本郷 道夫) 医薬ジャーナル, 2006. pp 87-98

〔原著論文〕

林 久恵, 山田純生, 熊田佳孝, 松尾 汎, 中島晴伸, 鳥山高伸, 川原弘久

虚血肢に対する高濃度人工炭酸泉足浴時の経皮的酸素分圧の変化に関する研究

脈管学 46: 411-416, 2006

勝水健吾, 河村守雄

超音波照射が異所性骨化に及ぼす影響

日本物理療学会誌 13: 67-69, 2006

肥田朋子

運動器の痛みに対する理学療法のエビデンス

臨床看護 32: 1861-1870, 2006

肥田朋子, 松原貴子, 田崎洋光

痛みのメカニズムと理学療法 —運動器の痛み—

愛知県理学療法士会 18: 82-88, 2006

肥田朋子, 松原貴子, 田崎洋光

痛みのメカニズムと理学療法 —痛みについて理解を深めよう—

愛知県理学療法士会 18: 55-62, 2006

肥田朋子

痛覚閾値の測定法 —機械的刺激に対する痛覚閾値—

メディカルプレス 23: 90-93, 2006

張本浩平, 橋本辰幸, 大道裕介, 櫻井博紀, 吉本隆彦, 江口国博, 山口佳子, 鈴木重行, 熊澤孝朗

ラットにおける慢性痛症発現に関わる筋傷害要因の検討

理学療法学 33: 43, 2006

桑原道生, 上田周平, 片上智江, 林 琢磨, 小竹伴照, 有馬征宏, 鈴木重行
糖尿病患者に対する骨格筋電気刺激療法の試み
愛知県理学療法士会誌 18: 102-106, 2006

MATSUURA Rie, KOGO Hiroshi, OGAERI Takunori, MIWA Takashi, KUWAHARA Masaki, KANAI Yoshiakira, NAKA-GAWA Takumi, KUROIWA Atsushi, FUJIMOTO Toyoshi, **TORIHASHI Shigeko**
Crucial transcription factors in endoderm and embryonic gut development are expressed in gut-like structures from mouse ES cells.
Stem Cells 24: 624-630, 2006

TORIHASHI Shigeko, KUWAHARA Masaaki, OGAERI Takunori, ZHU Pu, KURAHASHI Masaaki, FUJIMOTO Toyoshi
Gut-like structures from mouse embryonic stem cells as an in vitro model for gut organogenesis preserving developmental potential after transplantation.
Stem Cells 24: 2618-2626, 2006

SUZUKI Makoto, OMORI Mikayo, HATAKEYAMA Mayumi, **YAMADA Sumio**, MATSUSHITA Kazuhiko, IJIMA Setsu
Predicting recovery of upper-body dressing ability after stroke.
Archives of physical medicine and rehabilitation 87: 1496-1502, 2006

Cahalin L P, Ferreira D C, Yamada S, Canavan PK.
Review of the effects of resistance training in patients with chronic heart failure
Cardiopulmonary Physical Therapy Journal. 17: 16-29, 2006

清水優子, 山田純生
呼吸困難感を改善する短期間のレジスタンス・トレーニングの開発
心臓リハビリテーション 11: 70-74, 2006

岩津弘太郎, 山田純生
死腔負荷に伴う運動時 1 回換気フロー・ボリューム曲線の変化に関する検討
理学療法学 33: 370-376, 2006

三好都子, 山田純生
脈拍モニタリング機器の使用はセルフ・エフィカシー向上に影響する
心臓リハビリテーション 11: 311-314, 2006

〔総説・解説・その他〕

林 久恵
虚血性潰瘍に対する物理療法
理学療法ジャーナル 40: 1007-1013, 2006

林 久恵
炭酸泉足浴の効果
月刊 nursing 26: 48-49, 2006

荒川高光, 河上敬介, 寺島俊雄
ヒト足底の深層筋における起始の変異を力学的・機能的に再考する
メディカルプレス・理学療法 23: 424-427, 2006

河上敬介, 磯貝 薫
運動器へのアプローチに必要な筋解剖学
愛知県理学療法士会・愛知県理学療法士会誌 18: 77-81, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫, 小林邦彦
股関節外旋筋群の停止付近の位置と触察のポイント
愛知県理学療法士会・愛知県理学療法士会誌 23: 1215-1219, 2006

河上敬介, 今井和泉, 笹井宣昌, 縣 信秀, 磯貝 薫
足部の母指球, 小指球を構成する筋および足底方形筋の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 543-547, 2006

河上敬介, 菅原 仁, 磯貝 薫
体幹筋の解剖学的理解のポイント
メディカルプレス・理学療法 23: 1351-1360, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫
体表から触察困難な深部の股関節外旋筋群の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 1335-1339, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫
大殿筋と中殿筋の位置
メディカルプレス・理学療法 23: 983-987, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫, 小林邦彦
中殿筋と小殿筋の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 1103-1107, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫
腸骨筋, 大腰筋, 小腰筋の形と位置
メディカルプレス・理学療法 23: 1447-1452, 2006

河上敬介, 今井和泉, 磯貝 薫
内転筋群の形と位置(1)
メディカルプレス・理学療法 23: 1575-1578, 2006

河上敬介, 今井和泉, 笹井宣昌, 縣 信秀, 磯貝 薫
膝窩筋の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 875-879, 2006

河上敬介, 今井和泉, 笹井宣昌, 縣 信秀, 磯貝 薫
腓腹筋の起始付近の筋腹および足底筋の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 767-771, 2006

河上敬介, 今井和泉, 笹井宣昌, 縣 信秀, 磯貝 薫
鷺足を構成する筋の位置と形
メディカルプレス・理学療法 23: 659-663, 2006

浅井友詞, 鈴木重行, 森本浩之, 曾爾彊
体幹に対する徒手療法 ストレッチング
理学療法 23: 1475-1480, 2006

鈴木重行, 平野幸伸, 鈴木敏和, 池島 寿
痛みを有する患者の面接・観察・運動検査・触診
理学療法 23: 58-66, 2006

鳥橋茂子
カハールの介在細胞はどのように消化管運動の制御にかかわるのか?
分子消化器病 3: 295-299, 2006

〔科研費・班研究等〕

猪田邦雄, 河上敬介, 田中英一, 山本創太, 宮津真寿美
どれくらい伸長刺激で筋長は伸びるか?
平成 17 年度科学研究費補助金 (萌芽的研究) 報告書 1: 1, 2006

加藤智香子
ヒッププロテクターのコンプライアンス及び介護者負担の検討
ヒッププロテクターによる介護施設の大腿骨頸部骨折予防研究—製品差の検討.14-18.2006 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業総括研究報告書 1: 1, 2006

原田 敦, 猪田邦雄, 長屋政博, 徳田治彦, 加藤智香子
ヒッププロテクター介入による介護施設の大腿骨頸部骨折予防研究: 製品差の検討
平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金痴呆・骨折臨床研究事業総括研究報告書 1: 1, 2006

肥田朋子, 水村和枝, 和田正信
神経因性疼痛と二次的な筋の変性に対する予防の実験的研究
平成 17~18 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 成果報告書 1 (1):, 2007

鳥橋茂子
マウス ES 細胞による腸管様構造・腸管組織の形成とこれを用いた実験発生学的研究
平成 17 年度—平成 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究成果報告書 1:, 2006

〔その他の印刷物等〕

鈴木重行, 星 文彦
専門領域研究部会は学術大会分科会になれるか?
理学療法学 33: 465-466, 2006

安藤 貴洋 山田純生
心拍定常運動負荷試験による新しい運動能力評価法の開発—妥当性ならびに臨床的意義の検討—
名古屋大学大学院医学系研究科修士論文, 2006

小川智也, 山田純生,
慢性閉塞性肺疾患患者における理学療法介入と急性増悪に関する検討
名古屋大学大学院医学系研究科修士論文, 2006

〔学会発表〕

堀紀代美, 尾崎紀之, 篠田雅路, 鈴木重行, 杉浦康夫
シスプラチンによって引き起こされる痛覚過敏のメカニズムの解析 (解剖学雑誌 81 (2), 59, 2006)
第 111 回日本解剖学会総会・学術大会, 2006.3 (相模原)

岩津弘太郎, 山田純生
死腔負荷に伴う運動時 1 回換気フロー・ボリューム曲線の変化に関する検討 (第 41 回日本理学療法学術大会)
第 41 回日本理学療法学術大会, 2006.4 (群馬)

安藤貴洋, 山田純生, 岩津弘太郎, 清水優子, 三好都子, 木村 穰, 上田加奈子, 太田梨恵, 久保田眞由美, 滝川瑠美, 竹谷晋二
心拍定常運動負荷試験による新しい運動能力評価法の開発—妥当性の検討— (第 24 回臨床運動療法研究会)
第 24 回臨床運動療法研究会, 2006.4 (仙台)

林 久恵, 山田純生, 熊田佳孝, 立木里奈, 山内香里, 松山由香利, 渡井陽子, 鳥山高伸, 川原弘久
人工炭酸泉足浴 (CFB) 時の経皮的酸素分圧 (tcPO₂) 応答からみた大腿-膝窩動脈バイパス (FP バイパス) 術後の血液供給
予備能に関する検討 (第 41 回日本理学療法学術大会)
第 41 回日本理学療法学術大会, 2006.4 (群馬)

小川智也, 山田純生, 谷口博之, 渡辺文子, 有蘭信一, 寶門玲美, 井本 文
慢性閉塞性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーションと急性増悪の発生との関連要因 (第 41 回日本理学療法学術大)
第 41 回日本理学療法学術大, 2006.4 (群馬)

松居宏樹, 肥田朋子, 木山喬博
ラット腓腹筋における生体の硬さ測定 (理学療法学)
学会名, 2006.5 (群馬)

草田怜美, 渋谷実千代, 菱田章江, 新田明子, 山下豊子, 安藤映梨子, 長谷川美佳, 岩田恵美子, 猪田邦雄, 加藤智香子
平成 17 年度転倒予防教室を实践して—運動の動機づけと QOL の変化について— (第 52 回名古屋市公衆衛生研究発表会抄録
集.15-16.2006.)
第 52 回名古屋市公衆衛生研究発表会, 2006.5 (名古屋)

縣 信秀, 笹井宣昌, 宮津真寿美, 河上敬介, 早川公英, 小林邦彦
ラットヒラメ筋の廃用性萎縮に対する周期的伸張刺激の抑制効果 (理学療法学 33 巻大会特別号 No. 2 2006)
第 41 回日本理学療法学術集会, 2006.5 (前橋)

加藤 茜, 藻垣友恵, 笹井宣昌, 縣 信秀, 宮津真寿美, 清島大資, 河上敬介, 早川公英
機械刺激の減少に伴う筋線維の形態学的変化 —コスタメアに着目した観察 (理学療法学 33 巻大会特別号 No. 2 2006)
第 41 回日本理学療法学術集会, 2006.5 (前橋)

岩田全広, 早川公英, 村上太郎, 河上敬介, 宮津真寿美, 鈴木重行
周期的一方向伸張刺激による糖の取込み促進には, 筋小胞体からの Ca²⁺の放出が重要である。 (理学療法学 33 巻大会特別号
No. 2 2006)
第 41 回日本理学療法学術集会, 2006.5 (前橋)

笹井宣昌, 縣 信秀, 宮津真寿美, 河上敬介, 早川公英, 小林邦彦

伸張刺激による培養骨格筋細胞肥大の分子メカニズム —Calcineurin/NFAT 経路を抑制しても筋細胞が肥大した— (理学療法学 33 巻大会特別号 No. 2 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

肥田朋子, 鈴木未来, 松居宏樹

傍脊柱筋に対する振動刺激震度の違いが下腿三頭筋 H 反射へ及ぼす影響 (理学療法学 33, Suppl.2, p 390, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

坂野裕洋, 沖田 実, 井上貴行, 鈴木重行

ギブス固定終了後の再荷重によって起こるラットヒラメ筋の筋線維損傷に対する熱刺激の影響 (理学療法学 33, Suppl.2, p 354, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

松田 輝, 田口 徹, 田村良子, 鈴木重行, 水村和枝

加齢によるラット遅発性筋痛 (DOMS) の変化 (理学療法学 33, Suppl.2, p 300, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

井上貴行, 原田裕司, 沖田 実, 鈴木重行

間歇的伸張運動が不動終了後のラットヒラメ筋の筋内膜コラーゲン線維網におよぼす影響 (理学療法学 33, Suppl.2, p 288, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

沖田 実, 井上貴行, 日比野至, 坂野裕洋, 中野治郎, 鈴木重行

関節固定後のラットヒラメ筋のコラーゲン線維に対するストレッチの影響 (理学療法学 33, Suppl.2, p 287, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

有馬征宏, 上田周平, 鈴木重行

骨格筋電気刺激とトレッドミル歩行の血糖降下作用の比較 (理学療法学 33, Suppl.2, p 248, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

矢萩美和, 鈴木重行, 後藤百万

骨盤底筋群の機能評価 健康女性を対象として (理学療法学 33, Suppl.2, p 412, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

岩田全広, 早川公英, 村上太郎, 河上敬介, 宮津真寿美, 鈴木重行

周期的一方伸張刺激による糖の取込み促進には, 筋小胞体からの Ca^{2+} の放出が重要である (理学療法学 33, Suppl.2, p 310, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

森 紀康, 足立 崇, 田中由布子, 中村優希, 赤木咲恵, 田中宏明, 今村康宏, 高木 聖, 鈴木重行

大腿骨頸部骨折術後患者の歩行機能と入院期間の検討 (理学療法学 33, Suppl.2, p 79, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

鈴木勝也, 松田 輝, 三谷祐史, 鈴木重行, 沖田 実

遅発性筋痛 (DOMS) モデルラットの作成と組織学的検討 (理学療法学 33, Suppl.2, p 299, 2006)

第 41 回日本理学療法学会, 2006.5 (前橋)

平澤 純, 岩田全広, 西浜かすり, 鈴木重行

電気刺激による培養骨格筋細胞の肥大は PI3K・mTOR を介して引き起こされる (理学療法学 33, Suppl.2, p310, 2006)
第 41 回日本理学療法学術大会, 2006.5 (前橋)

山田優子, 糸ゆかり, 新美佳子, 山田陽子, 服部友奈, 赤坂佳美, 建木良子, 森奈美佳, 建木 健, 鈴木重行

当院回復期リハビリテーション病棟における「休日リハビリテーション」の取り組み (理学療法学 33, Suppl.2, p354, 2006)
第 41 回日本理学療法学術大会, 2006.5 (前橋)

井上貴行, 原田裕司, 沖田 実, 鈴木重行

不動終了後のラットヒラメ筋のコラーゲン線維に対する間歇的伸張運動の影響 (理学療法の医学的基礎 10(1), 26, 2006)
第 11 回理学療法の医学的基礎研究会学術集会, 2006.5 (前橋)

鈴木 誠, 稲村厚志, 大森圭貢, 山田純生, 笹 益雄

認知症における筋力測定の信頼性と妥当性 (第 40 回日本作業療法学会)
第 40 回日本作業療法学会, 2006.6 (京都)

加藤智香子・猪田邦雄

「転ばん大幸教室」参加による運動機能, QOL の変化 (運動療法と物理療法.17 (2).130.2006.)
第 18 回日本運動器リハ学会, 2006.7 (岡山)

井澤英夫, 室原豊明, 浅野展行, 大島 覚, 西澤孝夫, 磯部 智, 小林正和, 村瀬洋介, 平敷安希博, 山田高資, 海野一雅, 永田浩三, 山田純生, 横田充弘

「CHF リハビリテーションの阻害要因を探る」—心機能の観点から— (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 55, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

平敷安希博, 山田純生, 井澤英夫, 山田高資, 小林正和, 浅野展行, 大島 覚, 永田浩三, 横田光弘

軽度 Parkinson 病の治療中に高度石灰化三枝病変を生じた AMI の 1 症例 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.):90 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

岩津弘太郎, 山田純生

呼吸筋疲労に伴う運動時 1 回換気フロー・ボリューム曲線の変化に関する研究 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 130, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

清水優子, 山田純生, 長谷部武久, 井澤英夫, 大野三良, 加藤林也, 横田充弘

自記式の日中臥床時間評価法は日常生活身体活動量と関連する (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 106, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

安藤貴洋, 山田純生, 岩津弘太郎, 清水優子, 三好都子, 木村 穰

心拍定常負荷試験による新しい運動能力評価法の開発 —妥当性の検討— (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 78, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

田畑 稔, 中川 晋, 宇井 進, 三田村秀雄, 山田純生

入院期心不全リハビリテーションにおける阻害要因の検討 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 56, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

山田純生, 長谷部武久, 井澤英夫, 大宮一人, 大野三良, 加藤林也, 室原豊明, 横田充弘
慢性心不全の不安・抑うつへの運動介入をどうとらえるか (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 57, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

長谷部武久, 山田純生, 井澤英夫, 大野三良, 加藤林也, 横田充弘, 室原豊明
慢性心不全患者における介護, 在宅サービスの利用に関連する要因 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 107, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

鈴木 誠, 山田純生, 清水優子, 岩津弘太郎, 井澤英夫, 室原豊明
慢性心不全患者のための日常生活能力尺度の開発 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 85, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

三好都子, 山田純生, 清水優子, 岩津弘太郎, 井澤英夫, 室原豊明
慢性心不全患者を対象とした疾病管理セルフエフィカシー尺度の開発 (日本心臓リハビリテーション学会誌 11 (Suppl.): 85, 2006)
第 12 回日本心臓リハビリテーション学会, 2006.7 (名古屋)

長牛実樹 河村守雄 加藤智香子
慢性腰痛における水中歩行の効果についての検討
第 9 回岩手県理学療法士学術集会, 2006.9 (八幡平)

岩田全広, 村上太郎, 鈴木重行
周期的伸張刺激による糖の取込み促進は CaMK を介して引き起こされる (体力科学 55 (6), 616, 2006)
第 61 回日本体力医学会大会, 2006.9 (神戸)

井上貴行, 鈴木重行
伸張運動がギブス固定後のラットヒラメ筋におよぼす影響 (体力科学 55 (6), 881, 2006)
第 61 回日本体力医学会大会, 2006.9 (神戸)

加藤智香子, 猪田邦雄, 島岡 清, 柴田優子, 白井利夫
「転ばん大幸教室」参加者の 1 年後の成績 (日本公衆衛生雑誌 53 (10): 761, 2006.)
第 65 回日本公衆衛生学会, 2006.10 (富山)

加藤智香子, 猪田邦雄, 原田 敦, 長屋政博, 徳田治彦
施設入所高齢者の転倒恐怖と QOL, ADL, 身体活動量との関連 (第 3 回転倒予防医学研究会研究集会抄録 p4, 2006.)
転倒予防医学研究会第 3 回研究集会, 2006.10 (東京)

白石成明, 田中紀行, 曾我部知明, 小柳芳樹, 川崎桃子, 中野亜希子, 高森亜沙子, 萩 美希, 坂倉光智, 大倉誉暢, 川村陽一, 鈴木重行
人工透析患者に対する低負荷運動療法の試み (東海北陸理学療法学会誌 p168, 2006)
第 22 回東海北陸理学療法学会, 2006.10 (富士)

山田優子, 小羽正昭, 鈴木重行
当院回復期リハビリテーション病棟における「休日リハビリテーション」の効果について (東海北陸理学療法学会誌 p197, 2006)
第 22 回東海北陸理学療法学会, 2006.10 (富士)

田中由布子, 田中宏明, 森 紀康, 赤木咲恵, 中村優希, 足立 崇, 今村康宏, 高木 聖, 鈴木重行
両側大腿骨近位部骨折患者の歩行能力について (東海北陸理学療法学会誌 p72, 2006)
第 22 回東海北陸理学療法学会, 2006.10 (富士)

YAMADA Sumio, IWATSU Kotaro, SHIMIZU Yuko, MIYOSHI Hiroko, IZAWA Hideo, OONO Miyoshi, KATO Rinya, MUROHARA Toyoaki
Exercise management program for disability prevention in aged patients with chronic heart failure. (Journal of Cardiac Failure12 (8) Suupple, 156, 2006)
第 10 回日本心不全学会学術集会, 2006.10 (東京)

SHIMIZU Yuko, **YAMADA Sumio**, SUZUKI Makoto, IWATSU Kotaro, MIYOSHI Hiroko, IZAWA Hideaki, MUROHARA Toyoaki
Relationship between performance measure for activities of daily living (PMADL) and muscle strength with chronic heart failure (CHF). (Journal of Cardiac Failure12 (8) Suupple, 182, 2006)
第 10 回日本心不全学会学術集会, 2006.10 (東京)

MIYOSHI Hiroko, **YAMADA Sumio**, SHIMIZU Yuko, IWATSU Kotaro, IZAWA Hideaki, MUROHARA Toyoaki
The development of the self-efficacy in disease management in patients with chronic heart failure.
第 10 回日本心不全学会学術集会, 2006.10 (東京)

KIYOSHIMA Daisuke, **KAWAKAMI Keisuke**, TATSUMI Hitoshi, HAYAKAWA Kimihide, SOKABE Masahiro
Molecular mechanism of stretch-induced adhesion of integrin in endothelial cells: involvement of clathrin-dependent endocytosis.
第 5 回東アジア生物物理学シンポジウム・第 44 回日本生物物理学会年会 合同会議, 2006.11 (宜野湾)

渡井陽子, 湯口 聡, 西澤由香利 山内香里, 立木里奈, 伊藤沙夜香, 吉田保子, 石川貴子, 牧野恵理子, 林 歩洋, 林 久恵, 熊田佳孝, 古橋究一, 鳥山高伸, 川原弘久
重症虚血肢における人工炭酸泉足浴開始時の末梢血行動態と切断の有無との関連
第 11 回人工炭酸泉研究会, 2006.11 (東京)

小野純代, 榊原正子, 林 久恵, 加納智美, 宮崎まゆみ, 皆木市子, 中島晴伸, 熊田佳孝, 古橋究一, 堀 浩, 鳥山高伸, 川原弘久
人工炭酸泉足浴による油脂性基材含有軟膏の洗浄効果に関する検討
第 11 回人工炭酸泉研究会, 2006.11 (東京)

〔公開講座・講演会〕

林 久恵
末梢循環障害の理学療法
第 19 回循環器基礎講習会, 2006.10 (名古屋)

猪田邦雄, 加藤智香子
転倒予防について
平成 18 年度なごや健康カレッジ「転ばん大幸教室」, 2006.9 (名古屋)

宮津真寿美
筋萎縮の抑制や筋肥大のメカニズムを考える (エコトピア融合プロジェクト・シンポジウム「高齢社会に対応した人間支援技術に関する統合的研究」抄録集)
2006.3 (名古屋大学)

石田和人
リハビリテーション医療の現場で活躍する理学療法士
平成 18 年度 名古屋大学医学部保健学科公開講座, 2006.10 (名古屋)

石田和人
脳の可塑性について
中枢神経障害勉強会・平成 18 年度第 4 回勉強会, 2006.10 (岩倉)

石田和人
理学療法の科学性・研究
愛知県理学療法士会・新人教育プログラム, 2006.6 (名古屋)

加藤智香子
骨粗鬆症について
平成 17 年度なごや健康カレッジ「転ばん大幸教室」再会教室, 2006.9 (名古屋)

加藤智香子
特定高齢者を対象とした効果的な運動方法について
平成 18 年度通所型委託介護予防事業に係る委託予定事業者研修会, 2006.4 (名古屋)

河上敬介
運動器へのアプローチに必要な筋解剖学
第 18 回鹿児島県作業療法学会, 2006.3 (鹿児島)

河村守雄
腰痛予防運動の展開
2006.11 (名古屋)

河村守雄
骨粗鬆症にうち勝つために (1)
2006.12 (尾張旭)

河村守雄
骨粗鬆症にうち勝つために (2)
2006.12 (尾張旭)

河村守雄
骨粗鬆症にうち勝つために (3)
2006.12 (尾張旭)

山田純生
軽症脳卒中患者における病前運動習慣(能力)と発症リスク要因の関連に関する調査研究
2006.11 (名古屋)

山田純生
高齢者フィットネスの意義と維持・改善方策
2006.11 (名古屋)

山田純生

生活機能向上に対する理学療法技術 理学療法の展開と実践 生命維持機能より (第41回日本理学療法士協会全国学術研修大会特別号)

第41回日本理学療法士協会全国学術研修大会, 2006.10 (長崎)

山田純生

早期退院を目指す入院期看護 — 離床促進の技術と管理—

2006.7 (名古屋)

山田純生

慢性心不全のリハビリテーション介入はどう進めるか?

2006.4 (三重)

山田純生

慢性心不全の障害予防を目的とする多施設共同運動介入研究の紹介

2006.7 (名古屋)

山田純生

理学療法における体力管理 (第41回日本理学療法士協会全国学術研修大会特別号)

第41回日本理学療法士協会全国学術研修大会, 2006.10 (長崎)

作業療法学専攻

5 作業療法学専攻

〔著書〕

鈴木國文

『時代が病むということ—無意識の構造と美術』 日本評論社, 2006. 1冊

鈴木國文

「うつ」の機能と病理

『臨床哲学の諸相 身体・気分・心』(木村 敏, 坂部 恵) 河合文化教育研究所, 2006. pp176-195

〔原著論文〕

HASHIMOTO Akiko, WATANABE Shoko, INUI Koji, **HOSHIYAMA Minoru**, MURASE Shingo, KAKIGI Ryusuke.
Backward-masking: the effect of the duration of the second stimulus on recognition of the first stimulus.
Neuroscience 137: 1427-1437, 2006

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke, TAKESHIMA Yasuyuki, MIKI Kensaku, WATANABE Shoko
Differential priming effects of color-opponent subliminal stimulation on visual magnetic responses.
Hum Brain Mapp 27: 811-818, 2006

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke

Functional changes in cortical components of somatosensory evoked responses by stimulus repetition.
Clin Neurophysiol 59: 149-157, 2006

HOSHIYAMA Minoru, KAKIGI Ryusuke, TAKESHIMA Yasuyuki, MIKI Kensaku, WATANABE Shoko
Priority of face perception during subliminal stimulation using a new color-opponent flicker stimulation.
Neurosci Lett 402: 57-61, 2006

HATTA Takeshi, NAGAHARA Naoko, OKUMURA Miyuki, **ITO Emi**, ITO Yasuhiro, AOKI Kunio
Effect of the use of cigarettes on cognitive achievement in middle and upper middle aged Japanese adults
Psychologia Society 49: 1-9, 2006

美和千尋, 杉村公也, 清水英樹, 伊藤恵美, 森 明子, 寶珠山 稔
スモン患者の転倒調査
総合リハビリテーション 34: 688-692, 2006

伊藤恵美, 八田武志

言語流暢性課題の信頼性と妥当性の検討
神経心理学 22: 146-152, 2006

八田武志, 永原直子, 伊藤恵美, 伊藤宣則, 青木園雄
中高年の運動習慣と認知機能との関連について
人間環境学研究 4: 17-22, 2006

美和千尋, 立松麻記子, 林 昌吾, 岡田祐美

精神科病院における患者の回復過程に応じた作業療法の取り組み
作業療法 25: 256-262, 2006

稲垣良輔, 美和千尋

入浴中の循環動態と体温調節機能の変化を低下させる腰浴ミスト浴
愛知作業療法 14: 48-53, 2006

SHIMIZU Hideki, SAITO Hirofumi, HOSHIYAMA Minoru

Characteristics of processing for trait adjectives in depressive persons: an event-related potential study
Nagoya J med Sci 68: 27-33, 2006

SHIMIZU Hideki, SAITO Hirofumi, HOSHIYAMA Minoru

Cognitive mechanism for the meaning of emotive words in depressed personality: an event-related potential study
Nagoya J med Sci 68: 35-44, 2006

諏訪真美, 鈴木國文

「引きこもり」概念の社会報道と精神医学
思春期青年期精神医学 16: 61-74, 2006

大野佳江, 大饗広之, 西岡和郎, 鈴木國文, 岩田健司

「人が怖い」と繰り返し訴える女性症例
精神科治療学 21: 561-566, 2006

鈴木國文

「不安」を通してみた精神療法の可能性
臨床精神病理 27: 137-145, 2006

鈴木國文・関口裕昭

根源的トラウマと詩の言葉
日本病跡学雑誌 72: 26-34, 2006

津田 均, 諏訪真美, 古橋忠晃, 鶴田和美, 小川豊昭, 杉村和美, 加藤容子, 船津静代, 田中宣秀, 鈴木國文

社会から, 大学から「引きこもり」学生に対する援助の可能性
名古屋大学・名古屋大学学生相談総合センター紀要: 3-14, 2006

早川徳香, 大饗広之, 西岡和郎, 鈴木國文

多彩な特徴をもち, 高機能広汎性発達障害の疑われた成人症例
精神科治療学 21: 789-795, 2006

岩田健司, 大野佳江, 大饗広之, 西岡和郎, 鈴木國文

当初大うつ病と診断された離人症性障害の一例
精神科治療学 21: 441-447, 2006

〔総説・解説・その他〕

鈴木國文

「いま求められる精神科リハビリテーション」特集にあたって
精神科治療学 21: 1-2, 2006

鈴木國文

「青年期の臨床現場でいま何が起きているか」特集にあたって
精神科治療学 21: 1171-1172, 2006

鈴木國文

社会の変化と今日の青年期像
精神科治療学 21: 1173-1182, 2006

〔科研費・班研究等〕

杉村公也, 清水英樹, 伊藤恵美, 森 明子, 美和千尋, 寶珠山 稔
スモン運動障害の継時的変化
厚生科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業)スモンに関する調査研究班平成 17 年度総括・分担研究報告書 93-96, 2006

杉村公也, 美和千尋, 伊藤恵美, 森 明子, 清水英樹, 寶珠山 稔
スモン患者自身による転倒への対処法
厚生科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業)スモンに関する調査研究班平成 17 年度総括・分担研究報告書 109-111, 2006

小長谷陽子, 杉村公也, 田川義勝, 美和千尋, 清水英樹, 小酒部聡江, 縣さおり, 埜口義広, 中川雅弘, 白石成明, 後藤三恵, 川村享平, 鈴木亮子, 相原喜子, 渡辺智之, 藤掛和広
認知症高齢者の Evidence Based Care -ADL 崩壊過程とその対応に関する研究-
平成 17 年度 研究報告書 認知症高齢者の自立支援及び QOL とケアの向上に関する研究事業 1: 147-181, 2006

〔その他の印刷物等〕

伊藤恵美

WFOT 学会印象記
愛知県作業療法士会ニュース: 6, 2006

清水英樹

食事動作に対するリハビリテーションの役割
市民・企業・行政が連携した全市ぐるみの嚥下障害ケアの実践活動の研究 1: 58-62, 2006

〔学会発表〕

小田美咲, 村山直子, 船橋規子, 清水英樹
食事動作における食べこぼしと食事姿勢の関連性～シーティングの有効性～(抄録集 p105, 2006)
全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 平成 17 年度総会・第 7 回研究大会, 2006.2 (高知)

田中紀行, 白石成明, 鈴村恵理, 出口 晃, 浜口 均, 高瀬幸次郎, 川村陽一, 美和千尋, 杉村公也
メタボリックシンドロームに対する温泉療法の試み(症例報告)
第 71 回日本温泉気候物理医学会総会プログラム・抄録集, 2006.5 (札幌)

鈴村恵理, 出口 晃, 浜口 均, 川村陽一, 田中紀行, 白石成明, 川村憲一, 美和千尋, 杉村公也
正常人における全身浴の唾液中分泌型 IgA に及ぼす影響
第 71 回日本温泉気候物理医学会総会プログラム・抄録集, 2006.5 (札幌)

美和千尋, 杉村公也, 白石成明, 田中紀行, 川村陽一, 出口 晃, 毛受雅文, 鈴村恵理
足浴時における片麻痺患者の鼓膜温, 発汗量, 皮膚血流量, 血圧, 心拍数の変化
第 71 回日本温泉気候物理医学会総会プログラム・抄録集, 2006.5 (札幌)

美和千尋, 杉村公也, 清水英樹, 伊藤恵美, 寶珠山 稔
スモン患者の転倒調査
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

岡田祐美, 河村留美香, 表奈津樹, 服部美葵, 美和千尋
ひなが病院における精神障害者に対するパワーリハビリテーションの試み
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

林 昌吾, 美和千尋, 立松麻記子, 岡田祐美
急性期治療病棟における統合失調症患者の作業療法—患者の症状と生理変化との関連—
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

小川祐美子, 石原美奈子, 美和千尋
三重県における精神障害者が利用できる社会資源とデイケア通所者の利用状況
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

立松麻記子, 林 昌吾, 岡田祐美, 美和千尋
当院における救急急性期病棟入院患者の長期化の要因と対応
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

小西一馬, 坂口ユカ, 宮越裕治, 中村未来, 美和千尋
当院の社会復帰病棟における心理教育の実践—他職種の協業を通して—
第 40 回日本作業療法学会抄録集, 2006.6 (京都)

鈴木國文・関口裕昭
「言葉は誰のものか」—根源的トラウマと詩の言葉
第 52 回日本病跡学会シンポジウム, 2006.6 (東京)

ITO Emi, TAMAKI Yoshinori

Burdens and positive appraisal of family caregivers for the elderly with dementia - relation to ADL and behavioral disorder-
14th International Congress of the World Federation of Occupational Therapist CD-ROM 抄録集, 2006.7 (Sydney, Australia)

岩原昭彦, 八田武志, 伊藤恵美, 永原直子
MMSE のスクリーニング検査としての有効性について (予稿集)
第 30 回日本神経心理学会, 2006.9 (名古屋)

伊藤恵美, 八田武志, 永原直子, 岩原昭彦
言語流暢性検査の認知機能検査としての妥当性 (第 30 回日本神経心理学会予稿集)
第 30 回日本神経心理学会, 2006.9 (名古屋)

岩原昭彦, 八田武志, 伊藤恵美, 永原直子
中高年の高次脳機能の低下防止に関する研究(1)—セルフエフィカシーと前頭葉機能との関連について— (学会誌)
第 19 回日本健康心理学会, 2006.9 (京都)

向 文緒

作業療法学生の職業興味と臨床実習上の困難

第 6 回東海北陸作業療法学会誌, 2006.11 (富山)

岩原昭彦, 八田武志, 永原直子, 伊藤恵美

コホート研究による中高年者の高次脳機能と運動機能(4) —転倒セルフ・エフィカシーと前頭葉機能との関連について— (発表論文集)

第 70 回日本心理学会, 2006.11 (福岡)

美和千尋, 重光 茜, 北原由紀子, 河原ゆう子

入浴介助においてミストサウナ利用による介護負担軽減 ～介助者の介助時間, 筋電図, 血圧, 心拍数の変化から考える～

第 6 回北陸作業療法学会誌, 2006.11 (富山)

浅野京子, 小松則登

高機能広汎性発達障害児の手の操作性に対する集団活動の取り組み—学習動作に困難さを持つ症例を通して— (東海北陸作業療法学会誌 6 : p 28, 2006)

第 6 回東海北陸作業療法学会誌, 2006.11 (富山)

〔公開講座・講演会〕

向 文緒

作業活動を通して障害者の生活を支援する作業療法士

平成 18 年度名古屋大学医学部保健学科市民公開講座, 2006.10 (名古屋)

美和千尋

今後の作業療法周辺の動向を見据え, 私たちがしなければいけないこと

第 14 回愛知県作業療法学会誌, 2006.4 (高浜)

編集後記

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報第10巻を発刊しました。第10巻には平成18年度（2006年度）の各専攻の教育・研究活動の報告と保健学科の公開講座、2006年（1月から12月）の各教員の教育・研究業績を掲載しました。

第1巻から第10巻までの研究・業績は以下の通りです。

	第1巻	第2巻	第3巻	第4巻	第5巻	第6巻	第7巻	第8巻	第9巻	第10巻
	(1997年)	(1998年)	(1999年)	(2000年)	(2001年)	(2002年)	(2003年)	(2004年)	(2005年)	(2006年)
著書	17	39	55	56	38	33	74	70	90	100
原著論文	58	123	141	163	137	175	138	156	153	219
総説・解説・その他	64	61	92	106	58	76	81	39	98	100
科研費・班研究	6	12	10	26	23	19	28	27	30	34
その他印刷物等	10	14	26	18	13	9	20	20	11	18
学会発表	115	173	252	268	246	287	341	376	380	380
公開講座・講演会	45	73	96	102	70	72	86	99	85	78
計	315	495	672	739	585	671	768	787	847	929

平成18年度に保健学科は大学院博士課程修了者（学位授与者）をはじめて送り出しました。このような状況を反映してか、2005年と比べると2006年ではほとんどの分野で業績数が増加しました。著書、原著論文、科研費・班研究等は過去最大の業績数となりました。

昨年度から教育・研究年報の冊子版を中止し電子媒体だけで発刊することになり、本年度も同じスタイルで編集・発刊しました。本年報が自己評価の一つの指標となり、教育・研究のさらなる発展に寄与できるように期待します。

最後に、本年報の編集作業に携わっていただいた保健学情報掛の職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月
年報編集委員長 長瀬文彦

年報編集委員

看護学専攻	吉田久美子
放射線技術学専攻	小山修司
検査技術学専攻	長瀬文彦
理学療法学専攻	加藤智香子
作業療法学専攻	辛島千恵子

名古屋大学医学部保健学科教育・研究年報 第10巻

2008年3月15日 発行

発 行 名古屋大学医学部保健学科

〒461 8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

TEL(052)719 1504

印 刷 (株)荒川印刷

〒460 0012 名古屋市中区千代田二丁目16番38号

TEL(052)262 1006 (代表)
